

国立国語研究所学術情報リポジトリ

日本語でだいじょうぶ 解説書

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所日本語教育教材開発室 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003129

日本語教育映像教材 初級編
日本語でだいじょうぶ

解 説 書

国立国語研究所

日本語教育映像教材 初級編
日本語でだいじょうぶ
解説書

国立国語研究所

刊行のことば

国立国語研究所日本語教育センターでは、外国人に対する日本語教育に役立てるため、平成5年度から7年度に、ビデオ教材『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」』全4ユニットを作成しました。この『解説書』を含む関連教材シリーズは、そのビデオ本体を有効に利用するための資料として発行するものです。

『解説書』は、この教材を利用した学習を指導する方が授業設計の際に利用するため、映像に描かれた伝達行動や事物の記述、各場面で展開する談話の構造の記述などをおさめたものです。

この『解説書』の編集は、次の者が担当しました。

中道真木男（国立国語研究所日本語教育センター日本語教育教材開発室長）
能波由佳（国立国語研究所日本語教育センター日本語教育教材開発室研究員）
杉山ますよ（大東文化大学非常勤講師）

本書が視聴覚教育のための資料として有効に活用されることを期待します。

平成12年3月

国立国語研究所長

甲斐睦朗

「日本語でだいじょうぶ」

解説書

〈 目 次 〉

『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」』の使用法について	1
資料	5
『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」』	
各ユニットの概要およびユニット別セグメント一覧	6
『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」』	
ストーリー別セグメント一覧および主な登場人物	8
単位方略一覧	12
関連資料	14
教授者用シナリオ	15
凡例	17
(ユニット1) セグメント 1	19
セグメント 3	25
セグメント 5	31
セグメント 7	37
セグメント 9	41
セグメント 11	47
セグメント 13	52
セグメント 15	56
セグメント 17	60
セグメント 19	64
セグメント 21	68
セグメント 23	73
セグメント 25	77
セグメント 27	81
セグメント 29	85
セグメント 31	89
セグメント 33	94
セグメント 35	98
セグメント 37	103
セグメント 39	107
セグメント 22	71
セグメント 24	75
セグメント 26	78
セグメント 28	83
セグメント 30	87
セグメント 32	92
セグメント 34	96
セグメント 36	100
セグメント 38	105
セグメント 40	109
『日本語教育映像教材初級編』作成関係者	112

『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」』の使用法について

『日本語教育映像教材 初級編「日本語でだいじょうぶ」』が主に想定する用途は、先に刊行した『シナリオ集』の解説に記したとおり、次の3点である。

- (1) 言語構造に関する知識を実際の言語使用場面の中で確認すること。
- (2) さまざまな場面状況の中でことばがどんな働きをするかを知ること。
- (3) ことばの運用を含めた適切な対人行動の例を観察すること。

映像をこのような学習に利用するためには、次の二つのことが必要になる。

- (a) そのときどきの学習に関連するさまざまな言語形式、ことばが用いられる場面と、そこでのことばの機能、言語的・非言語的行動の実際の姿などを、映像の随所から検索すること
- (b) 検索された情報を学習計画にしたがって配置し、学習者に提示すること

上記(b)に関しては、機器の使用を含む技術的な対応が必要になる。お使いになる方々の機器環境、知識などに応じて工夫していただきたい。

本書を含む『初級編』関連教材シリーズは、主に上記(a)のために作成されている。

『シナリオ集』には、教材の概要に関する解説と学習者が使用するためのシナリオとが掲載されている。ここで一つひとつのせりふに付された文番号が、他の関連教材でも一貫して用いられている。

『語彙表』には、言語形式の出現箇所が文脈とともに示されている。

それらに続く本書『解説書』は、主に以下の2種の情報を検索するための資料として作成された。

1. 非言語行動および映像中に見られる事物

発話が伝達する内容は、シナリオの文字情報で表される言語形式だけでなく、音調・表情・動作などの随伴的要素によっても多くが表される。登場人物が持っていたり周囲にある物、さらに、登場人物の位置関係・移動なども大きな役割を果たす。

本書中「教授者用シナリオ」のト書きで、話し手、聞き手その他の参加者の非言語行動が詳しく記述されている。これらは、市販のビデオテープに同梱のシナリオに含まれている情報をさらに補充したものである。なお、これらは、『シナリオ集』の「学習者用シナリオ」では、最低限必要なものを除き省略されている。

2. 「単位方略」と談話の構造

「教授者用シナリオ」には、談話の骨格を作る主なせりふに対して、その発話が談話中で担う役割が書きこまれている。これらは、その場面でのタスクを遂行するために踏まなければならぬ個々の手順である「単位方略（タクティクス）」の種別を表している。

課題（タスク）と談話

一般に、ある場面で実現される目標である「課題（タスク）」は、その時、その場面で、その人との間で遂行される一回限りのことがらである。そのタスクを達成するためにする行動は、電話ボックスに入つて電話帳をめくり番号を探すように、ことばによるインターアクションを伴わない行動、あるいは、寒い部屋を暖めるためにストーブをつけるように、ことばをまったく含まない行動として現れることもあるが、語学学習が主に対象とするタスクは、他者とことばを交わすことによって遂行されるものである。他者とのことばを用いたインターアクションによるタスクの遂行は、一連の発話の連なり、つまり、談話として観察される。

単位方略（タクティクス）

あるタスクが一回限りのことがらである以上、その遂行過程で現れる談話も、その場面限りの個別的な手段であつて、同じものは二度と現れないことになる。しかし、日常生活で遂行されるタスクの多くは繰り返し経験されると感じられることがらであり、その遂行に用いられる談話は、毎回ある程度似通った構造を持っている。たとえば、「デートに誘う」というタスクを遂行する談話の基本的な構造は、相手の都合を尋ねる「情報提供の要求」、いつしょに行こうと誘う「勧誘」、なぜそこがいいかを述べる「事情の説明」、時間と場所を提案する「提案の提示」などによって構成される。場合によつては、前回遅れたことをわびる「陳謝の表明」や、行き先の場所にまつわるおもしろい話を教える「情報の叙述」などが臨時に挿入されることもある。

一般に、あるタスクを遂行するための談話は上記のようないくつかの構成要素に分解して考えることができ、それらの要素は、社会習慣としてだれもが繰り返し用いるある程度一定した伝達様式と考えることができる。これら、談話の構成要素となる伝達手段を「単位方略（タクティクス）」と呼ぶことにする。

単位方略（タクティクス）の種類と配列

上述のように、ある種類のタスクを遂行するための談話の基本的な姿は、いくつかの必須のタクティクスをある典型的な順序で配列することによって構成されると考えることができる。しかし、現実に現れる談話のほとんどは、その基本的な姿とは異なるものである。状況によって、必須のタクティクスのうちのあるものが省略されたり、臨時のタクティクスが付け加えられたりすることがある。また、タクティクスの配列順序も、状況によって大きく変わりうる。

したがつて、タスクの種別ごとに典型的な構造を示して、「依頼」をする時は、このこととこのこととを、この順序で言わばいい、といった学習をすることは危険であるかもしれない。しかし、「依頼」をする時に言わなければならないだらうことがらには、少なくとも「依頼の内容」「そのことが必要な事情」「その相手に頼む理由」「相手に負担をかけることに対するわび」「具体的なやり方に関する打ち合せ」といったものがあり、この順で説明すれば多くの場合うまくいくという意識を持ってその場面に臨めば、頼むことがらの性質によって一部を省略したり、相手が質問してきたらそれに応える形で順序を入れ替えたりすることが容易になると期待できる。学習者にとって、談話の基本構造を意識することが有効な場合は多いと考えられる。学習者のレベルや性向に応じて、そうした学習を設計することが望まれる。

単位方略の実現形態

また、ある種類のタクティクスはさまざまなかたちで実現することができ、実現の形態は、状況や参加者の能力などによって、いくつかの言語的または非言語的な選択肢の中から選択される。たとえば、他人の発言が終わるまで発言を控えるように求める「行為の制止」は、「チョット待ッテ」などのことばでも、手のひらを相手に向けて突き出す等の非言語的手段でも実現することができる。また、デートに誘う「勧誘」の実際の形は、「コノ間ノ店サ、行ッテミヨウヨ／行カナ

イカ」「コノ間ノ店、ヨサソウダヨネ／オイシインダッテ」「コノ間ノ店、行キタイッテ言ッテタヨネ」といったさまざまな選択肢の中から、場面・相手や話し手の個性によって選ばれる。日本語力のレベルが低く、「行キマショウ」の形しか知らない話し手であれば、その形のみが選択肢となる。

伝達行動の学習

したがって、ある種のタスクに対処する方法を学習しようとする場合、その種の場面の一例を提示し、そこで観察される談話の言語形式を丸暗記するといったやり方が効果を上げないだろうことは容易に推測される。

実際の場面で伝達行動が行えるためには、まず、さまざまな種類の談話をどのようなタクティクスで構成すればよいかを知り、場面に応じて適切な談話を構成できること、第二に、そこで用いられるそれぞれのタクティクスを実現する形態としてどんなものが適当であるのかを知り、自分が習得している選択肢の中から最適なものが選択できるようになる必要がある。その際、言語形式だけでなく、音調が表す意味・ニュアンス、表情・動作が与える印象などにも留意するならば、言語形式に関する知識の制約を超えた理解力・表現力を発揮することができる。そのような意識を持った上で、できるだけ多くの談話を観察し、自らも参加の経験を積むことによって、学習を進めていくことになる。

『初級編』は、こうした考え方に基づき、各種の談話がどんなタクティクスから構成されるか、それぞれのタクティクスはどんな言語的／非言語的手段によって実現されるか、それらの手段の使い分けの基準は何か等を学習することを最も主な目的として作成された。ある種のタスクを遂行する場面が、ユニットをこえるいくつかのセグメントに分散して配置されているので、学習の中で取り上げようとする項目を教材全体の中から検索し、比較しながら提示したり、場合によっては他の教材や生の映像等とも組み合わせて使用することが想定されている。こうした補充の素材として、国立国語研究所がすでに作成している映像教材を始めとする他の映像も利用することができるだろう。

また、検索する事項として語彙・文法的項目を選択すれば、文法シラバスに沿った学習の素材として使用することができる。あるいは、言語形式を分析せずに扱い、「決まり文句」的に場面状況と結びつけていくことによって、サバイバルレベルの学習にも利用できる。映像に描かれた事物をきっかけとして文化的事項の学習に発展させることも可能である。映像情報の多重性を利用してさまざまな学習に利用することを試みられるよう希望する。

資 料

『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ』

各ユニットの概要およびユニット別セグメント一覧

ユニット 1 よろしくお願ひします

主に、接觸の開始、特に、初めての相手との接觸の開始のしかた、互いに関する基本的な情報の求め方・与え方、親しくなるための談話などを描く。

談話を開始するときには、何のためにコミュニケーションを始めるのか、何を求めるようとするのかを、できるだけ早く明らかにする必要がある。それによって、相手は、談話の展開を予測し、安心して応じることができる。また、頼むときにはおずおずと、制止するときにはきっぱりとといったように、開始時の態度にも、適切なものが要求される。コミュニケーションの成功のために、接觸の開始は非常に重要なポイントである。

接觸を始めるためには、相手の注意を引く、用件を切り出す、事情や経緯を説明する、といった手順が必要になる。また、初対面の相手であれば、話を始める意志表示をし、自分が何者であるかを明らかにする、といった手順が必要になる。談話開始の後に行われる情報のやりとりも、用談の場合と交話的談話の場合とで、その内容は異なる。

このユニットでは、そのようなさまざまな手順として、どのような言語的・非言語的伝達手段が用いられるかが、さまざまな場面、さまざまな人間関係の中で描かれている。

セグメント タイトル	所属ストーリー	セグメント タイトル	所属ストーリー
1 遅刻 一尋ねるー	[I (a)]	6 ぼくがおごりますー親しくなるー	[II (b)]
2 新しい友達 ーお礼を言うー	[II (a)]	7 私の町	[映像素材(a)]
3 忙しい一日 ー指示するー	[III (a)]	8 待ち合わせ ーおしゃべりー	[I (c)]
4 日本ははじめてですー紹介するー	[I (b)]	9 プチトマト！ ー買物ー	[II (c)]
5 この次は来月 ー約束するー	[III (b)]	10 お魚はちょっとーいつしょに作るー	[II (d)]

ユニット 2 よくわかりました

あるタスクを遂行するために必要な情報の求め方・教え方や、事情を話して相談し、解決方法を決めるやりかたといった「情報」のやりとりに重点を置く。

ある情報を相手に伝えること、また、なにかを相手に尋ねて情報を得ることは、言語使用の最も基本的なはたらきのひとつである。しかし、問題になるのは常にやりとりされる情報の内容であるとは限らない。中には、単にことばを交わすことに重点のあるいわゆる「交話的」な場面もあって、その場合、情報内容を目的とした談話とは、おのずから伝達の態度が変わってくる。このユニットでは、まず、交話的機能を目的とするのではなく、つまり、情報内容が問題である場合の談話運用を学習する。

情報の伝達、また、情報の要求は、普通、何らかの目的があって行われる。「あなたは中国茶が好きですか」といきなり聞かれれば、相手はとまどい、「ええ、好きですけど、どうして?」とか「余計なお世話でしょ」といった反応になるかもしれない。何のためにそんなことを言うのか、何のために尋ねるのかは、早い段階で明らかにする必要がある。また、情報伝達の目的が依頼や謝罪であるなら低姿勢で、注意を与えることなら厳しい態度でというように、適切な話しぶりを最初から選択することも必要である。伝える内容をわかりやすく順序立てることが必要であることは、言うまでもない。

このユニットでは、そのような観点から、さまざまな場面における情報のやりとりの例を描いた。

セグメント タイトル	所属ストーリー	セグメント タイトル	所属ストーリー
1 1 川で ー出会いー	[IV (a)]	1 6 よくわかりませんーあきらめるー	[II (f)]
1 2 船に乗ってみますかー案内するー	[III (c)]	1 7 それでOK！ ー説明するー	[III (e)]
1 3 お茶にしますーアドバイスー	[II (e)]	1 8 就職 ー様子をきくー	[IV (b)]
1 4 お礼状？ ー教わるー	[I (d)]	1 9 校外学習 ー話し合うー	[I (e)]
1 5 実は…… ー報告するー	[III (d)]	2 0 花火	[映像素材(b)]

ユニット 3 とてもいいですね

伝えるべき内容をことばで的確に言い表わすこと、聞き手やその場の状況に応じて、適切なやり方で情報を配列すること、そのために用いることばを適切に使い分けること、周囲の状況に応じて、ことばだけでなく、総合的なコミュニケーションのやり方を調節することなど、「待遇行動」としての伝達行動を取り上げる。

ある情報を伝えようとする時は、その内容を相手がすでに知っているかどうか、その内容が相手にとってどんな意味を持つか、といったことに配慮しなければならない。「先生は外国へ行ってしまうん

「です」のような形は、相手がそのことを知らないと予測する場合に用い、「ねえ、これ、ガラスでしょ？」という形は、相手にその知識があると予想することを表す。

逆に、質問して情報を引き出そうとする時には、自分にどこまでの知識があつて、知りたい情報はどこからなのかを表示することが有効である。「これは振り袖っていうんですか？」という質問は、振り袖以外の着物の種類についてさらに教えてくれるよう要求する時に用いることができる。

また、多少複雑な内容を聞き出すような場合、何段階かに分けて順次尋ねていく談話構造を意識することも必要になる。相手がどんな本を探しているのかを尋ねるには、何に関する本か、貿易についてなら、その品目についてか手段についてか、日本語の本でいいか、候補をあげて、それでいいか、といった順に尋ねていくことによって、効率の良い伝達を行うことができる。

さらに、原稿を読んでくれるよう頼まれて、その分野の知識が無いとか自分の原稿で忙しいということによって断つたり、図書館の本を閲覧室で読むかときかれて、時間がないと述べることで、借りていく意志を伝えたりするように、相手との摩擦を避ける間接的な表現での意思表示にも触れておくことが必要だろう。

こうした相手の状態に対する配慮の典型的な表れが、いわゆる「待遇表現」の使い分けである。ウチ／ソトによる敬語の使い分けなどは、その代表的な例だが、そうした敬語の専用語彙や言い回しだけでなく、上に触れたようなさまざまな表現行動が、全体として相手に対する配慮を反映し、結局は相手をどのように「待遇」するかを表すことに注意が必要である。

もとより、言語形式や非言語行動の中にこのような対人的な配慮を反映させることは、ユニット1で扱われた伝達行動開始の方法の例やユニット2での情報内容の叙述形式の選択例の中にも観察される。

セグメント タイトル	所属ストーリー	セグメント タイトル	所属ストーリー
2 1 海の底 一ことばで表す－	[II (g)]	2 6 ふりそで 一教わる－	[I (h)]
2 2 少々お待ちください－応接－	[III (f)]	2 7 ソトかウチか 一敬語－	[III (g)]
2 3 これはどうですか 一相談する－	[I (f)]	2 8 お祝いです－贈り物－	[IV (d)]
2 4 静かに！ 一うわさ話－	[I (g)]	2 9 私の原稿は 一行き違ひ－	[II (h)]
2 5 卒業コンサート [IV (c)・映像素材(c)]		3 0 さよならですか 一伝える－	[IV (e)]

ユニット 4 また会いましょう

意志・感情・希望など、自分の感情を表現するためのさまざまなやり方や、相手が表出した感情や希望を受けて、共感を示したり、場合によっては共感しない気持ちを表したりすることを学習する。すなわち、自分が伝えることがらに対する評価、相手が述べた内容に対する評価、相手に対する配慮を伴って表現することなどを扱う。

ニュースを読むアナウンサーは、どんなに悲しいニュースでも、どんなに腹立たしいニュースでも、冷静に無表情に読むことを要求される。ほほえましい話題の場合は、少しだけほほえみを浮かべることが許されるようだが、基本的に、自分の口から出る情報に対する自分の感情や評価を表すことが禁じられている。しかし、一般人の日常のコミュニケーションでは、そのような没感情な伝達態度は非常に不自然なものと言える。自分にとってよいことはうれしそうに、悪いことは残念そうに言うのが自然であり、また、相手にとってよいことはうれしそうに、良くないことは同情を込めて話すのが、礼儀とも言える。けがをした恋人が早く回復した時に「よかった、早くよくなっつ」と言うには笑顔がふさわしく、亡くなった先生について「おいくつでしたっけ」と尋ねるには、沈痛な調子が選ばれなければならない。このように、適切な音調や表情を用いて情報内容に対する態度を表現することも、わかりやすく効果的な伝達のために不可欠の技能である。

こうした主観的な表現は、必要な情報をやり取りする「用談」よりも、交話的な談話においてより必要であり有効である。ユニット4で扱われている発話の多くは、必要な情報を述べる「情報の提供」ではなく、必ずしも必要でない情報を共感を求めながら伝達する「情報の叙述」である。こうした「おしゃべり」の談話を生き生きと自然に運用することは、実は、学習者が日本語の使用を通じて良好な人間関係を築くために非常に重要な能力で、日本語の話すことばの学習の中でも、重点的に扱われるべきである。

セグメント タイトル	所属ストーリー	セグメント タイトル	所属ストーリー
3 1 うまく書けました 一筆で書く－	[I (i)]	3 6 インタビュー 一聞き手と話し手－	[I (j)]
3 2 お通夜 一気持ちを表す－	[II (i)]	3 7 まだ痛いですか－お見舞い－	[IV (g)]
3 3 いやだよねえ 一あいづち－	[III (h)]	3 8 夢なんですか－希望を述べる－	[II (j)]
3 4 すれ違い 一事情を話す－	[IV (f)]	3 9 決めました－決意を述べる－	[II (k)]
3 5 子供部屋 [映像素材(d)]		4 0 これからも…… 一退院－	[IV (h)]

『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」』

ストーリー別セグメント一覧および主な登場人物

ストーリー I 勉強 日本語学校の学生・張と仲間たちの学生生活を軸に、いろいろなエピソードが展開する。ことばや文化に関するやりとりが多く現れる。

主な登場人物

ちょうぎょくへい 20歳前後の中国人女性。日本語学校学生。ユニット4では、東京都内の大学に進学し
張 玉萍 ている。

パチャリー・ラタナーウン 20歳前後のタイ人女性。日本語学校学生。張の同級生。ユニット4では、東京都内の大学に進学している。

ミーチャ 20歳前後のロシア人男性。日本語学校学生。張の同級生。ユニット4では、東京都内の大学に進学している。

後藤紀子 40歳前後の女性。日本語学校の教師。張たちのクラスを担当している。

武田芳子 20代なかばの女性。会社勤め。張の保証人の娘。

武田妙子 50歳前後の女性。張の保証人の妻。武田芳子の母。

(ユニット1) 張は、大学受験の準備のために日本語学校に通う就学生。担任は、後藤先生で、同級生にパチャリーらがいる。来日の際に保証人を引き受けてくれた武田氏の娘・芳子とは、たびたび会ってショッピングなどを楽しむ仲。

セグメント1 遅刻一尋ねる— 11月中旬の月曜日。学校に遅れそうな張は、急いで駅に向かうが、見知らぬ女性に道をきかれ、貴重な時間を取られてしまう。駅の通路に来ると、発車のベルが聞こえる。あわてて階段を駆け上ると、ベルは隣のホーム。こちらのホームには電車が停車中。乗り込み、アナウンスを聞くと、この電車は方向違いで、しかも特急。乗り合わせた乗客に教わって乗り換えるが、遅刻。教室では、同級生たちが「冬休みの旅行」の作文を書きはじめていた。

セグメント4 日本はじめてです一紹介する— 11月下旬になって、張のクラスに新しい学生クレイグが加わった。質問攻めにする同級生たち。その日、パチャリーは気分が悪く、授業を抜けて医務室へ。

セグメント8 待ち合わせ一おしゃべり— 12月中旬の日曜日。いつしょにショッピングにでかける約束をした張と芳子は、喫茶店で待ち合わせ。歩きながら正月の予定など、おしゃべりに興じる。

(ユニット2) 張の日本語学校生活は、2年目に入っている。

セグメント14 お礼状?一教わる— 9月のはじめ。張は、保証人の武田家を訪ね、夏休みに旅行で行った信楽のみやげを渡す。世話になった知人に礼状を出すように言われ、書き方についてアドバイスを受ける。

セグメント19 校外学習一話し合う— 10月中旬の水曜日。校外学習の計画について、クラスで話し合う。今年から同級生になったミーチャが、日光へ行くことを主張。張たちは、その提案に反論。パチャリーは水族館見学を提案する。

(ユニット3) 大学の入学試験を間近に控えた張たちは、受験勉強に忙しい。

セグメント23 これはどうですか一相談する— 2月のある日。日本とアジアとの貿易について調べている張は、図書館の相談係に相談し、何冊かの参考書を紹介してもらう。

セグメント24 静かに!一うわさ話— 2月中旬のある日。張とパチャリーが図書館で勉強していると、ミーチャが入ってきて、後藤先生が突然外国へ行ってしまうとのこと。卒業まで後藤先生に教えてもらえると思っていた3人にはショック。大声を出すミーチャを図書館から連れ出し、パチャリーの発案で、送別会の相談をする。

セグメント26 ふりそで一教わる— 3月上旬のある日。大学への入学が決まり、日本語学校の卒業を間近に控えた張とパチャリーは、卒業パーティーで着る振り袖を選ぶため、芳子といつしょに貸衣装店を訪ねる。

(ユニット4) 張、パチャリー、ミーチャは、それぞれ別の大学に進学している。

セグメント31 うまく書けました一筆で書く— 9月初めの休日。書道を習う張、パチャリー、ミーチャ。

セグメント36 インタビュー一聞き手と話し手— 9月中旬の日曜日。張、パチャリー、ミーチャ、芳子の4人は、ハイキングに出かけ、川原でバーベキューをしている。3人に大学生活について尋ねる芳子。

ストーリーⅡ 友達 留学生の王とその友人・山田、朴の付き合いを軸として展開するストーリー。親しい間柄での言語使用が中心となる。

主な登場人物

おうすりょう 王 崇梁	20代後半の中国人男性。南海大学研究生。ユニット2からは大学院生。教育行政専攻。
山田康浩	20代なかばの男性。南海大学国語学科の助手。
ぱくへふあん 朴 海煥	20代なかばの韓国人男性。南海大学大学院生。教育学専攻。王の先輩。
小川明美	29代前半の女性。大野中央病院の看護婦。山田のガールフレンド。
荒木智恵子	40代後半の女性。王のホームステイ先の主婦。東京都内の私立高校で社会科の非常勤講師をしている。

(ユニット1) 王は、来春大学院を受験するため、11月に来日、南海大学の研究生になったばかり。偶然、同じ南海大学国語学科助手の山田と知り合い、山田のガールフレンド・小川や大学院の先輩・朴らを交えて付き合うようになる。

2 新しい友達 ーお礼を言うー 11月中旬の月曜日の朝。いつもとは違うルートで大学へ行こうとした王は、バスに乗るが、小銭の持ち合わせがなく、困ってしまう。その時バス代を出してくれた山田は、同じ南海大学の助手だった。互いのことを話すうち、親しくなっていく。

6 ぼくがおぎります ー親しくなるー ボーナスをもらった山田は、王をてんぷら屋に招待。ガールフレンドの小川を紹介する。王は、近いうちに中華料理を作つてごちそうすると約束。

9 プチトマト！ ー買物ー 12月中旬の金曜日。先日約束した中華料理パーティーのため、王、朴、山田、小川の4人は材料を買いに出かける。王と小川は八百屋で買い物。そこへ、手みやげを買いに行つた朴と山田が合流。そろってスーパーへ。買い物込んだ材料を持って、一同は、王のホームステイ先、荒木家へ。お母さんの出迎えを受ける。

10 お魚はちょっとーいっしょに作るー セグメント9の続き。料理をする一同。荒木家の娘、純子も学校から帰ってきて加わる。やがて、豪華な中華料理が完成。

(ユニット2) 王は、無事に大学院に入学。山田の研究室にもしばしば訪ねてきている。

13 お茶にします ーアドバイサーー 9月上旬の水曜日。王は、山田の研究室を訪れ、話している。国語学科の3年生が入ってきて、後期の授業のとり方について、山田のアドバイスを求める。

16 よくわかりません ーあきらめるー 9月中旬の日曜日。修士論文の執筆にかかっている朴は、ハングルの使えるワープロを探しに電器店へ。店員の勧める機種は朴の希望に合わない。結局ワープロでは無理なようだが、パソコンについての店員の説明は要領を得ず、朴は見切りをつけて立ち去る。

(ユニット3) 王の大学院生活1年目は、終わりに近づいている。

21 海の底 ーことばで表すー 王、朴、山田、小川の4人は、水族館を訪れ、あれこれと見て回る。

29 私の原稿は ー行き違いー 3月中旬の金曜日夕刻。王は、教育学部の論文集に出す論文を見てくれるよう山田に頼む。自分も原稿を書かなければならぬ山田は、読み始めるのが翌週の火曜になると遠回しに断るが、火曜までに見てもらえるのだと思った王は、原稿を預けて行つてしまう。王の原稿の締切日は翌週水曜。火曜の夕方になってようやく行き違いがわかり、二人は気まずい思いのまま別れる。

(ユニット4) 王は大学院修士課程の2年目。朴は、修士課程を終え、博士課程の1年目に入っている。

32 お通夜 ー気持ちを表すー 9月初めのある日。早朝、まだ眠っている王に、朴から電話がかかり、二人が指導を受けている内田助教授が突然亡くなつたとのしらせ。通夜の焼香に訪れた山田は、手伝いを申し出、セグメント29で気まずい別れ方をして以来、久しぶりに王とことばを交わす。問題の王の原稿は、印刷の途中で内田先生が直してくださつたとのこと。指導教官を失つた朴は途方に暮れる。

38 夢なんです ー希望を述べるー 9月下旬の木曜日。内田先生の葬儀から半月ほどたつてゐる。大学へ来た山田は王に出会い、後ほど研究室へ来るよう誘う。

39 決めました ー決意を述べるー セグメント38の後、夕刻。研究室で待つてゐる山田に王から電話。大学近くのスナック‘エスポワール’へ行くと、朴と王がいる。朴は、新しい指導教官を求めてアメリカへ行くことにしたといふ。

ストーリーIII 仕事 大学留学生のエレンたちが、アルバイト先の会社で経験するさまざまな場面を描く。改まった対人行動が要求される場面が中心となる。

主な登場人物

エレン・ソウザ 20歳前後のブラジル人女性。東京都内の大学の留学生。ヤングトラベルで長期アルバイトをしている

サイモン・マッコイ 20歳前後のオーストラリア人男性。東京都内の大学の留学生。ヤングトラベルで長期アルバイトをしている。

クラウディア・ロッシ 20歳前後のイタリア人女性。東京都内の大学の留学生。ヤングトラベルで長期アルバイトをしている。

谷山治男 40代の男性。ヤングトラベル企画課長。

池田洋子 30代なかばの女性。ヤングトラベル企画課員。谷山の部下

江口 徹 20代後半の男性。ヤングトラベル企画課員。谷山の部下。池田の後輩。

(ユニット1) サイモンとエレンは、大学留学生。旅行会社ヤングトラベルの企画課で長期アルバイトとして働いている。企画課の課長は谷山。その部下に池田、江口らがいる。

3 忙しい一日 一指示する 11月中旬の水曜日。始業時間にはまだ間がある。のんびりと出勤してきたサイモンだが、オフィスでは、課長以下一同が猛烈に仕事中。急な仕事が入ったとのこと。さっそく大量の作業を命じられてしまう。遅れてきた江口に仕事の報告を求めたり、作業の指示を出したりする谷山。午後4時すぎになって、ようやく作業は終わったが、ちょっとお茶を飲んで、まだまだ仕事は続くらしい。

5 この次は来月 約束する 11月下旬の水曜日。谷山と池田は、ある県の観光旅館組合役員・伊原と用談。次回の約束をして送り出す。一人オフィスに残った江口は、ガールフレンドの桜井にこっそりと私用電話。エレンは、取引先との打ち合わせ日程を谷山に相談。電話をかけるが、相手は不在。留守番電話にメッセージを入れる。

(ユニット2) エレンは、ヤングトラベルでアルバイトを続けている。最近、クラウディアが仲間に加わった。

12 船に乗ってみますか 案内する 9月上旬のある日。池田は、日帰り旅行プランの下見のため、クラウディアを連れて‘東京ベイトピア’へ来ている。

15 実は…… 報告する 9月中旬の金曜日。ファックスが届き、予約してあった徳島のホテルから、予約金が期日までに支払われなかったので、キャンセルとみなすとの連絡。担当の江口は、あわてて連絡をとるが、部屋はもう空いていない。おそるおそる課長の谷山に報告。ホテルは、池田が見つけてくれた高松に変更となる。

17 それでOK! 説明する 9月中旬のある日の昼休み。エレンが一人オフィスに残って弁当を食べようとしていると、バス会社、浅野交通へ打ち合せを行っている江口から電話。ファックスで浅野交通に資料を送るように言われる。ファックスを使ったことがないエレンは、原稿のセットのしかたをまちがえてしまう。

(ユニット3) ヤングトラベルでアルバイトを続けるエレンとクラウディア。

22 少々お待ちください 応接 2月中旬のある日。今日は、池田が外出していて不在。社内総務課の社員は、明日出なおすと言って帰っていく。取引先サクラツアーズの山内には、江口がかわって応対。課長の谷山が不在の間に、行きつけの飲み屋のおかみから電話がかかる。

27 ソトかウチか 敬語 3月中旬のある日。昼休みが終わろうとするころ、企画課が所属する販売促進部の部長が突然やってきて、エレンに谷山課長の所在を尋ねる。自分と谷山と部長との関係がわからず、だれにどう敬語を使うべきか迷うエレン。クラウディアといっしょに、居合わせた池田に聞いただす。

(ユニット4) ヤングトラベルでアルバイトを続けるエレンとクラウディア。

33 いやだよねえ あいづち ヤングトラベルでアルバイトをしているエレンとクラウディアが、仕事のことなどを話し合う。

ストーリーIV 恋人 卒業・就職を控えた大学4年生の深沢と3年生の亜紀子との出会いから再会までを描く。主観的な内容の表現を中心に取り上げる。

主な登場人物

村井亜紀子 20歳前後の女性。西北大学3年生。ユニット4では4年生。

深沢良昭 20代前半の男性。板橋経済大学4年生。ユニット3で札幌にある広告会社・道南情報に就職し、札幌に赴任する。大学在学中は民謡研究会に所属し、民謡歌手を目指していた。

宮田 愛 20歳前後の女性。板橋経済大学1年生。ユニット4では2年生。民謡研究会で深沢の後輩。

(ユニット 2) 亜紀子は、西北大学3年生。板橋経済大学4年生の深沢と知り合い、付き合いはじめる。深沢は、大学の民謡研究会に入っていて、ひそかにプロの歌手をめざしているが、その一方で、卒業を前に就職活動中。北海道に本社のある広告会社・道南情報から内定をもらっている。

11 川で一出会い 9月下旬の土曜日の朝。自転車で近くのコンビニエンスストアまで買い物に出た亜紀子は、通りかかった川原で「津軽山唄」の練習をする深沢を見かける。深沢は、この川原のボート乗り場でアルバイト中。夕方になって、川原へスケッチに出かけた亜紀子は、深沢と初めてことばを交わす。

18 就職 一様子をきく 10月中旬の金曜日の夕方。川での出会いの後、深沢と亜紀子は何度かデートを重ね、恋人として付き合っている。内定先の道南情報の東京支店に顔を出してきた深沢は、デートの約束をした亜紀子を待っている。やや遅れて亜紀子が現れ、レストランで食事。亜紀子は、民謡歌手をあきらめようとする深沢に少々不満。それに、北海道の会社に就職したら、二人の付き合いはどうなるのか。

(ユニット 3) 深沢は、大学を卒業して社会人に。就職先の本社は札幌だが、東京支店にいられるのか。深沢と亜紀子は不安な日々を過ごす。

25 卒業コンサート [兼・映像素材] 3月初めの金曜日夕刻。板橋経済大学民謡研究会は、卒業生の最後のステージとして演奏会を開く。深沢の演奏を聞くため駆けつける亜紀子。深沢の歌う「南部牛追唄」に聞き入る亜紀子の目に、雪解けから早春に向かう山野の風景が浮かぶ。映像素材として作られたセグメント。

28 お祝いで一贈り物 3月中旬のある日。深沢に卒業祝いを渡そうと、亜紀子は、民謡研究会の部室前で待っている。なんと言って渡そうか考える亜紀子の前に、突然、深沢の後輩の1年生、宮田が現れ、無遠慮に二人のことを尋ねる。やがて現れた深沢にプレゼントを渡す亜紀子。

30 さよならですか 一伝える 新学年に入った4月上旬のある日。深沢は道南情報に就職し、東京支店で研修中。亜紀子は、4年生に進級。深沢の退社時に待ち合わせた公園で、深沢は任地が札幌に決まったことを告げる。不安を隠せない亜紀子。数日後、任地に出発する深沢を、亜紀子は空港の片隅から見送る。

(ユニット 4) 深沢の北海道赴任以来、めったに会うことのできない深沢と亜紀子。

34 すれ違い 一事情を話す 9月中旬のある日。深沢の東京出張を利用してデートの約束をした二人。待ち合わせ場所は、ショッピングモールの1階だが、地下1階から吹き抜けの広場があり、一見、地下1階が1階に見える。深沢は地下1階で待ち、その上の1階で待つ亜紀子に気付かない。あきらめて帰ろうとする亜紀子を見かけた深沢は、後を追う。大声で呼ぶが、イヤホーンで激しい音楽を聞いている亜紀子の耳には届かない。亜紀子を追って道に飛び出した深沢は、車にはねられる。

37 まだ痛いですか 一お見舞い セグメント34の事故の翌々日。けがをした深沢は、入院中。大学の民謡研究会の友達から聞きつけた宮田が見舞いに来る。続いて、昨夜、深沢からの電話でようやく事情を知った亜紀子もやってくる。

40 これからも……一退院 9月下旬。事故から2週間ほどたって、深沢の退院の日。車で迎えに来た亜紀子は、東京と北海道に離れてても信じていると、気持ちを告げる。

映像素材 映像に現れる事物の視覚像そのものを利用して、それらを言語化したり、そこから得た情報に基づいて教室活動を展開することを意図して作成された。

(ユニット 1) 7 私の町 12月中旬の雨が降る寒い日。荒木家の飼いネコ「僕」は、1週間ほど家をあけ遊び歩いていたが、今日は、仕事から帰ってくる「お母さん（ストーリーIIに登場する王のホームステイ先の主婦・荒木智恵子）」を駅で待ち受け、こっそり後をつけることにした。「僕」を探しながら家へ向かうお母さん。玄関の前まで来たところで、ニャーとひと声。

(ユニット 2) 20 花火 9月中旬のある夜。バイクで旅行中の青年は、道に迷い、一軒の寺に泊めてもらう。その夜、女の子が現れ、二人は花火をする。翌朝、寺の仏壇を見ると、そこに昨夜の女の子の写真。

(ユニット 3) 25 卒業コンサート [兼・ストーリーIV(c)] 3月はじめの金曜日夕刻。板橋経済大学民謡研究会卒業演奏会。深沢の歌う「南部牛追唄」に聞き入る亜紀子の目に浮かぶ早春の山野の風景。

(ユニット 4) 35 子供部屋 ストーリーIIIに登場する池田洋子の家。夜8時すぎ。もう寝なければならないのに、男の子は、マンガを読んで起きている。セグメント20に登場した女の子の幽霊が現れ、男の子に気づいてもらおうと、いろいろないたずらをする。

単位方略一覧

本書の「教授者用シナリオ」に付されている単位方略（タクティクス）のラベルは、先に刊行した国立国語研究所 1994『日本語教育映像教材 中級編 関連教材「伝えあうことば」4 機能一覧表』（大蔵省印刷局）第2部「談話構造一覧表」に準拠している。この考え方に関するさらに詳しい解説は、上掲書を参照されたい。同書では、下表のようなタクティクス種別を立て、談話中の各発話のはたらきを記述した。

下表中、※は相手からの働きかけに応じて現れる種類のタクティクスであることを示す。

1. 話し手の外に情報源や根拠のある確定的・客観的な情報の受け渡しに関するもの
1. 1. 情報内容に主な関心を置くもの 1.1.1. 情報の提供（相手にとって必要または有用な未知の情報を伝える） 1.1.2. 事実の指摘（相手にとって既知、または客観的な事実を述べ、考慮に入れるよう求める） 1.1.3. 事情の説明（行為や決定の背景・条件として考慮されるべきことがらへの言及） 1.1.4. 説明の要求（主な情報に対して背景・条件となることがらに関する情報の要求） 1.1.5. ※情報提供への注目表示（情報を提供されたことへの認識を示す）
1. 2. 情報の主観的な意味付けに重点を置くもの 1.2.1. 情報の叙述（相手にとって必ずしも必要でない情報に言及し理解や共感を期待する） 1.2.2. ※情報叙述への共感（相手が述べた内容に対する理解・共感の表明） 1.2.3. 冗談（ことばの形や内容のおもしろさを目的とする発言）
1. 3. 情報を求めるに関するもの 1.3.1. 情報提供の要求（自分にとって未知の情報を与えるよう求める） 1.3.2. 情報叙述の要求（相手に関する必ずしも必要でない情報を求め、関心を示す） 1.3.3. ※情報要求への注目表示（情報を要求されたことへの認識を示す） 1.3.4. ※情報要求への拒絶（要求された情報を提供しないことを示す）
1. 4. 自分から情報内容を示し、その当否を尋ねるもの 1.4.1. 情報確認の要求（自分が提示する情報が正しいことを認めるよう求める） 1.4.2. ※情報の確認（確認の要求に対する肯定の答え） 1.4.3. ※情報の訂正（確認の要求に対する否定の答え）
2. 感想・意見など、論理的判断に基づく主観的内容の表明に関するもの
2. 1. 見解を自分が表明することに関するもの 2.1.1. 感想の叙述（事態に対して感じたことを述べ、理解や共感を求める） 2.1.2. 評価の表明（事態の好ましさについての評価・満足／不満などを述べる） 2.1.3. 困惑の表明（事態について当惑・疑念などを感じていることを述べる） 2.1.4. 見解の表明（問題になっていることがらに対処する方法などについて自分の判断を述べる）
2. 2. 相手が表明する見解に関するもの 2.2.1. ※見解への同意（相手が表明した認識や感想に同意し共感する） 2.2.2. ※見解への不同意（相手が表明した見解に反対する） 2.2.3. ※見解への注目表示（相手が表明した評価や意見を受信したこと示す） 2.2.4. ※見解表明の要求（評価や意見を述べるよう求める） 2.2.5. ※見解確認の要求（表明した見解が間違いないことを認めるよう求める） 2.2.6. ※見解の確認（見解確認の要求に対する肯定の答え）
3. 感情など論理的判断を経ない主観的内容の表明に関するもの
3. 1. 自分が感情を表明することに関するもの 3.1.1. 感謝の表明（相手から受けた利益について感謝を述べる） 3.1.2. 陳謝の表明（自己に責任のあることがらについて陳謝する） 3.1.3. 配慮の表明（相手に対する配慮・好意の表明） 3.1.4. 祝意の表明（相手の上に起こった喜ばしいことに祝いを述べる）
3. 2. 相手が表明する感情に関するもの 3.2.1. ※感情への注目表示（相手の感情表明を受信したこと示す）
4. 行為を行う意志および行わせる希望の表明に関するもの
4. 1. 意志・希望を表明することに関するもの 4.1.1. 意志の表明（自分が実現しようとする決意や心づもりを述べる） 4.1.2. 意向の表明（他者に実現を進めようとする希望や選択内容、好みなどを述べる）
4. 2. 相手が表明する意志・希望に関するもの 4.2.1. ※意向表明への注目表示（相手が表明した意志・意向を受信したこと示す） 4.2.2. ※意向への了解（相手が表明した意志・意向の内容への了承） 4.2.3. ※意向への不同意（相手が表明した意志・意向の内容への不満の表明） 4.2.4. ※意向表明の要求（相手の意志・意向を尋ねる） 4.2.5. ※意向確認の要求（表明した意志・意向が間違いないことを認めるよう求める） 4.2.6. ※意向の確認（意向確認の要求に対する肯定の答え）

5. 自ら行為を行う提案に関するもの
5. 1. 相手の利益になる行為に関するもの 5.1.1. 行為の申し出（相手の利益になる行為をすることを申し出る） 5.1.2. ※申し出の受諾（自分の利益になる行為をする申し出を受け入れる） 5.1.3. ※申し出の拒絶（行為の申し出を断る）
5. 2. 自分の利益になる行為に関するもの 5.2.1. 許可の要求（自分の利益になる行為をすることの了解を求める） 5.2.2. ※許可要求への了承（相手が行為をすることを了承する）
6. 行為・行動を他者に求めることに関するもの
6. 1. 行為を要求することに関するもの 6.1.1. 行為の指示（なんらかの権限・根拠をもって行為を要求する） 6.1.2. 行為の依頼（依頼する内容を示し、相手の反応を待つ） 6.1.3. 行為の勧め（相手の利益になる行為をするよう勧める） 6.1.4. 提案の提示（方針などの内容を提案し、相手の反応を待つ） 6.1.5. 勧誘（自分とともに行為をするよう勧める）
6. 2. 相手が要求する行為に関するもの 6.2.1. ※要求への注目表示（相手の行為要求を受信したことを見せる） 6.2.2. ※要求への了解（相手からの行為要求を承諾する） 6.2.3. ※要求への拒絶（相手からの行為要求を断る） 6.2.4. ※要求内容提示の要求（行為要求の内容を明らかにするよう求める） 6.2.5. ※要求内容確認の要求（行為要求の内容を確認するよう求める） 6.2.6. ※要求内容の確認（行為要求の内容確認の要求に対する肯定の答え）
6. 3. 行為の要求に対する相手の反応に関するもの 6.3.1. 受諾の要求（行為の要求・申し出を受け入れるよう求める） 6.3.2. 行為要求の撤回（自分が先に行なった行為要求をあきらめ撤回する）
7. その場で現に行われている行為に関するもの
7. 1. 自分が行う行為に関するもの 7.1.1. 行為の合図（行為に伴って発することばやあいさつ）
7. 2. 相手が行う行為に関するもの 7.2.1. 行為への注目表示（相手が行う行為を認識したことを見せる） 7.2.2. 行為のうながし（その場で行なうことが当然である行為をするよう相手に求める） 7.2.3. 行為の制止（相手がしようとする行為をしないよう求める）
8. 談話の運用に関するもの
8. 1. 接触自体の開始・終了に関するもの 8.1.1. 接触の開始（コミュニケーションを開始する） 8.1.2. 接触の終了（コミュニケーションを終わらせる） 8.1.3. 接触の再開（先に中断したコミュニケーションを再び開始する） 8.1.4. 接触の中斷（後に再開する意志をもってコミュニケーションを中断する） 8.1.5. ※接触開始の受け入れ（相手の働きかけに応じてコミュニケーションを開始する） 8.1.6. ※接触終了の受け入れ（相手の働きかけに応じてコミュニケーションを終了する）
8. 2. 接触の途中での話題の転換等に関するもの 8.2.1. 話題の開始（話題を転換して新たな話題に入る、または談話の本題に入る） 8.2.2. 話題の収束（そこまでの話の結論を出す、またはその話題についての話を終了させる） 8.2.3. 話順の保持（話順を相手に渡さない、または話題を継続する意志表示のための発話） 8.2.4. ※話題開始の受け入れ（相手の働きかけに応じて新たな話題に入る） 8.2.5. ※話題収束の受け入れ（相手の働きかけに応じて話題を収束させる）
8. 3. 接触を通じての決着内容に関するもの 8.3.1. 結論の確認（その接触の中で決着した内容を再度確認する） 8.3.2. ※結論確認への同意（確認された決着内容に異議がないことを表明する） 8.3.3. ※結論確認の要求（その接触の中で決着した内容を再度認めるよう求める）

関連資料

国立国語研究所監修・編集の既存教材・参考図書として、以下のものがある。

『日本語教育映画基礎編（略称「基礎編」）』（1974～1983） 映像本体 ビデオテープ／16ミリフィルム（各巻5～7分；全30巻） 機能一覧表
補助教材『シナリオ集』（1985）『総合語彙表』（1986）『総合文型表』（1987）『れんしゅうちょう』（1985）『教師用マニュアル』（1985）

『日本語教育映像教材中級編（略称「中級編」）』（1986～1989） 映像本体 ビデオテープ（各セグメント5～8分；全4ユニット[24セグメント]） 関連教材『伝えあうことば』1 シナリオ集（1990）2 語彙表（1990）3 映像解説書（1992）4 機能一覧表（1993）

『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」（略称「初級編」）』（1993～1997）
映像本体 ビデオテープ（各セグメント3分；全4ユニット[40セグメント]） 関連教材『シナリオ集』（1996）『語彙表』（1997）（以下企画中）

※上記のうち『中級編』関連教材「伝えあうことば」のみ大蔵省印刷局刊。他は日本シネセル株式会社刊。

視聴覚教育に関するその他の活動

▽ 「日本語教育映画ワークショップ」（1986年開催）

[報告書：国立国語研究所 1987『映像教材による教育の現状と可能性

—日本語教育映画ワークショップ報告』日本シネセル株式会社刊]

▽ 「視聴覚教材フォーラム」（1990年開催）

[報告書：『視聴覚教材フォーラム記録』（内部資料）]

「視聴覚教材フォーラム 2」（1994年開催）

「視聴覚教材フォーラム 3」（1996年開催）

[報告書：『視聴覚教材フォーラム 3 記録』（内部資料）]

「視聴覚教材フォーラム 4」（1997年開催）

[報告書：『視聴覚教材フォーラム 4 記録』（内部資料）]

「視聴覚教材フォーラム 5」（1999年開催）[報告書作成中]

▽ 「映像教材の利用に関するアンケート」（1989年実施）

[報告書：『映像教材の利用に関するアンケート結果報告書』（内部資料）]

「映像教材の利用に関するアンケート[予備調査]」（1997年実施）

[結果取りまとめ中]

▽ 「映像教材モニター」（1991年実施）[報告書：『映像教材モニター報告』（内部資料）]

「映像教材モニター」（1996～98年実施）[報告書作成中]

▽ 「初級編検討会」（1998年以降継続中）[報告の形態は検討中]

※内部資料については、コピーの提供が可能である。

教授者用シナリオ

〈凡　例〉

教授者用シナリオには、以下の情報が含まれている。

◆ セグメントタイトル・所属ストーリー・登場人物

例) セグメント6より

セグメント6 ぼくがおごります 一親しくなるー (ストーリーII「友達」(b))

登場人物	王崇梁	山田康浩	小川明美	てんぷら屋店員
	てんぷら屋の客たち			

◇登場人物には、せりふのない者を含め、そのセグメントの画面に登場する人物をあげる。各人物の設定については、「ストーリー別セグメント一覧および主な登場人物」(8~11ページ)を参照のこと。

◆ 場面設定

例) セグメント8より

場面(1) (時) 12月中旬の日曜、午後2時ごろ。(場所) 喫茶店の店内。(設定) 張玉萍は、20歳前後の中国人女性。東京の日本語学校に通う就学生。武田芳子は、20代なかばの女性。張の保証人の娘。張とは親しく付き合っていて、この日、いっしょに買い物に行くため、喫茶店で待ち合わせをしている。芳子は、張を待つ間、友達に手紙を書いている。約束の時間を少し過ぎている。

◇(時)に季節・日時等、(場所)に場所、(設定)に登場人物や状況設定、経緯などを記す。

◆ 時間表示

例) セグメント11より

00'00" 土手の斜面は草の生えた砂地。土手の向こうに数本の木。晴れ。亞紀子、土手の上を自転車で走ってくる。川の方を見ると、深沢、岸近くで柔軟体操をしている。亞紀子、そのまま走りすぎ、ジョギング中の男女とすれ違って土手の下の道を走っていく。向こうの鉄橋を渡っていく電車。画面、ワイプ。

例) セグメント21より

01'46" 画面, 泳いでくるサメ。

朴(声のみ) -034 【情報提供の要求】あ,あれ,日本語で何と言いますか。

◇各ユニットごとに、ユニットのテーマ音楽が終わり最初のセグメントのテーマ音楽が始まる時点（ユニットタイトル画面の「日本語にほんご」の地の表紙がめくれ白地にセグメントタイトルが出る時点）を起点（00'00'）として、ユニットの最後までを通して計時してある。なお、使用するビデオデッキごとに若干のずれがありうるので、この表示は目安として利用していただきたい。

◆発話者・文番号・単位方略種別・せりふ内容・非言語行動等

例) セグメント3より

07'20" 画面, 繁華街の通り。立ち並ぶビル, さまざまな看板, 車で混雑する道路。画面, 午後1時37分を指す時計。画面, ヤングトラベル企画課オフィス。谷山, 部屋全体を見回しながら, デスクに座っているサイモンの正面に近づく。

谷山 -033 【情報提供の要求】さてと, (サイモンの手元のパンフレットの東を指す)それは,
もうできた?

サイモン (両手でパンフレットの東をデスクの上に立てたまま, 顔を上げ, 谷山を見る) -034
【情報の提供】はい, できました。

◇発話者は、谷山 サイモン のようにゴシックで示す。

◇-033などの文番号は、セグメントごとの通し番号で、『シナリオ集』と一致している。

◇【情報提供の要求】【情報の提供】などは、その発話が担う単位方略としてのはたらきのうち、最も主要なものを示す。発話は、複数の単位方略としての機能を担うことがしばしばあるが、ここでは、最も顕著であると考えられるものだけが示されている。

◇原則として、画面転換、登場人物の移動など、せりふに伴わない非言語的行動等に関する情報は独立した行として記し、せりふに伴う動作や発話中に起こる行動などは、(サイモンの手元のパンフレットの東を指す)のようにせりふ中に斜体で示す。

ユニット 1 よろしくお願ひします

セグメント 1 遅刻 —尋ねる—

(ストーリーI 「勉強」(a))

登場人物 張玉萍 おばさん 車掌（アナウンス） 乗客
後藤紀子 学生たち

場面(1) (時) 11月中旬の月曜日、朝。(場所) 東京23区内の住宅地。駅への道。(設定) 張玉萍は、20歳前後の中国人女性。東京の府中にある日本語学校に通う就学生。この日、寝過ごしたため、急いで学校へ行こうとしている。通りすがりの60歳前後のおばさん、知人の家へ行こうとして、電話で聞いた道順のメモを見ているが、目印の赤松小学校が見つからず、張を呼び止める。

00' 05'' 冬の弱々しい朝日。学校へ向かう張、急ぎ足に歩き、時おり小走りになりながらやって来る。和服を着てめがねをかけた初老の女性、メモを手に、迷っている。

おばさん (張を見つけ、会釈をしながら少し息を切らし声をかける) -001 【接觸の開始】すみません。(張、立ち止まり、おばさんを見る) -002 【情報提供の要求】あかまつしようはどこですか。

張 (驚く) -003 あかまつしよう、ですか。

おばさん (せき込んで) -004 ええ、ええ。

張 (首をかしげ、あたりを見回す) -005 さあ。

おばさん -006 この辺なんんですけどねえ。(首をかしげ、あたりを見回す)

00' 27'' (画面、信号機 下に「赤松小学校前」の表示。背景に青空。信号が青に変わる)

張 (声のみ) -007 【情報確認の要求】あ、小学校ですか。

おばさん (勢い込んで) -008 【情報の確認】ええ、ええ、赤松小。

(画面、張とおばさん)

張 -009 【情報の提供】ああ、それじゃあ、(学校への道に曲がる角の方を見て左手で指し)あの角を右に曲がって、……

(画面、路地の曲がり角。そばに電柱があり、その下に黒いゴミ袋が置いてある)

おばさん (声のみ) -010 【情報確認の要求】あのごみのところですか。

張 -011 【情報の確認】はい、そうです。

(画面、張とおばさん)

張 (手のひらを動かして示す) -012 【情報の提供】少し行って、左側にあります。(おばさんを見る)

おばさん (張を見る) -013 はい。-014 【感謝の表明・接觸の終了】ありがとうございます。(丁寧に頭を下げる)

00'43" 張、軽く会釈して小走りに立ち去る。おばさん、反対の方向へ歩きだす。

場面(2) (時)後刻。(場所)23区内周辺部のターミナル駅。地下通路からホーム。(設定)張は、いつも利用するホームで発車ベルが鳴っていると思い、地下道をかけてくるが、ホームに出てみると、ベルは隣のホームのもの。いつものホームに止まっている電車に乗るが、いつもより遅い時刻だったため、その電車は橋本行きの特急だった。

00'44" 地下通路を行き交う乗客たち。発車のベルが鳴っている。張、走ってくる。階段をかけ上がってホームに出る。ホームの上にもかなりの数の乗客たち。張、足をゆるめ、ホームに到着している電車に乗り込む。電車のドアが閉まる。

場面(3) (時)後刻。(場所)張が乗りこんだ特急電車の車内。(設定)張の学校がある府中へは、八王子方面行きに乗らなければならない。八王子方面と橋本方面とは調布で分岐する。張がアナウンスを聞いたのは、調布を過ぎた時。特急なので、途中は京王多摩センターにしか止まらない。すでに9時台で、電車は下り方面のため、それほど混んでいない。張が話しかけた乗客は、30代後半の男性。新聞を読みながらヘッドホンステレオを聞いているため、周囲の音があまり耳に入らない。

00'56" 走りだした電車の車内。席を埋めた乗客たち。ところどころに立っている乗客。張、ドア脇の席に座っている。

アナウンス (若い男性車掌の声) -015 毎度ご利用くださいまして、ありがとうございます。
-016 この電車は、特急橋本ゆきです。-017 次は、京王多摩センターに止まります。
-018 京王多摩センターの次は、終点橋本です。

01'08" 張、アナウンスを聞いて目を上げ、立ち上がり、向かい側のドアに近づき、ドアの上の路線図を見上げる。あたりを見回す。ドア脇の席に座って新聞を読んでいる乗客。張、乗客の前に立って話しかける。

01'15" **張** (上体を乗客の方にやや傾け) -019 **【接触の開始】**あのう……,
乗客 (気配を感じて、ヘッドホンステレオのイヤホーンを右だけ外し、張を見上げる) -020 はい?

張 (路線図をちらっと見て指さし、乗客に視線を戻し) -021 **【情報提供の要求】**次は、どこに止まりますか。

乗客 (路線図の方を見上げ、右ひじを手すりにかける) -022 ああ、次ですか。(窓の外など見回して) -023 **【情報の提供】**ええ、(張を見る) 多摩センターでしょう。

張 (不審そうな表情) -024 **【情報確認の要求】**たません……。

乗客 (張の顔をしっかりと見ながらはつきりと) -025 **【情報の確認】**京王多摩センターです。

張 -026 **【情報提供の要求】**府中は、止まりませんか。

乗客 -027 [情報の提供] あ、府中は方向が違いますよ。(右手人差し指で左の方を指し、路線図の方を見上げて) -028 ええと、調布で乗り換えですね。(張を見て頭を少し傾ける)
張 (乗客を見てうなずく) -029 調布ですね。-030 [感謝の表明・接触の終了] どうもありがとうございました。(頭を軽く下げる。乗客、張を見て少しほほえむ)
(画面、走る電車)

場面(4) (時)後刻、10時すぎ。**(場所)**張が通う日本語学校の教室。**(設定)**授業が始まっている。1時間目は作文の時間。冬休みの旅行の計画について短い作文を書き、発表してディスカッションをする予定で、学生たち、それぞれ書いている。担当教師の後藤紀子は、40歳前後の女性。

01'42" 画面、10時7分を指す時計。画面、教室。正面の黒板中央に「冬休みの旅行」、左端に「忘年会」などの板書。10人ほどの学生たち、座って作文を書いている。後藤、教卓のところに立ち、学生たちを見回している。入り口の引き戸が開き、張、息を切らしながら、そっと入ってくる。後藤と学生たち、張を見る。

張 (軽く頭を下げ、小さな声で) -031 [接触の開始・陳謝の表明] すみません……。
後藤 (張を見てほほえみながら軽くにらみ) -032 [説明の要求] 張さん、どうしたんですか。
張 (後ろ手にドアを閉めながら) -033 [事情の説明] あのう、電車を間違えて……。
後藤 -034 ああ、そうですか。-035 それは大変でしたね。

02'09" 張、席に着く。後藤、張に近づいて原稿用紙を渡し、教卓の向こうにもどる。張、ショルダーバッグを開ける。

セグメント 2 新しい友達 ーお札を言うー

(ストーリーII「友達」(a))

登場人物 王崇梁 山田康浩 バスの運転手

場面(1) (時) 11月中旬、月曜の午前10時半ごろ。**(場所)** 東京郊外の大通りにあるバス停留所。**(設定)** 王崇梁は、20代後半の中国人男性。10月に来日して南海大学の研究生になり、翌春の大学院入学をめざしている。南海大学は東京郊外にあり、いくつかの行き方があるが、この日、王は、所用を済ませてから、いつもと違い、私鉄からバスに乗り継ぐルートで行こうとしている。バスの停留所は、丘の上の駅から下の通に出たところにある。山田康浩は、20代なかばの男性。南海大学国語学科の助手。いつもの通勤ルートで大学へ行くため、バスを待ちながら専攻分野に関係のある文学作品の文庫本を読んでいる。

02' 26" 王、駅から続く階段を降りてくる。大通りに出て、左右を見る。左の方にバスの停留所を見つけ、近づく。バス停に並んで待つ数人の乗客。停留所のポストに「上落合」「行先 下小山田日大三高」等の表示。王、ポストの時刻表、路線図等を見る。列の先頭で文庫本を読んでいる山田。

02' 50" 王 (かすかに頭を下げながら山田に話しかける) -001 **[接触の開始]** あのう、……。

山田 (目を上げ王を見る) -002 はい。

王 (バス停の時刻表を見ながら) -003 **[情報提供の要求]** すいません、このバスは南海大学へ行きますか。(山田を見る)

山田 -004 **[情報の提供]** あ、た、よんにいという行きます。

王 (上目づかに宙を見て不審そうに) -005 **[説明の要求]** た、ですか。(山田を見る)

山田 -006 **[事情の説明]** あ、あの、(右の人差し指で空中に書いてみせる。王、山田の指先を見ている) 多いという字です。

王 -007 あ、(うなずき、バス停ポストの表示を見上げる) 多42ですか。

(画面、バス停ポストに表示された「多42」の路線番号。画面、王と山田)

王 -008 **[感謝の表明・接触の終了]** どうもありがとうございます。(頭を下げる)

03' 07" 王、バス停ポストから離れ、列の最後尾に回って並び、道の右の方を見てから左腕の時計を見る。

場面(2) (時) 数分後。**(場所)** 同じバス停留所。**(設定)** バスの運転手は、50歳前後の男性。

03' 16" 画面、バス前面の行先表示「福祉センター経由 多42」「下小山田」。停留所に止まるバス。ドアが開き、客たち、順番に乗り込む。このバスに乗らない何人かは、ポスト脇によけて後の客を通す。王、小銭入れの中をのぞきながらバスに乗り込んでくる。画面、王の小銭入れの中。画面、王。王、小銭がないことに気づき、運転席の後ろによけて後の客を通しながら入れを開ける。定期を見せて乗り込む若い女性客。王、千円札もないのに、一万円札を出す。

03' 39" 王 (運転席の後ろから一万円札を差し出す) -009 [接触の開始・行為の依頼] あのう、すいません、おつり、ありますか。

運転手 (困った調子) -010 [要求への拒絶] 無いですね。 -011 細かいのありませんか。

王 (首をかしげ、すまなそうな調子で) -012 はあ、これしか無いんですけど。

運転手 (首にかけたマイクのスイッチを操作し、運転席上の鏡を見ながら車内放送で) -013 [行為の依頼] どなたか、1万円、細かくしていただけませんか。

03' 54" 画面、バス車内。座席に座っている10人前後の乗客。何人かは財布を出し、中を調べる。中ほどの席に座っていた山田、まわりの乗客たちを見回し、立ち上がって車内前方に出てくる。画面、王の前に立つ山田。王、軽く頭を下げる。山田、右手の指で小銭をつまみ、王に差し出す。

山田 -014 [行為の申し出] あのう、これ、よかつたらどうぞ。

王 (山田と小銭を見比べる) -015 えつ、でも……。

山田 (小銭を持った右手を王に少し近づけ) -016 いえ、いいですから。 -017 どうぞ。

王 (小銭を見てすまなそうに) -018 [申し出の受諾] そうですか。 -019 ジャア。(右手のひらで受け取り、山田を見る) -020 [感謝の表明] ありがとうございます。(頭を下げる)

山田 -021 いいえ。

(王、小銭を料金箱に入れる。バスのクラクション。画面、閉じるバスのドア。走りだすバス)

04' 20" 画面、後方から見たバス車内。王、右手で天井の手すりにつかりながら車内を後方へ歩く。席に戻っている山田の前に立ち、ややかがみ込んで話しかける。

王 -022 [感謝の表明] どうもありがとうございました。(頭を下げる) -023 助かりました。

山田 (目を上げ王を見る) -024 いいえ、いいんですよ。(少し左に寄って席を空け、視線で王に席を勧める。王、座る)

王 (山田を見る) -025 [情報提供の要求] あのう、いつもこのバスですか。

山田 (王を見てうなづく) -026 [情報の提供] ええ、まあ。

王 (頭を少し後ろへそらす) -027 あ、そうですか。 -028 [意志の表明] ジャア、今度、お金を……。

山田 (王を見る) -029 いいですよ、もう。 -030 気にしないでください。

王 (首を少しかしげまっすぐ前を見る) -031 でも、そんな……。(山田、ひざの上に視線を落とす)

04' 48" 画面，走るバス。画面，王と山田。

山田 (やや上目づかいで王を見る) -032 [情報提供の要求] あのう，南海大学の方ですか。

王 (一瞬，間。視線を落とし，再び山田を見る) -033 [情報の提供] ええ，今月から研究生になりました。

山田 -034 そうですか。-035 [情報の提供] 私も，南海で助手をしてるんですよ。

王 (驚いた表情で頭を後ろにそらす) -036 えっ，そうですか。

山田 (うなずく) -037 ええ。(目を伏せ，再び王を見る) -038 [情報の提供] 国語学科の山田と言います。

王 -039 国語ですか。-040 [情報の提供] わたくし，教育行政の王と申します。(頭を下げる)

山田 -041 じゃ，隣の建物だ。-042 [行為の勧め] 今度，遊びに来てくださいよ。

王 (軽く頭を下げる) -043 [要求への了解] はい，ぜひ。-044 バス代を持って。

山田 (笑顔で上体を後ろへそらしてから，視線を落とす) -045 あ，いや，それはもういいですよ。(やや上目づかいで王を見て，少し小声で) -046 [情報提供の要求] 失礼ですけど，お国は？

王 -047 [情報の提供] 中国です。

山田 -048 そうですか。(自分の正面を見る) -049 研究生ですか。(王を見る) -050 [情報提供の要求] 来年は，大学院を受けるんですか。

王 (うなずく) -051 [情報の提供] はい，そのつもりです。

山田 -052 [情報提供の要求] 教育行政って，どんなことするんですか？

05' 38" 画面，前方から見たバス車内。まぶしく射し込む朝日。二人，そのまま話している。

セグメント 3 忙しい一日 －指示する－

(ストーリーIII「仕事」(a))

登場人物 サイモン・マッコイ エレン・ソウザ
谷山治男 池田洋子 江口徹 社員たち

場面(1) (時) 11月中旬の水曜、朝8時40分ごろ。(場所) オフィスビルの中にある旅行社・ヤングトラベルの入り口から企画課のオフィス。(設定) サイモン・マッコイは、20歳前後のオーストラリア人男性。ヤングトラベルで長期アルバイトをしている。谷山治男は、40代の男性。ヤングトラベル企画課長。池田洋子は、30歳代なかばの女性。ヤングトラベル企画課の社員。谷山の部下。ヤングトラベルの勤務時間は午前9時からだが、この日、急な仕事が入り、出勤してきた者は、時間前から仕事にかかっている。納入された企画旅行のパンフレットにスタンプを押して代理店に発想する作業は、本来アルバイトの仕事だが、サイモンが出勤してくるまで、池田が進めていた。

05' 49'' ヤングトラベルのオフィス入り口。社名とロゴマークの入ったボード。サイモン、出勤してくる。画面、8時40分を指す時計。画面、企画課オフィスに入り、驚いて口を開けるサイモン。室内ではすでに一同が忙しげに働いている。手前のデスクを囲んで立ったまま紙類を整理している池田、エレン、男性社員二人。奥のデスクで話す男女の社員。サイモン、一呼吸おいてから頭を下げ、あいさつする。

サイモン (やや大声で一同に) -001 [接触の開始] おはようございます。

一同 (顔を上げてサイモンを見る) -002 おはようございます。

(サイモン、池田の左に立つ。谷山、エレンの右に来て、左にいる男性社員に書類を渡し、サイモンを見る)

谷山 -003 [接触の開始] ああ、サイモン君。

サイモン (谷山に頭を下げる) -004 おはようございます。

谷山 (サイモンに軽く会釈) -005 おはよう。(池田を見て) -006 [行為の指示] ええと、
池田さん、(池田、谷山を見る) それはね、サイモン君に頼んで。-007 で、池田さんは
DMのリストを調べてよ。

池田 (うなずく) -008 はい。(サイモンに) -009 [話題の開始] ジャ、サイモンさん。

サイモン (池田を見てうなずく) -010 はい。

池田 (パンフレットの束を見せながら) -011 [事情の説明] このパンフレット、急いで送
ることになったんですよ。

サイモン -012 はい。

池田 -013 [行為の指示] まず、(デスクにパンフレットの束を置き、1枚目を裏返し、下の方の空欄にスタンプを押すまねをして見せる) ここにこのスタンプを押してください。

サイモン (うなずく) -014 はい。(パンフレットを指さす) -015 [説明の要求] これ、ど
のくらいあるんですか。

池田 -016 [事情の説明] ええと、700部だったかなあ。(ほほえみながら) -017 [接触
の終了] がんばってね。(立ち去る)

サイモン (力なく) -018 はあい。

06'36" サイモン、うんざりした顔。画面、ワイプ。

場面(2) (時)後刻、9時9分すぎ。(場所)ヤングトラベル企画課オフィス。(設定)江口徹は、20代後半の男性。ヤングトラベル企画課の社員。谷山の部下。池田の後輩。ふだん、9時すぎに出勤してくる。いつもなら何も言われないが、この日は時間前から仕事が始まっていて、遅刻が目立ってしまった。

06'40" 画面、9時9分を指す時計。画面、ヤングトラベル企画課オフィス入り口。江口、出勤してくる。

江口 (室内に向かって元気よく) -019 [接触の開始] おはやーっす。(室内の様子を見て首をすくめ、デスクの間を自席に向かう。池田、すれ違いながら左手首を江口の顔の前にかざし、腕時計を指してみせる。江口、さらに首をすくめ、すまなそうな顔)

谷山 (デスクで仕事をしながら、顔を上げず、そばを通る江口を呼び止める) -020 [接触の開始] 江口君。

江口 -021 あ、はい。(通り過ぎてから谷山の方に向きなおり、近づく)

谷山 (目を上げず仕事を続けながら) -022 [情報の要求] チラシの原稿、どうなった?

江口 (左後ろの自席をちらりと振り向いてから) -023 [情報の提供] 一応もう、できます。

谷山 (顔を上げ、江口の方へ視線は向けるが顔は見ずにきつい調子で) -024 [行為の指示] -024 できたものは、すぐに見せる。

江口 (あごをしゃくるように頭を下げる) -025 すいません。(振り向いて自分のデスクの端にあったオレンジ色の封筒から原稿を出し、両手で谷山に差し出す) -026 こんな感じですけど。

(谷山、原稿を受け取り、めくって見る。画面、チラシの原稿「飛びつくりヨーロッパの旅99800円より」等の文字。江口、谷山の後ろで、両手を前に組み、神妙な表情で立っている)

江口 (谷山の肩越しに右手で紙面の下の方を指す) -027 あと、ここに写真が入ります。

谷山 -028 ふうん。(江口を見上げる) -029 [説明の要求] 写真は?

江口 -030 [事情の説明] 今日、届きます。

谷山 -031 [話題の収束] うん。(原稿を閉じ、江口の顔を見上げ、原稿を返す) -032 ご苦労さん。

江口、少しほっとした表情で原稿を受取り、谷山の表情を横目でちらっと見て、自分のデスクの方にもどる。

場面(3) (時)午後1時37分。(場所)ヤングトラベル企画課オフィス。(設定)エレン・ソウザは、20歳前後のブラジル人女性。ヤングトラベルで長期アルバイトをしている。この時間、サイモンは朝指示されたスタンプを押す作業をようやく終えたところ。池田は、ダイレクトメールのリストの確認を終え、宛名ラベルの打ち出しと確認をしている。

07' 21" 画面、繁華街の通り。立ち並ぶビル、さまざまな看板、車で混雑する道路。画面、午後1時37分を指す時計。画面、ヤングトラベル企画課オフィス。谷山、部屋全体を見回しながら、デスクに座っているサイモンの正面に近づく。

谷山 -033 【情報提供の要求】さてと、(サイモンの手元のパンフレットの束を指す) それは、もうできた?

サイモン (両手でパンフレットの束をデスクの上に立てたまま、顔を上げ、谷山を見る) -034
【情報の提供】はい、できました。

(池田、エレン、デスクに並んで座り、仕事をしている)

池田 -035 【話題の開始】エレンさん、(エレンを見る)

エレン (池田を見る) -036 はい。

池田 -037 【情報提供の要求】段ボールはどこですか。

エレン -038 【情報の提供】はい、(腰を浮かせ、左手を伸ばして部屋の隅を指す) あそこです。

池田 (エレンが指した方を見る) -039 【行為の指示】ああ、じゃあ、(後ろのデスクを見てペンを持った手で指す) そこに持ってきてください。

エレン -040 はい。(席を立ち、池田の後ろを通って段ボールの空き箱のところへ行き、持ち上げる)

07' 50" 谷山、池田の後ろを通って池田の右隣の席に近づく。

谷山 -041 【情報提供の要求】封筒は?

池田 -042 【情報の提供】ええと、ここです。(自分の前のデスクの上を指し、谷山を見上げる)

谷山 (池田の指した所を見て、池田の隣に座りながら封筒を1枚取って見る) -043 【情報提供の要求】ラベルはできるの?

池田 -044 【情報の提供】はい、チェックしました。(左の方からラベルの束をとり、谷山との間に置く)

谷山 -045 よし。-046 【行為の指示】じゃあ、封筒に入れて、ラベルを貼って。(封筒をものとのところに戻し、立ち去る)

池田 -047 【要求への了解】はい。

(エレン、段ボールを指示された場所に置く)

場面(4) (時)午後4時24分。(場所)ヤングトラベル企画課オフィス。(設定)朝からの作業は終わり、できあがった郵便物をダンボール箱に入れ、新人の男子社員たちが郵便局へ運ぶ。江口は、社外での用事のため外出していたが、帰ってくる。勤務時間は5時までだが、この日は残業になる見込み。

08' 02" 画面、先刻と同じ繁華街の通り。薄暮。看板や街路灯に灯が入っている。画面、4時24分を指す時計。画面、ヤングトラベル企画課オフィス。男性社員二人がそれぞれ郵便物を入

れた段ボール箱を持ち、運び出している。江口、外から帰ってくる。段ボールを運ぶ二人とすれちがいながら軽くうなづいて見せる。

江口 (谷山の席の横に立ち、頭を下げる) -048 [接触の開始] ただいま帰りました。

谷山 (顔を上げ、江口を見る) -049 [接触開始の受け入れ] あ、ご苦労さま。(自席の方へ行く江口を呼び止める) -050 [行為の指示] ああ、チラシの写真、来てるから、原稿といっしょに送って。

江口 (振り返り、谷山を見る) -051 はい。(室内を見まわす) -052 [説明の要求] ええと、どこですか。

谷山 (江口のデスクをあごで指す) -053 [事情の説明] そこの机の上の封筒。

江口 (デスクの封筒を取ろうとしながら) -054 [情報確認の要求] これですか。

谷山 -055 [情報の訂正] 違う違う。(上半身を江口の机の方に伸ばし、あごで指す) -055 その向こう。

江口 (1歩奥へ進み、別の封筒を取る) -057 これですね。(谷山、視線を自分のデスクにもどす。江口、封筒の中身を出し、不審そうに谷山を見ながら中身のカレンダーの表紙を谷山の方に向ける) -058 [情報の提供] え、これ、違いますよ。

谷山 (顔をあげ、立ち上がって江口のデスクの上をのぞきこむ) -059 え、おかしいな。

江口 (別の封筒を見つける) -060 あ、これかな。(谷山、江口の手元をのぞきこむ。江口、中身を出してみる) -061 [情報の提供] ああ、ありました。(写真を谷山の方に向ける)

谷山 -062 [話題の収束] あ、じゃ、よろしく。(自分の席に戻る)
(江口、コートを脱ぐ)

08' 41" 池田、顔を上げ、疲れたように首を少し回し、谷山の席の方を見る。

池田 -063 [情報の提供] 課長、終わりました。

谷山 (池田を見てから左手の腕時計を見る) -064 ああ、割に早かったな。(うれしそうに部屋の中を見渡す) -065 [配慮の表明] みんな、ご苦労さま。-066 [行為の指示] ちょっと、お茶にしようか。(ダンボールを運びだして戻ってきた新人たちに、ねぎらう調子で) -067 ご苦労さま。

08' 57" やれやれといった表情でうなづきあったり伸びをしたりする社員たち。

セグメント 4 日本ははじめてです ー紹介するー (ストーリーI「勉強」(b))

登場人物	張玉萍	後藤紀子	クレイグ・ホーン	パチャリー・ラタナーワン
	学生A	学生B	学生1	学生2 学生3

場面(1) (時) 11月下旬の水曜日。1時限目の開始時。(場所) 日本語学校の教室。(設定) 担当教師の後藤紀子は、40歳前後の女性。クレイグ・ホーンは、20歳前後のアメリカ人男性。来日して2ヶ月足らず。この学校に途中入学することになり、この日が初登校。このクラスは、初級後半で、6人の学生がいる。張玉萍は、20歳前後の中国人女性。就学生としてこの学校で学んでいる。学生Aは、20代前半のスウェーデン人女性。学生Bは、20歳前後のメキシコ系アメリカ人男性。

09' 09'' 日本語学校の正面玄関前。いつしょに入していく二人の女子学生。下手から来る女子学生、続いて、男子学生。

09' 13'' 日本語学校の教室。並べられたいすに座っている学生たち。隣や前後で雑談をしている。後藤、テキスト等をかかえ、クレイグを連れて入ってくる。学生たち、気づき、二人を見る。後藤、教卓に近づきながらクレイグを振り向く。クレイグ、体の前で、かばんと帽子を両手で持っている。クレイグ、ドアを閉め、後藤に続いて黒板の目に進む。

後藤 (教卓の横に立ち、学生たちに) -001 【接觸の開始】おはようございます。

学生たち -002 おはようございます。

後藤 -003 【情報の提供】みなさん、紹介します。(クレイグを見て右手のひらを上に向けて指しながら) -004 こちらは、クレイグ・ホーンさんです。(学生たちを見る) -005 今日からいっしょに勉強します。(クレイグに) -006 【行為の指示】それじゃ、自己紹介してください。

クレイグ (首をしゃくるようにうなずく) -007 はい。(少し前に出て学生たちに向かい、視線を正面に向けたまま頭を下げる) -008 はじめまして。-009 【情報の提供】クレイグ・ホーンです。-010 アメリカのサンディエゴから来ました。-011 どうぞよろしくお願ひします。(頭を下げる)

09' 46'' 学生A (後藤を見ながら手をあげる) -012 【許可の要求】あのう。

後藤 -013 はい。

学生A (クレイグに) -014 【情報提供の要求】クレイグさんは、いつ日本に来ましたか。

クレイグ (考えるよう少し宙を見て) -015 【情報の提供】ええと、(目をつぶる) 先月の、(後藤を見て、尋ねる) はじめ? (後藤、2, 3度細かくうなずく)

学生A -016 【情報確認の要求】先月のはじめですか?

クレイグ (学生Aを見つめて) -017 【情報の確認】はい、そうです。-018 先月の3日に来ました。

学生B -019 【情報提供の要求】今まで、どこで日本語を勉強していましたか。

クレイグ (声のする方をゆっくり見る) -020 どこで? (学生B、うなずく) -021 【情報の提供】ええ、(一度宙を見上げてから学生Bを見る) サンディエゴの日本語学校で勉強していました。

張 -022 【情報提供の要求】日本は、はじめてですか？

クレイグ (うなずく) -023 【情報の提供】はい、はじめてです。

張 -024 【情報提供の要求】なぜ日本へ来たのですか。

クレイグ -025 【情報の提供】あのう、日本の大学に入りたいです。-026 入りたいからです。

後藤 (クレイグに) -027 【行為の指示】それじゃ、クレイグさん、わからないことは、みなさんにきいてくださいね。(クレイグ、うなずく。後藤、学生たちを見る) -028 【話題の収束】みなさんも、よろしく。

クレイグ (学生たちに) -029 【話題の収束】よろしくお願ひします。(頭を下げる)

学生たち -030 よろしくお願ひします。(何人か、頭を下げる)

(画面、ワイプ)

場面(2) (時)後刻。授業中。(場所)同じ教室。(設定)教材ビデオを見ようとしている。パチャリー・ラタナーワンは、20歳前後のタイ人女性。張の同級生。

10'44'' 画面、ビデオデッキに入れられるテープ。後藤、テレビのスイッチを操作する。画面、最後列のパチャリーと張。音楽が始まる。パチャリー、机に右ひじをつき、右手の指を額に当て、目を閉じている。隣に座っている張、パチャリーの方を見る。

張 (パチャリーの肩に左手を置き、顔をのぞき込み、小声で) -031 【配慮の表明】パチャリーさん、だいじょうぶ？

パチャリー (うなずく) -032 はい。

張 -033 【行為の申し出】先生に言いましょうか。

パチャリー (頭をかすかに横に振る) -034 【申し出の拒絶】いいえ、だいじょうぶです。(テレビの横にいた後藤、気がつき、上手に1歩寄り、パチャリーたちの方を見る。学生たち、振り返る。張、パチャリーの額に手を当てる)

11'13'' 張 (手を離して後藤の方を見る。) -035 【情報の提供】先生、パチャリーさんは病気だと思います。-036 熱があります。(パチャリーの背中に左手のひらを触れる)

後藤 (学生たちの後ろに回り、張とパチャリーの後ろに立つ。パチャリーの左肩越しに顔をのぞき込む) -037 【説明の要求】パチャリーさん、顔が赤いわね。-038 どうしたんですか。

パチャリー (後藤を見上げる) -039 【事情の説明】少し体が熱いです。

後藤 (張の顔を見てからパチャリーの額に左手、頭の後ろに右手を当てる) -040 ほんとう。
-041 熱があるわ。(張の顔を見る。手を離してパチャリーの額をのぞき込みながら)-042 【行為の指示】医務室へ行ったほうがいいですね。

張 (後藤を見る) -043 【行為の申し出】先生、私が。

後藤 (張を見る) -044 【申し出の受諾】え、じゃ、張さん、いっしょに行ってください。
(顔でパチャリーを指す)

11'46'' パチャリー、立ち上がる。後藤、手を貸す。張も立ち上がり、手を貸す。パチャリーと張、出ていく。見送る後藤と学生たち。

セグメント 5 この次は来月 一約束するー (ストーリーIII「仕事」(b))

登場人物 谷山治男 池田洋子 江口徹 エレン・ソウザ 伊原聰
桜井美香 (声のみ) 金 (声のみ)

場面(1) (時) 11月下旬の水曜日、午後2時半ごろ。 (場所) 旅行社・ヤングトラベルの応接室。
(設定) 谷山治男は、40代の男性。ヤングトラベル企画課長。池田洋子は、30代なかばの女性。ヤングトラベル企画課の社員。伊原聰は、60代の男性。某県観光旅館組合役員。この日、ヤングトラベルを訪ねてきて、谷山・池田と話している。

12'01" 画面、ヤングトラベル入り口の社名ボード。画面、応接室。正面に大きな窓。窓の向こうにビル。窓際に赤いシクラメンの鉢。窓に接した壁に大きな風景写真。壁を背にしたソファの奥に谷山。両ひじをひざに突き、両手で手帳とペンを持つ。隣に池田。ひざにシステム手帳を開き、右手にペンを持つ。二人の前に茶托に乗った湯のみ。向かい側のひじかけいすに伊原。右手に湯のみ、左手に手帳を持つ。隣のいすに伊原のコートとボストンバッグ。

谷山 (伊原に)-001 ……あ、そうですか。-002 楽しみですね。(伊原 うなずく)-003 [情報提供の要求] この次は、いつ東京へ。

伊原 (湯のみをテーブルに置き、手帳を両手で持つて見る。右手に鉛筆)-004 [情報の提供]
ええと、来月です。(谷山を見る)

谷山 -005 [提案の提示] あ、では、その時に詳しいお話を。

伊原 -006 はい。(うなずき、手帳を見ながら)-007 [提案の提示] ええと、5日はいかがですか。(谷山を見る)

谷山 (手帳をから目を上げ、伊原を見る)-008 [要求への拒絶] あ、申し訳ありません。(池田とちょっと顔を見合わせ、伊原を見る)-009 [事情の説明・提案の提示] 1日からハワイへ出張で、5日に帰ってきますので、6日の木曜日はいかがですか。

伊原 (一瞬目を伏せてから谷山を見る)-010 [意向の表明] うーん、その日は、午後の新幹線で帰りたいんですが、午前中でいいですか。

谷山 (手帳を見てから伊原を見る)-011 [提案の提示] はい、では、10時ごろ。

伊原 -012 わかりました。(うなずき、手帳に書き込む。谷山、池田、同じく書き込む)-013 [結論の確認] 6日の10時ですね。

谷山 (手帳を見てから伊原を見る)-014 [話題の収束] はい。-015 では、またその時に。

伊原 (上着の右のポケットに手帳をしまい、立ち上がる)-016 [接触の終了] どうも、お忙しいところを。

谷山 -017 [接触終了の受け入れ] いえいえ。(立ち上がり、両手を脇に付けてきちんと立つ)-018 [感謝の表明] ありがとうございました。(深く頭を下げる。伊原、コートとボストンバッグを取る)

池田 (立ち上がり、両手を前で重ね、頭を下げる) -019 【接触の終了】失礼いたしました。
(先に立って出ていく)

伊原 -020 それじゃ。(軽く会釈をし、池田について出て行く。谷山、続く)

画面、ワイプ

場面(2) (時)後刻。(場所)ヤングトラベル企画課のオフィス。(設定)江口徹は、企画課社員で、20代後半の男性。他の社員たちは所用で出払っている。江口は、ガールフレンドの桜井美香に私用電話をかけようとしている。桜井は、20代なかばの女性。東光銀行為替部に勤めている。

{この場面の音声は、主音声に江口の声、副音声に電話の相手側の声が録音されている}

画面・主音声	副音声
13'01" ヤングトラベル企画課のオフィス。江口、デスクの一つに向かって座り、あたりを見回して受話器を取り、ダイヤルし、デスクにかがみ込んで待つ。	呼び出し音。
江口 (姿勢を正す) -022 【情報の提供】あ、ええ、ヤングトラベルの江口と申しますが、	女性の声 -021 【接触の開始】はい、東光銀行為替部でございます。
江口 -024 ああ、どうも。(会釈する)-025【行為の依頼】桜井さんをお願いします。	女性の声 -023 お世話になっております。
江口、うなずき、テーブルにかがみ込み、右ひじをテーブルに突き、あたりを見回しながら待つ。	女性の声 -026 【要求への了解】はい、少々お待ちください。 テーブルの音楽。
13'32"	桜井 -027 【接触の開始】もしもし、桜井ですが。
江口 -028 美香さん? -029 ぼく。	桜井 -030 あら、どうしたの。
江口 -031 【勧誘】うん、今夜さあ、どう?	桜井 -032 こんやあ? -033 うーん。 (微笑む)
江口 -034 この前言ってた店さあ、行ってみようよ。	桜井 -035 ああ、あのインド料理?
13'49" 江口、一瞬笑顔になる。池田、入ってきて、奥のデスクからファイルを取る。	
江口 (あわてて改まり、姿勢を正す) -036 はい。-037 【提案の提示】6時に新宿でいかがでしょうか。	
(池田、ファイルを開いて見ながら江口の方を見る)	
江口 -039 はあ。	
(江口、口元を一瞬ほころばせる)	桜井 -038 【説明の要求】やだあ、だれか来たの?
	桜井 -040 【要求への了解】6時ね。-041 うん、いいよ。-042 【要求内容提示の要求】どこで?

江口 -043 [提案の提示]ええ、南口の、ええ、改札口ではいかがでしょうか。

(池田、江口の後ろに近づき、肩越しに顔をのぞき込んで出していく。江口、受話器の送話口を左手で押さえ、池田を見送る)

江口 (ほっとした様子で)-046 やれやれ。(通話口から手を離して)-047 もう大丈夫。

江口 (うれしそうに)-049 うん。-050 じゃあね。

14' 25" 江口、受話器を置き、にやっとして上着の内ポケットから財布を出す。中身を調べ、渋い顔。画面、ワイプ。

桜井 -044 [要求への了解]南口のお、改札口ね。(やや間)-045 ……もしもし?

桜井 -048 [接触の終了]じゃ、あとでね。

場面(3) (時)後刻。(場所)ヤングトラベル企画課のオフィス。(設定)エレン・ソウザは、20歳前後のブラジル人女性。ヤングトラベル企画課で長期アルバイトをしている。旅行代理店・ATAとの交渉を担当している。ATAの代表・金は、韓国人男性。

14' 34" ヤングトラベル企画課のオフィス。カウンターのそばで話をする江口とサイモン。デスクの前に座っていたエレン、谷山の方を振り向き、メモとボールペンを持って立ちあがり、谷山の席に近づく。

エレン (谷山のデスクの脇に立つ)-051 [話題の開始]あのう、(谷山、エレンを見る) A TAのキムさんとの打ち合せですが。

谷山 -052 [話題開始の受け入れ]ああ、早くした方がいいわね。

エレン -053 [情報の要求]課長、今週は。

谷山 (上着の胸ポケットから手帳を出して見る)-054 [情報の提供]ええっと、ちょっと無理だなあ。(手帳をめくる)-055 来週は、水曜日以外はだいじょうぶ。(エレンを見る)

エレン -056 わかりました。-057 [意志の表明]向こうの都合を聞いてみます。

谷山 (手帳を胸ポケットにもどす)-058 うん。(うなずき、もとの作業にもどる)

15' 05" 席にもどったエレン。メモを前に置き、ボールペンを手に電話をかける。留守番電話につながる。

金 (留守番電話の応答メッセージ) -058 はい、ATAでございます。-059 ただいま留守にしております。-061 ピーという音の後にメッセージをお入れください。

エレン (聞きながらフックに指をかけ、切ろうかと迷った後、メッセージを入れる)-062 ヤングトラベルのエレンです。-063 打ち合せの件でお電話しました。-064 こちらは、できれば来週、……(音声フェイドアウト)

セグメント 6 ぼくがおぎります 一親しくなるー (ストーリーII「友達」(b))

登場人物 王崇梁 山田康浩 小川明美 てんぷら屋店員
てんぷら屋の客たち

場面(1) (時) 12月中旬の金曜日、午後7時ごろ。**(場所)** てんぷら屋の店内。**(設定)** 山田康浩は、20代なかばの男性。南海大学国語学科の助手。王崇梁は、20代後半の中国人男性。南海大学教育行政学科の研究生。二人は1ヶ月ほど前に偶然知り合い、その後、友人として付き合っている。この日、山田は、ガールフレンドの小川明美を王に紹介するつもり。小川は、20代前半の女性。大野中央病院に看護婦として勤務している。てんぷら屋店員は、「恋人」ストーリーに登場する深沢良昭。ボート乗り場が営業しない冬季は、てんぷら屋でアルバイトをしている。

15' 31" てんぷら屋の店内。手前のカウンターに並んだむぎ焼酎の徳利。奥にテーブルが並ぶ。

上の壁に下がった品書きの札。テーブル席、カウンター席ともほぼ満席。山田と王、中央のテーブルに向かい合ってビールを飲んでいる。テーブルにビールびん、突き出しの皿など。山田、王のグラスにビールを注ぐ。王、会釈。王、山田が置いたびんをとり、山田が差し出すグラスに注ぐ。カウンターの上の白い紙を敷いた皿に天ぷらをのせる箸。

店員 (店の奥から入り口に向かって) -001 **【接触の開始】**いらっしゃいませ。

(小川) 入口の格子戸を背にして店内を見回している。脇の壁に7時31分を指す時計)

山田 (声のみ) -002 **【接触の開始】**あ、こっち、こっち。

(小川) 声のするほうを見てほほえみ、テーブルに近づく)

小川 (コートとバッグを持って山田の隣にすわりながら、王に) -003 **【接触の開始・配慮の表明】**遅くなりました。(王、会釈 小川、山田に) -004 待った? (山田、小川を見ながら首を軽く左右に振る。小川、コートをひざに、バッグをテーブル脇の床に置く)

山田 (右手のひらを上に向け、小川を指して、王に) -005 **【情報の提供】**紹介します。(王、軽くうなずく。小川、王、互いに見合う) -006 こちらが小川明美さん。-007 大野中央病院に勤めています。

王 -008 **【接觸の開始】**はじめまして。(会釈する。小川、ほほえみ、山田をちらっと見て王に頭を下げる) -009 **【情報提供の要求】**お医者さんですか?

小川 (あごを引き、首を軽く左右に振る) -010 **【情報の提供】**いえ、看護婦です。

15' 55" **店員** (テーブルに近づき、グラス、突出し、割り箸、おしぶりをのせた盆を小川の前に置く) -011 いらっしゃいませ。

山田 (小川を見る) -012 **【意向表明の要求】**ビールでいい?

小川 (うなずく) -013 **【意向の表明】**ええ。

山田 (店員を見る) -014 **【行為の指示】**じゃ、ビール、もう2本。(指を2本立て、店員に示す)

店員 (おしぶり、グラス、突出しを小川の前のテーブルに置きながら) -015 かしこまりました。(去る)

16' 02" 小川 (山田を見る) -016 【説明の要求】もう、頼んだの？

山田 (小川を見る)-017 いや、まだ。(目を上げ、カウンター上の壁の品書きを見る)-018 【提案の提示】定食がいいかな。(王、小川、同じく品書きを見上げる)

小川 (声のみ) -019 【要求への了解】そうね。

(画面、壁にかけ並べられた品書きの札。天ぷら定食松4000円、竹3000円、梅2500円など。

画面、王、山田、小川のテーブル)

王 (山田の方へ少し乗り出して) -020 【感想の叙述】でも、高いですね。

山田 (体を少し後ろにそらす) -021 大丈夫ですよ。(店員、ビールを2本運んできてテーブルに置く。山田、運ばれてきたびんを取り、小川のグラスにビールを注ぐ。小川、グラスを両手で持って受ける) -022 【行為の申し出】今日はね、ぼくがおごります。(ほほえみ、背筋を伸ばす)

小川 (山田を見る) -023 あら、いいのぉ？

山田 (うなずく) -024 うん。-025 【事情の説明】ボーナスが出たんですよ。(王を見る)
-026 今日は金持ちですから。

小川 (王を見る) -027 【申し出の受諾】じゃあ、ごちそうになりますよ。

王 (上体を少し右に傾ける) -028 でも、悪いですねえ。

16' 24" 山田 (再び品書きを見る。小川と王も品書きを見る) -029 【提案の提示】じゃ、みんな松にしましょう。

王 (顔を少し山田に近づける) -030 【説明の要求】えっ、まつですか。

小川 (右手の人差し指で品書きを指しながら) -031 【事情の説明】定食は、松、竹、梅の3種類で、(画面、壁の品書き) 松がいちばん高いんですよ。(画面、3人のテーブル。小川、王を見る)

王 -032 【意向の表明】じゃあ、わたしは梅にします。

山田 (王を見る) -033 そんな、遠慮しないで。(奥にいる店員の方を見て指を3本立てて見せる) -034 【行為の指示】松、3人前、お願ひします。

店員 (声のみ) -035 かしこまりました。

場面(2) (時)後刻。(場所)てんぷら屋のカウンター内。(設定)山田たちのてんぷら定食松のためにてんぷらが揚げられ、一同、上がったてんぷらを食べる。

16' 41" 画面、ざるの上のネタ。エビ、穴子、メゴチ、しいたけ、アスパラガス、ベビーコーン、ピーマン。右手に上げ箸を持ち、左手でエビに衣をつけて油を満たしたてんぷら鍋に要れる職人の手元。油の表面に浮かぶてんぷらを返す箸。揚がった穴子を皿に載せる箸。画面、箸で穴子の一本揚げを持つ山田。

16' 54" 山田 (顔の前に穴子を持ち上げ、じっくり眺めて) -036 【感想の叙述】これは長い。
(長いまま天つゆをつけ、端からかじる)

- 王 (食べながら何回もうなづき、山田を見る) -037 【感想の叙述】おいしいですね。
- 小川 (王に) -038 【情報叙述の要求】王さんは、やはり中国料理がいちばん好きですか。
- 王 -039 【情報の叙述】そうですね。
- 小川 -040 【情報叙述の要求】日本料理と西洋料理と、どちらが好きですか。
- 王 -041 【情報の叙述】それはもちろん日本料理が好き、(小川から山田に視線を移す)と言った方がいいですね。(一瞬間。3人、顔を見合わせて笑う)

場面(3) (時)後刻。(場所)てんぷら屋前の路上。(設定)食事を終えた山田、王、小川。山田が支払いをしている間、王と小川、店の前で待っている。

17' 18'' 画面、夜の繁華街。細い路地の両側に並ぶ飲食店など。灯の入った看板。道端に置かれた置き看板。向こうを行き交う車。路地を歩く人々。画面、てんぷら屋の前。文字が染め抜かれたのれん。格子戸。小川、王、立って楽しそうに話している。勘定を済ませた山田、のれんを分けて出てくる。

- 王 (山田に) -042 【感謝の表明】ごちそうさまでした。(頭を下げる)
- 山田 (軽く頭を下げる) -043 どういたしまして。
- 小川 (山田を見上げる) -044 【提案の提示】この次は中華料理、食べに行きましょうよ。
- 山田 (小川に) -045 【要求への了解】ああ、いいね。
- 王 (二人に) -046 【行為の申し出】そうだ、わたしが作りますから、食べにきてください。
- 小川 (王を見て、やや不審そうに) -047 え、中華料理を? (王、はつきりうなづく)
- 山田 -048 【申し出の受諾】それはいい。-049 ぜひごちそうしてくださいよ。
- 王 (山田を見て強くうなづく) -050 今度、連絡します。
- 山田 -051 うん、楽しみにしています。(王、うなづく)
- 17' 44'' 小川 (王に) -052 【接触の終了】じゃあ、また。
- 王 (小川にうなづく) -053 はい、(顔を山田に少し近づける)また大学で。
- 小川 (王に) -054 【接触の終了】とっても楽しかったわ。-055 おやすみなさい。

小川、王、頭を下げる。山田、手を振りながら王の前を横切り、小川と去る。王、手を上げて見送る。小川、山田の左ひじのあたりにつかまる。二人、数歩歩いて振り向く。山田、手を振る。小川、頭を下げる。王、手を振り、反対方向に歩きだす。

セグメント 7 私の町

(映像素材(a))

登場人物 荒木智恵子 ナレーション (おすネコの声)

{このセグメントの音声は、主音声に映像に伴う実況音、副音声にナレーションが録音されている}

映像・主音声

副音声

場面(1) (時) 12月中旬の木曜日、午後4時ごろ。(場所) 東京近郊の私鉄駅の出口。(設定)
荒木智恵子は、40代後半の女性。セグメント9、10に登場するお母さん。某私立高校で社会科の非常勤講師をしており、この日は勤め帰り。ナレーションは、荒木が飼っているおすネコの声。ネコは、1週間ほど家に帰っていないので、荒木はあたりを探しながら帰る。ネコは、荒木の様子をこつそりうかがっている。

18' 09" 駅の改札口。道への出口で傘を開こうとしている男性。傘をさして自転車でとおる女性。勤め帰りの荒木、改札口を出てくる。道への出口であたりをちょっと見回しながら傘を開く。改札脇の電話ボックス、ポストのあたりをのぞき、歩きだす。画面、ワイプ。

ナレーション (副音声) -001 お母さんが帰ってきました。-002 まだ、雨が降っています。

場面(2) (時) 直後。(場所) 帰り道の商店街。

18' 24" 商店街の脇道の角にある置き看板のかげからのぞく。荒木、傘をさし、商店街を歩いてくる。道の向こう側、八百屋の隣の肉屋に入り、ショーケースの中を指さして牛挽肉を注文する。「牛ひき肉」の札。画面、ワイプ。

-003 来た、来た。-004 肉屋で買物をします。-005 挽肉を買いました。

場面(3) (時) 直後。(場所) 帰り道の商店街。

18' 41" 先回りして、道端の物かけからのぞく。荒木、花屋の店をのぞいて、そのまま行きすぎる。画面、ワイプ。

-006 きれいな花がたくさんあります。-007 花は買いません。

場面(4) (時) 直後。(場所) 帰り道にあるコンビニエンスストアー。

18' 54" コンビニエンスストアーをのぞいてみる。荒木、棚を見て回り、紙パックの牛乳とハムをレジに出す。画面、ワイプ。

-008 この店はいつも開いています。-009 とても便利な店です。-010 牛乳を買います。-011 ぼくは、牛乳が大好きです。

場面(5) (時) 直後。(場所) 商店街の路上。(設定) ネコは、先回りするために走る。

19' 08" 商店街の路側を全速力で走る。そば屋、薬屋などの前を通る。傘をさした知らない女性が手を出して呼ぶが、無視して走り抜ける。画面、ワイプ。

-012 急ぎます。-013 そば屋があります。-014 薬はいつもこの薬屋で買います。

場面(6) (時) 直後。(場所) 商店街のはずれにある児童公園。(設定) ネコは、植込みのかげからうかがっている。荒木はネコを探している。

19' 18" ベンチの下から見る。男女二人の子供が、手を前に出し、腰を低くして呼びながら近寄ってくるので、後の植込みに逃げる。植込みのかげからのぞくと、傘とかばんを手に持った荒木、先程の子供たちといっしょに植込みをのぞいている。

-015 (息を切らしながら) 疲れました。-016 子供は嫌いではありませんけど、今日は遊びません。

場面(7) (時) 直後。(場所) 公園から荒木家への道。

19'38" 荒木、公園を出て行く。後をつけて、自転車の下をくぐり、道に出る。右方からトラックが走り過ぎる。荒木、塀の上など見回しながら歩いて行く。道の右側に駐車している車。画面、ワイプ。

-017 早く帰りましょう。-018 雨はやみました。-019 でも、今日は寒いです。

場面(8) (時) 直後。(場所) 荒木の家の近くの貸し駐車場。(設定) ネコは塀の上から見ている。

19'50" 駐車場の塀の上から眺めている。日が射している。荒木、駐車場に入ってきて、車の下をのぞき、出していく。ネコ、塀の反対側に飛び降りる。

-020 探しています。-021 そこにはいません。

場面(9) (時) 直後。(場所) 荒木の家の玄関に上る階段。(設定) ネコは階段の上から見ている。荒木は、門から近所を見回し、家に入ろうとする。

20'06" 玄関前の階段の上から見ている。荒木、あたりを見回しながら門を開け、入って門を閉める。階段を降りながら、一声鳴く。荒木、振り向いて気がつき、うれしそうにかがみ込みながら近づく。

-022 ここが僕のうちです。-023 お帰りなさい。

荒木 -024 まあ、お帰り。-025 どこへ行ってたの、1週間も。-026 心配してたのよ。

20'29" 荒木、猫を抱き上げ、階段を上がっていく

ナレーション -027 暖かい！

セグメント 8 待ち合わせ ーおしゃべりー (ストーリー I 「勉強」(c))

登場人物 張玉萍 武田芳子

場面(1) (時) 12月中旬の日曜、午後2時ごろ。(場所) 喫茶店の店内。(設定) 張玉萍は、20歳前後の中国人女性。東京の日本語学校に通う就学生。武田芳子は、20代なかばの女性。張の保証人の娘。張とは親しく付き合ってい、この日、いっしょに買い物に行くため、喫茶店で待ち合わせをしている。芳子は、張を待つ間、友達に手紙を書いている。約束の時間を少し過ぎている。

20' 40'' ビルの間から見上げる東京タワー。右に移動して、ビルの2階にある喫茶店のガラス窓。画面、喫茶店の店内。道側の全面はガラス窓。店内中央にカウンターテーブル。まわりにいくつかのテーブル。そこここに数人の客。盆を持って通路を歩くウェイトレス。芳子、窓際のテーブルに向かい、コーヒーを飲み、手紙を書いている。テーブルの上にコーヒーカップ、砂糖の容器、紙ナプキンなど。芳子、顔を上げ、上体を後ろへそらし、入口の方を見る。張、コートを手に持ち、右肩にショルダーバッグをかけて店に入ってきて、立ち止まり、店内を見回す。芳子、張を見つけ、右手の指を広げ、肩のあたりの高さで振る。張、ほほえみながら芳子の席に近づく。

張 -001 **【接触の開始】**あっ、ごめんなさい。-002 **【配慮の表明】**待ちましたか。(芳子の向かいで座り、コートを隣のいすに置く)

芳子 -003 **【感情への注目表示】**いいえ、私も今来たところですから。(テーブルの上の書きかけの手紙などをしまいはじめると) -004 **【配慮の表明】**すぐにわかりました?

張 (芳子を見てうなずく) -005 ええ。

ウェイトレス (テーブルに近づき、張の前に水を置く) -006 **【接触の開始】**いらっしゃいませ。

張 (ショルダーバッグを肩から外しながら、上目づかいでちらっとウェイトレスを見る) -007 **【行為の指示】**ええと、ミルクティー。

21' 09'' ウェイトレス、去る。芳子、巾着式のバッグの口をゆるめ、手紙などをしまう。

張 (芳子の手元を見て) -008 **【説明の要求】**手紙ですか。

芳子 -009 **【事情の説明】**ええ、大学の友達がね、イギリスに留学してるんですよ。(バッグから写真を出し、バッグの口をしめ、写真を張に渡す)

張 (写真を受け取り、見る。画面、花壇の前に立つセーターを着た若い女性の写真) -010 **【情報収集の要求】**へえ、いいですねえ。(画面、張) -011 芳子さん、遊びに行きたいでしょう。(写真を芳子に返す)

芳子 (バッグの口をゆるめ、写真をしまいながら) -012 **【意志の表明】**ええ、行くつもりです。-013 でも、春になってからね。

張 (芳子の手元から顔に視線を移しながら) -014 あ、冬は寒いでしょうね。

21' 33" ウェイトレス (テーブルに近づく) -015 [行為の合図] お待たせしました。 (ミルクティーをテーブルに置く)

場面(2) (時)後刻。 (場所)繁華街裏通りの交差点。歩行者用信号のある横断歩道。

21' 39" 画面、町中の大通り。画面、青が点滅している歩行者用信号。三叉路の横断歩道。張と芳子、歩いてきて、縁石手前で止まって待つ。60歳前後の男性、横断歩道の反対側に来て止まり、待つ。赤が点灯した歩行者用信号。

芳子 (左右を見てから張を見る) -016 [情報叙述の要求] 張さん、お正月はどうします?

張 (芳子を見る) -017 [情報の叙述] ああ、何も予定はありません。(芳子、うなずく。張)
-018 [情報叙述の要求] 芳子さんは?

芳子 -019 [情報の叙述] 私は、大晦日からバリ島へ泳ぎに行くんです。

張 (芳子を見る) -020 [感想の叙述] わあ、いいですねえ。(芳子、うなずく) -021 [説明の要求] お友達と? (芳子、うなずく) -022 ふうん。…… (二人、道の左右を見る。画面、道の左方、続いて右方) -023 車、来ませんね。(画面、芳子と張)

芳子 -024 ああ、(道の左右を見る) 渡っちゃいましょうか。(車道に一步踏み出す。向こう側の紳士、じろっと芳子を見る。画面、赤信号。画面、再び芳子、やや上目づかいで男性を見てもとの位置にもどる)

張 (芳子を見る) -025 [感想の叙述] こういうとき、日本人は渡りませんね。(芳子、張を見てうなずく)

22' 24" 画面、歩行者用信号。赤から青に変わる。画面、車道との間に柱が並ぶ覆道を歩く二人。明るい日を受けたり影に入ったり。高く響く足音。

芳子 (張を見る) -026 [意向表明の要求] 元旦には、うちへあいさつに来るでしょう?

張 (前を見たまま) -027 [意志の表明] ええ、保証人にはごあいさつしなくちゃ。(芳子を見る)

芳子 (張を見る) -028 [行為の依頼] 私はインドネシアですから、父と母をよろしくね。

張 (芳子を見る) -029 [要求への了解] じゃ、芳子さんのかわりに、(前方に向かって頭を下げる) 明けましておめでとうございまーす。

22' 44" すれ違った女子高校生の二人連れ、驚いて振り向き、笑う。張、芳子、ちょっと振り向き、口に手を当て肩をくみて笑う。

セグメント 9 プチトマト！一買物一 (ストーリーII「友達」(c))

登場人物 王崇梁 山田康浩 小川明美 朴海煥 荒木智恵子
八百屋の主人 スーパーのレジ係

場面(1) (時) 12月中旬の金曜日、午後3時前。 (場所) セグメント7と同じ東京近郊の私鉄駅付近の商店街。 (設定) 王崇梁は、20代後半の中国人男性。南海大学教育学部の研究生。荒木智恵子の家にホームステイしている。この日、荒木家に山田、小川、朴を招き、セグメント6で約束した中華料理を作るため、材料を買って返ろうとしている。山田康浩は、南海大学国語学科の助手。王と友人として付き合っている。小川明美は、大野中央病院の看護婦。山田のガールフレンドで、セグメント6で王に紹介されている。朴海煥は、南海大学教育学部の大学院生で、王の先輩にあたる。山田・小川と朴とは、この日が初対面。王が作った買い物リストにしたがって買い物をする。

22' 57" 商店街の路上。雨が降っている。王、山田、小川、朴、傘をさし、並んで歩いている。

王、右手で傘といっしょにリストを持っている。

王 (小川の方を向き、左手の指で2センチぐらいの輪を作つてみせる) -001 【情報提供の要求】
あの、このくらいの小さいトマト、なんと言いますか。

小川 (王の手先を見る) -002 【情報の提供】ああ、プチトマトのことですか。

王 -003 あ、プチトマト。(リストを左手に持ち替え、書きなおす)

山田 (王の方を見る) -004 【意向確認の要求】卵やピーフンはスーパーでいいですね。

王 (リストから目を離し、山田を見る) -005 ええ。 -006 【提案の提示】先に八百屋へ行きましょう。

場面(2) (時)直後。 (場所) 商店街にある八百屋の店先。 (設定) 王と小川、野菜を買っている。

23' 21" 八百屋の店先。

八百屋 (台の上から野菜をとり、ポリ袋に入れながら) -007 はい、ネギにピーマンにチンゲンサイね。(王、傘を持ってそばに立ち、台の上の野菜などを見回している)

小川 (リストを見ながら) -008 【行為の指示】それから、ニンジンと、ええと、あ、プチトマト、あります？(八百屋を見る)

八百屋 (伸び上がって店の奥を見てから小川に) -009 【要求への拒絶】あ、今日はもう……。 -010 すいません。(頭を軽く下げる)

小川 (リストを見てから) -011 【話題の収束】じゃ、おいくらですか。

23' 41" 手土産を買いにいっていた山田、朴、やってくる。

山田 (王に近づき、王の背中を軽くたたく) -012 あ、いたいた。(王、後ろを振り返る)

八百屋 (小川) -013 【行為の指示】えー、1250円です。

(八百屋、ポリ袋を王に渡す。小川、財布を開ける)

場面(3) (時)後刻。(場所)スーパーの店内。

23' 47" カートを押す小川。後を歩く一同。売場を回り、材料の食料品を次々にカートに入れる。

王 -014 たら、(朴、たらのパックを取り、カートに入れる。画面、リストにチェックするペン)たまご、(画面、カートを押す小川に続く3人)小麦粉、(山田、小麦粉を取り、カートに入れる。画面、ビーフンにオーバーラップするリスト)ビーフン、とり肉、(画面、とり肉を取ってカートに入れる小川)レタス、(カートを押す朴、続く一同)プチトマト(朴、指さし、小川、プチトマトを取ってカートに入れる)。

24' 17" 画面、レジ前でリストと品物を点検する一同。

王 (リストを読み上げながらカートの中を指さす) -015 とり肉、たら、小麦粉、……。(しばらくリストと品物を見比べる) -016 【評価の表明】だいじょうぶですね。

朴 (首を伸ばし、王の持つリストをのぞき込む) -017 【情報確認の要求】何か忘れた物はない? (王を見る)

王 -018 【情報の確認】うん、(カートの中を見てからうなずく)これで全部。
(山田、カートを押してレジに進む)

24' 36" レジ係 (プチトマトと小麦粉をバーコードリーダーに通し、レジのボタンを押して合計金額を出す) -019 【行為の指示】4397円になります。(王を見る。台にかごを置く次の順番の女性)

王 (5千円札を出し、渡す。レジ係、レジの方に向き直ろうとする) -020 あ、7円あります。(レジ係、5千円札をレジに入れ、王を見て待つ。王、7円出す)

レジ係 -021 【行為の合図】はい、(受け取った金をレジに入れ、つり銭をレシートの上にのせ、王に渡す)610円のお返しになります。-022 【接触の終了】ありがとうございます。(頭を上げ、王を見る)

25' 01" 王、かごを持ってレジから外へ出る。

場面(4) (時)後刻。(場所)王のホームステイ先、セグメント7に登場した荒木家の前。(設定)山田・小川と荒木とは初対面。朴は、以前荒木に会っている。

25' 04" 王のホームステイ先、荒木家の前の道を歩いてくる王、山田、小川、朴。それぞれ、傘と買い物の袋を下げている。王、家の門を手で指し、一同、家を見上げる。門の前に着き、王、門の脇のチャイムを鳴らす。荒木、階段を降りてきて門を開ける。

王 (右手で荒木を指し、一同に) -023 [情報の提供] えと、お母さんです。

荒木 (両手を前に重ね、頭を下げる) -024 [接触の開始] 荒木です。

山田 -025 [接触の開始・情報の提供] はじめまして、山田と申します。(頭を深く下げる)

荒木 (笑顔で王を見て手で指し、また山田を見る) -026 [接触開始の受け入れ] あ、王さんのがいつもお世話になりました。

王 (手で小川を指しながら荒木を見る) -027 [情報の提供] こちら、小川さんです。

小川 -028 [接触の開始・情報の提供] 小川と申します。(頭を下げる)

荒木 (声のみ) -029 [接触開始の受け入れ] よろしくお願ひします。

朴 -030 [接触の開始] こんにちは。(会釈する) -031 お邪魔します。

荒木 (朴に) -032 [接触開始の受け入れ] お久しぶり。(門の扉に手をかけながら一同に)
-033 [行為のうながし] さあさあ、どうぞ。(門を開け、先に立って入る。一同、次々に門を入り、階段を昇る)

25' 40" リビングルームの入り口。荒木、ドアの脇に立って一同を通す。最後に入ってきた山田、荒木の前で立ち止まり、紙袋から菓子包みを取りだし、荒木を見てさし出す。

山田 -034 [行為の申し出] あのう、つまらないものですが。

荒木 (包みを見てから山田を見る) -035 まあ、そんなこと、よろしいのに。……(山田、包みを少し荒木に近づける。荒木、ひと呼吸あってから山田を見ながら両手で受け取る)
-036 [申し出の受諾] じゃあ、いただきます。-037 [感謝の表明] ありがとうございます。(頭を下げ、再び山田を見る。山田も頭を下げる)-038 [行為のうながし] さ、どうぞ。(手のひらでリビングの方を指す。山田、うなずき、リビングに入る)

セグメント 10 お魚はちょっと一いつしょに作るー(ストーリーII「友達」(d))

登場人物 王崇梁 山田康浩 小川明美 朴海煥 荒木智恵子 荒木純子

場面(1) (時) 12月中旬の金曜日、午後4時すぎ。セグメント9と同じ日の後刻。(場所) 荒木家の台所。(設定) 王崇梁・山田康浩・小川明美・朴海煥、手分けして中華料理を作ろうとしている。朴と山田は、ビーフン炒めを作る予定。

26' 02" 荒木家の台所、流しの前。朴、山田、王、立っている。朴、乾しふんを手に持っている。

王 (朴に) -001 【行為の指示】ビーフンはね、お湯に入れて。

朴 (流しのまわりを見回す) -002 ええと、ボールは……。(王と山田もあたりを見回す)

荒木 -003 【行為の合図】はいはい。(耐熱ガラスのボールを持ち、ダイニングの方から急ぎ足に入ってくる) -004 これでいいかしら。(ボールを山田に渡す)

朴 (軽く頭を下げる) -005 【感謝の表明】あ、すいません。

26' 11" 山田 (荒木からボールを受け取り、朴の前に置きながら、王に) -006 【行為の申し出】じゃあ、ぼく、野菜を切ります。(朴、ボールにビーフンを入れ、やかんの湯をかける)

王 (山田に) -007 え。-008 【行為の指示】入れるものは、(流し台の上の材料を見ながら、指を折って数え上げる) にんじんに、たけのこに、ねぎに、とり肉に、……。

山田 (ニンジンを手に取り、その他の材料を見て、王に) -009 【情報確認の要求】あ、あと、しょうがとにんにくもでしょ?

王 -010 【情報の確認】あ、そうです。

場面(2) (時)直後。(場所) 荒木家のダイニングルーム。(設定) 小川と荒木、白身魚のあんかけを作る予定。王は、水ギョウザを作る予定。

26' 23" 小川、胸あてのついたエプロンをして、発泡スチロールのトレイに入ったタラの半身のパックを両手で持ち、ラップを持ってこわごわ匂いをかぐ。その隣で、王、ボールに入れた小麦粉を手でこねている。

王 (小川とタラを見て横から) -011 【行為の指示】小川さん、それ、(あごで軽く指す) 皮と骨を取って、適当に切ってください。

小川 (王に) -012 【要求への了解】はい。-013 【困惑の表現】お魚って、なんかねえ。(王、小川の顔を見る。小川、王を見る) -014 【事情の説明】あ、お魚は、あんまり触ったこと、ないんです。(台所の方へ行きかけ、王に向き直り、タラを少し差し出して見せる) -015 【要求内容提示の要求】あの、切る大きさは?

王 -016 【行為の指示】ええと、(親指と人差し指を3センチほどの幅に広げ、タラに近づけて大きさを示す) これぐらいかな。-017 切ったら塩こしょうしてくださいね。(小川、うなずく)

場面(3) (時)直後。(場所)荒木家の台所。(設定)荒木、サラダを作る予定。

26'50" 台所の流しの前。荒木、チリトマトのへたを取り、ざるに入れて水をかける。後刻、同じ流し。朴、タマネギとニンニクをむいている。

場面(4) (時)後刻。(場所)荒木家のダイニングルーム。(設定)荒木の娘・純子、学校から帰ってくる。純子は、小学4年生。

26'58" ダイニングのテーブル。王、小さなめん棒でギョウザの皮をのばしている。隣で山田、まないたを置き、ニンジンを刻もうとしている。その隣で小川、ギョウザの中身を混ぜている。

山田 (皮をむいたニンジンを持ち、王に) -018 【要求内容提示の要求】王さん、ニンジンはどんなふうに切れます?

王 (山田とニンジンを見る) -019 【行為の指示】ええと、(親指と人差し指の間をわずかに離し、上から下に動かして見せる) 細長く。

山田 -020 【要求への了解】あ、……千切りですね。(ニンジンを包丁で輪切りにし、端を薄く切り、その端を細く切り、指先ではさんで持ち上げ、王に見せる) -021 【見解表明の要求】これくらいでいいですか。

王 (顔を動かしながら見て、うなずく) -022 【評価の表明】はい。

27'15" リビングのドアが開き、学校から帰ってきた純子、ランドセルを背負い、笑顔で入ってくる。一瞬とまどった表情になり、ドアを閉める。

王 (純子に気がつき) -023 【接触の開始】あ、お帰り。(山田を見る) -024 【情報の提供】山田さん、純ちゃんです。

山田 (作業の手を止め、包丁を置いて純子の方に上体を傾け) -025 【接触の開始・情報の提供】山田です。

小川 (純子の方に上体を傾ける) -026 【接触の開始】こんにちは。-027 【情報の提供】小川です。

荒木 (台所の方から皆の後ろを通って純子の後ろに立ち、肩に両手のひらを置く) -028 【行為の指示】純子、ごあいさつは。

純子 (荒木を見上げ、上目づかいで二人を見てから頭を下げる) -029 【接触開始の受け入れ】こんにちは。(テーブルに寄り、王の手元をのぞき込む)

荒木 (純子の後ろから両肩に手を置く) -030 【行為の指示】先に手を洗ってきなさい。

純子 (荒木を見上げる) -031 【要求への了解】はい。(不満そうにランドセルを降ろし、荒木に渡して台所のほうへ去る)

場面(5) (時)後刻。(場所)荒木家の台所とダイニングルーム。(設定)荒木と小川、タラを揚げている。王と純子、ギョウザをゆでている。朴と山田、ビーフン炒めを作っている。

27'39" 台所のガス台の前。油の入ったフライパンがかかっている。荒き、タラに衣をつけ、フライパンに入れている。小川、箸を持ち、揚げている。画面、ダイニングのテーブル。カセット

コンロになべがかかる。王、なべの中を指さす。純子、おそるおそるギョウザを1個入れて手を引っ込め、王を見る。王、どんどん入れるようにうながす。後刻、台所のガス台の前。朴、フライパンでビーフン炒めの具を炒めている。山田、流し台の上の手付きのざるに入ったビーフンを持ち上げる。

山田 (フライパンの中を見ながら) -032 【行為の申し出】いいですか。

朴 (横目でちらっとビーフンを見る) -033 【行為の制止】ちょっとまってください。(調味料を次々に台から取り、入れながら) -034 お酒、塩、砂糖。(山田を見る) -035 【行為のうながし】はい、いいですよ。

(山田、ざるのビーフンをあける。朴、少しあきませ、台からしょうゆのボトルをとり、フライパンにしょうゆを回し、かきませる。山田、手を体の後ろに組んで見ている。ごま油をとり、ふたを開け、入れようとする)

朴 (山田の手元をちらっと見る) -036 【行為の制止】あ、ごま油は最後に。

山田 -037 あ、そうですか。(ごま油のふたを閉め、もどす)

場面(6) (時) 6時すぎ。(場所) 荒木家のダイニングルーム。(設定) 料理ができあがり、一同、夕食のテーブルについている。

28'22" テーブルに、白身魚のあんかけとビーフン炒め2皿ずつ、水ギョウザの深皿、卵スープの深皿、プチトマトののったサラダのサラダボールが並んでいる。

純子 (料理を見回してうれしそうに) -038 【評価の表明】わあ、すごい。

(画面、テーブルに並んだ料理)

王 (一同を見回し、両手のこぶしでテーブルをたたくようなしぐさをする) -039 【行為のうながし】さあ、食べましょう。

一同 -040 【行為の合図】いただきまーす。

純子 (ギョウザの端をひと口かじる。ちょっと心配そうな顔をして味わい、うれしそうな顔になる) -041 【評価の表明】うん、おいしい。

(朴、山田、ビーフンを食べ、山田、指でOKサイン、朴、Vサインを作り互いに示す)

荒木 (タラを食べ、上目づかいで宙を見る) -042 【評価の表明】うん、おいしい。(うなづき、小川を見る) -043 うまくできましたね。(小川、大きくうなづく)

山田 (小皿と箸を両手に持ち、テーブルに乗り出してギョウザを取りながら) -044 【評価の表明】王さん、料理、上手ですねえ。(王、顔の前に左手を上げ、手のひらを山田に向けて軽く振る)

小川 -045 【提案の提示】そうだ、(朴に) 今度は韓国料理、教えてくださいよ。(一同、朴を見てうなづく)

朴 -046 【要求への了解】そうですね。(一同を見回す) -047 じゃあ、やりましょうか。

29'01" 画面、暗くなった庭からガラス戸越しに見るダイニングルーム。一同、テーブルを囲み、談笑しながら食べている。

ユニット 2 よくわかりました

セグメント 11 川で一出会うー

(ストーリーIV「恋人」(a))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 ボート乗り場のおじさん

場面(1) (時) 9月上旬の土曜日午前8時半ごろ。 (場所) 東京郊外。 大きな川沿いの土手の上のサイクリングロード。 (設定) 村井亜紀子は、20歳前後の女性。 西北大学3年生。 土曜は休みで、朝食の材料を買いかにコンビニエンスストアへ行こうと、自転車で出かけた。 深沢良昭は、20代前半の男性。 板橋経済大学4年生。 冬はてんぷら屋でアルバイトをしているが、(セグメント6参照)、夏の間は、この川原のボート乗り場で働いている。

00' 06" 土手の斜面は草の生えた砂地。 土手の向こうに数本の木。 晴れ。 亜紀子、土手の上を自転車で走ってくる。 川の方を見ると、深沢、岸近くで柔軟体操をしている。 亜紀子、そのまま走りすぎ、ジョギング中の男女とすれ違って土手の下の道を走っていく。 向こうの鉄橋を渡つていく電車。 画面、ワイプ。

場面(2) (時) 小1時間後。 (場所) 同じ川原。 (設定) 深沢は、大学の民謡サークルに所属し、できればプロの民謡歌手になりたいと思っている。 この時間、仕事が始まるまでの間、民謡の練習をしている。

00' 31" フリスビーをする男の子二人と女の子二人。 女の子、上手に投げる。 受け取った男の子、もう一人の女の子に投げるが高くそれる。

00' 35" 土手の下の道。 亜紀子、コンビニのポリ袋を自転車の前かごに入れ、先刻と逆の方向から

走ってくる。 ユニホームを着て帽子をかぶり、バット、グローブなどを持った野球帰りの子供たちが付き添いの大人といっしょに通る。

民謡の歌声。 亜紀子、止まって左足を突き、歌声のする川の方を見ると、深沢が左手を耳に当て、右手を腰に当てて練習中。 足元にスポーツバッグと水筒。 亜紀子、耳を傾ける。 突然強い風が吹く。 深沢、歌をやめ、目を細めて風上をちらっと見てから時計を見る。 亜紀子、前方に目を移し、走り去る。 画面、ワイプ。

場面(3) (時)午後5時近く。(場所)同じ川原。(設定)亜紀子の趣味はスケッチ。ボート乗り場のそばに、おじさんが飼っている犬がつながれている。一日の営業が終わり、深沢はゴミをかたづけている。

01' 17" 川のそばの道。30代の女性と4人の小さな子供たち、歩いてくる。子供たちは、ピンク、緑、青、白、黄色の風船を持ち、はしゃぎながら小走りに歩く。草むらでコオロギの声。

01' 22" 亜紀子、スケッチブックを持ち、歩いてくる。深沢、ボート乗り場から空缶を持ち出し、ゴミ袋に入れている。川岸につながれている犬。長毛の小型犬。亜紀子、犬を見つけて近づき、しゃがんでスケッチブックを開き、写生しはじめる。深沢、亜紀子を見る。亜紀子、深沢に向かい、右手の人差し指を立てて口に当てる。深沢、ほほえんでうなずく。深沢、ゴミ袋を持ち上げようとして手が滑る。ガチャンと大きな音。深沢、亜紀子と犬の方を見る。犬は深沢の方へ行ってしまい、亜紀子、笑いながらもうらめしそうな顔をして深沢の方を振り向く。

01' 55" **深沢** (すまなそうな顔で軽く頭を下げる) -001 [陳謝の表明] ああ、ごめんなさい。
(亜紀子、首を横に振り、ほほえんで立ち上がる。スケッチブックを両手で胸の前に抱え、深沢と向き合う)

亜紀子 -002 [情報確認の要求] 今朝、歌ってたでしょう。

深沢 (いぶかしそうに首を前に出す) -003 え?

亜紀子 -004 あれ、民謡ですか。

深沢 -005 [情報の確認] ああ、聞いてました。-006 サークルでね、民謡やってるんです。

(亜紀子、ほほえんでうなずく)

場面(4) (時)日暮れ前。(場所)同じボート乗り場。(設定)亜紀子は、仕事を終えた深沢を待ち、いつしょに帰る。

02' 16" 鉄橋を渡ってくる電車。深沢、ボート乗り場でかたづけをしているおじさんに頭を下げる。おじさん、手を振る。深沢、つながれている犬のあごの下をなで、少し離れて立っている亜紀子に近づく。二人、いつしょに歩きだす。

02' 34" 歩いていく二人の後ろ姿。向こうから歩いてくる人影。

深沢 (声のみ) -007 [情報の叙述] ほんとは、プロになりたいんだ。

セグメント 12 船に乗ってみますかー案内するー (ストーリーIII「仕事」(c))

登場人物 クラウディア・ロッシ 池田洋子 鈴木和広

場面(1) (時) 9月上旬の平日午前10時半ごろ。 (場所) 東京ベイトピアの場内を見下ろす丘の上の広場。 (設定) 池田とクラウディア、鈴木に案内され説明を聞いている。池田洋子は、30代なかがの女性。旅行社・ヤングトラベル企画課社員。クラウディア・ロッシは、20歳前後のイタリア人女性。ヤングトラベル企画課で長期アルバイトとして働いている。鈴木和広は、20代後半の男性。東京ベイトピアの社員。東京ベイトピアは、水族館、遊園地、ホテルなどを備えた海浜リゾート施設。ヤングトラベルの商品として東京ベイトピアへの日帰りツアーを企画することになり、池田はクラウディアを連れて下見に来ている。

02' 50'' 丘の上。池田とクラウディア、鈴木の説明を聞いている。晴れ。海が見渡せ、足下にベイトピアの施設が広がる。正面に大きな吊り屋根の水族館。右の方に港。岸壁や港内に停泊する大小の艦船。池田、話を聞きながら、いちいち手帳にメモをとる。クラウディア、カメラを持ち、時おり写真を撮る。

鈴木 (腕を伸ばし、前方を指さす) -001 【情報の提供】あの三角の屋根が水族館です。

-002 その右の方が港になります。(池田、鈴木の指さす方向を見ながらうなずき、メモをとる) -003 【行為のうながし】よろしかったら、こちらへ。(手で前方下を指す)

(鈴木、先に立って丘をくだる。池田、続く。クラウディア、その場に残り、写真を撮っている)

池田 (声のみ) -004 【行為のうながし】クラウディアさん。

クラウディア -005 はい。(カメラを下ろし、小走りに池田たちの後を追う)

03' 09'' 港の情景。

場面(2) (時) 後刻。 (場所) 東京ベイトピアの遊園地ゾーン。 (設定) メリーゴーラウンドなどの遊具のそばにベンチが並び、売店でスナックなどを売っている。

03' 12'' 低い林に沿った園内の道。3人、歩いてくる。鈴木、あちこち指して説明している。メリーゴーラウンドに近づく。メリーゴーラウンドからオルガンの音楽。鈴木、手で指し、説明する。

鈴木 (売店の前のベンチを指す) -006 【情報の提供】お昼は、一応ここで食べられるんですが。

(クラウディア、一人で売店が並ぶ方へ進む)

池田 (声のみ) -007 そうですねえ。(考え込む調子。画面、食べ物を食べる子供たち) -008 アイスクリームに、焼きそばに、ハンバーガー、……。(画面、池田と鈴木。池田、鈴木を見る) -009 【情報提供の要求】もう少し落ち着いて食べられるところはありませんか。

鈴木 (少し考えるようすを見つめる) -010 [情報の提供]ええと、(右斜め前方を指さす)

レストランは山の向こうに4軒あります。(画面、並んだレストランの外景)

03' 46" 画面、二人のところへもどってくるクラウディア。

クラウディア (二人の前に立ち止まり、頭を少し前に傾ける) -011 [情報提供の要求]池田

さん、タコ焼きって、和食ですか。(画面、パックに入ったタコ焼き。画面、池田と鈴木)

池田 (驚いたように首を少し前に出す。鈴木、驚いたように目を見開く) -012 和食? (鈴木

と顔を見合せ、咳払いをして、鈴木に) -013 [情報提供の要求]レストランって、どちらですか。

鈴木 -014 [行為のうながし]あ、どうぞこちらへ。(手で右の方を指す)

(鈴木、歩きだす。池田、軽く会釈して、クラウディアを残し、鈴木の後に続く)

クラウディア (一人残り、不審そうな表情で首をかしげ、独り言) -015 洋食じゃないなあ
……。-016 ま、いつか。(二人の後を追う)

04' 12" メリーゴーラウンド、遊園地の遊具、ジェットコースター。子供たちの悲鳴と歓声。

場面(3) (時)後刻。 (場所)海に面したレストランのテラス。 (設定)3人、下見の途中、休憩している。

04' 26" テーブルで話す3人。白いプラスチックのテーブルといす。池田、手帳に書き込んでいる。クラウディア、東京ベイトピアのパンフレットを見ている。

クラウディア (パンフレットを見ながら) -017 [情報の叙述]あ、おもしろそう。(池田、

クラウディアを見る) -018 動物にえさをやるそうですよ。(池田を見る)

池田 (パンフレットをのぞき込む) -019 え、動物? (クラウディア、池田のほうに頭を寄せ、パンフレットを見せる)

鈴木 (画面、クラウディアの手元のパンフレット) -020 [情報の提供]ペンギン、イルカ、
シロクマ、あとは魚ですね。(画面、池田とクラウディアを見る鈴木) -021 えさをやると
ころが見られるんです。-022 [行為の申し出]あとでご案内しますよ。

池田 (鈴木に軽く頭を下げる) -023 お願いします。

04' 49" ウエイトレス、コーヒーを運んできて3人の前に置く。クラウディア、目を上げ、海を見渡す。

クラウディア -024 いい景色ですねえ。(ほほえむ。画面、ヨットハーバー越しに水族館の
外景) -025 やっぱり海はいい。(画面、テーブルの3人)

鈴木 (コーヒーを飲む手をとめ、顔を上げて池田を見る) -026 [行為の勧め]あ、そうそう、
船にも乗ってみてくださいね。

池田 (鈴木を見る) -027 [要求内容提示の要求] 船ですか。 (テーブルの上の島の地図を見る)
る) -028 どこへ行くんですか。 (クラウディアも地図を見る)

鈴木 -029 [事情の説明] 島のまわりをまわるんです。 (地図を指着して手を動かす) -030 気
持ちいいですよ。

クラウディア (鈴木に) -031 [要求への拒絶] わたし、ちょっと遠慮します。

池田 (クラウディアを見る) -032 [説明の要求] どうして。

クラウディア (池田に) -033 [事情の説明] わたし、船に弱いんです。

池田、鈴木、クラウディアを見る。画面、ワイプ。

場面(4) (時)後刻。 (場所)桟橋。 (設定)池田、鈴木に勧められ船に乗ろうとしている。クラウディアはいやがっている。

05'19" 3人、桟橋を歩いてくる。鈴木、池田を見て手で乗船口を指す。クラウディア、渡り板の手前で立ち止まる。池田、渡り板に足をかけてクラウディアを振り返り、引き返してクラウディアに近づく。クラウディア、両手を体の前に出し、手のひらを池田に向けて横に振る。池田、クラウディアの手を取り、船の方に引っ張って乗り込む。鈴木、続いて乗り込む。

05'34" 回る船の外輪。走る遊覧船。3人、1階のデッキにいる。池田と鈴木、舷側の手すりに寄つて立ち、鈴木、手を伸ばしてあちこち指しながら説明している。クラウディア、船べりから離れてデッキ中央の階段のあたりに立ち、船外を見回している。走る遊覧船。

セグメント 13 お茶にしますアドバイスー (ストーリーⅡ「友達」(e))

登場人物 王崇梁 山田康浩 学生A

場面(1) (時) 9月上旬の水曜日、午後3時ごろ。(場所) 南海大学国語学科研究室。(設定) 山田康浩は、20代後半の男性。この研究室の助手。王崇梁は、20代後半の中国人男性。4月から、この大学の教育学専攻の大学院生になっている。山田の友人で、山田を訪ねてきている。学生Aは、20歳前後の女性。国語学科の3年生。

05'59" 部屋を埋めた書棚やカードキャビネット。並べられた図書。山田と王、テーブルをはさんで座り、話している。テーブルの上に大小のカップ。山田、右手にペンを持ち、テーブルに手帳を置き、書き込んでいる。

王 (部屋を見回し、山田の方に顔を少し近づける) -001 【感想の叙述】ここは静かでいいですねえ。

山田 (顔を上げ、王を見る) -002 【見解への同意】ああ、教育学部の方は、グラウンドが近いから、ちょっとうるさいでしょう。(手帳を閉じ、カップを取り上げる)

06'09" 学生A、左肩に大きなスポーツバッグをかけ、山田の横の方の通路から入ってくる。山田、気づき、学生を見る。学生の位置からは王が見えない。

学生A (山田に近づきながら) -003 【接触の開始】山田さん、あのう、……

(山田、カップを置きながら王を見る。学生、立ち止まり、気づいて王を見る)

学生A -004 あ、すいません。(軽く頭を下げる)

王 (学生に) -005 【行為の勧め】あ、いいですよ。-006 どうぞ。

学生A (王に軽く頭を下げる) -007 すいません。(山田に) -008 【見解表明の要求】ええと、川田先生のゼミ、出たほうがいいでしょうか。

山田 (不審そうな声) -009 【説明の要求】ええ? -010 どうして。

学生A -011 【事情の説明】心理学の講義と同じ時間なんで、迷ってるんです。

山田 -012 【説明の要求】卒論は、なんにするの。

学生A -013 【事情の説明】明治時代の外来語です。

山田 -014 【見解の表明】あ、それじゃ川田先生は3年生のうちに取った方がいいな。(学生うなずく。王もうなずきながら聞く) -015 心理学は、4年になってからも聞けるからね。

学生A -016 そうですか。(細かく何回かうなずく) -017 【結論の確認】じゃ、やっぱり川田先生、出ることにします。-018 【話題の収束】どうも。(少し頭を下げる。山田、軽くうなずく。学生、王に向き直り、頭を下げる) -019 【接触の終了】失礼します。(王、会釈する)
学生、出ていく。

場面(2) (時)直後。(場所)同じ研究室。

06'51" 王 (山田に向きなおる) -020 【話題の開始】山田さん、わたしも相談していいですか。

山田 -021 え、何ですか。

王 -022 【事情の説明】ちょっとほしい本があるんですが、もう売ってないらしいんですよ。

山田 -023 【説明の要求】図書館にも無いんですか。

王 -024 【事情の説明】できれば国へ持つて帰りたいんで、古本屋でさがそうと思うんですけど、

山田 -025 ええ。

王 -026 【情報提供の要求】古本屋ってどこにあるんでしょう。

山田 (笑顔になる) -027 【情報の提供】ああ、神保町に行けば、たくさんありますよ。

王 (上体を少し前に乗り出す) -028 【情報提供の要求】じんぼうちょううって、どの辺ですか。

山田 -029 ええっと、(立ち上がり、後ろのホワイトボードに略図を書く)【情報の提供】水

道橋の駅から……(王、床に置いてあつたバックパックを取り上げ、手帳を出す)歩いて、

(マーカーの先でホワイトボードを突きながら) 10分ぐらいですね。(マーカーを持つ指で指しながら) -030 こっちが新宿、こっちが東京。

王 (手帳にメモし、山田を見上げる) -031 【話題の収束】はい。-032 じゃ、行ってみます。

07'42" 山田 -033 ぼくも、よく行くんですよ。(マーカーのキャップをしめてホワイトボーダーの下に置き、もとのいすに座り、両手をテーブルの上で組み、上体を少し乗り出す)-034 【提

案の提示】今度いっしょに行きましょうか。

王 (体を乗り出し、少し頭を下げる) -035 【要求への了解】あ、ぜひお願ひします。

山田 -036 ええと、(視線をそらし、少し考え、また王を見る)【提案の提示】あさって、どうですか。

王 (横のキャビネットにはつてあるカレンダーを見る。画面、カレンダー) -037 【要求への拒絶】ええと、金曜日ですか。-038 その日は、ちょっと……。

山田 (画面、山田) -039 じゃあ、来週は、(考えながらテーブルの上の手帳を取り、開いて見る。王、手帳を開いたまま山田を見て待つ) ……【提案の提示】火曜の午後、どうですか。

王 -040 【要求への了解】はい。(ちょっとカレンダーを見る) -041 じゃあ、火曜日。(手帳に書き込んで閉じ、サインペンのキャップをしめながら) -042 【事情の説明】金曜は、内田先生のお宅に招待されてるんです。

山田 -043 へえ。

王 -044 【見解表明の要求】先生のお宅にうかがうのは初めてなんんですけど、どんなものを持っていったらいいでしょうか。

山田 -045 【見解の表明】そうですねえ、高いものじゃなくていいですよ。(視線を外して少し考え、再び王を見る) -046 やっぱりお菓子がいいかな。

王 -047 【見解表明の要求】あのう、お茶はどうでしょう。-048 中国茶。

山田 (右手の人差し指をちょっと王に向け、笑顔で) -049 【見解の表明】あ、いいかもしませんね。-050 中国のお茶は日本でも人気がありますよ。

王 (首をかしげ考える) -051 じゃ、そうしようかな。-052 【情報提供の要求】ところで、(山田を見る) 山田さんは? (山田、けげんそうに王を見る) -053 中国茶はお好きですか。(山田、ほほえむ)

セグメント 14 お礼状？－教わる－

(ストーリー I 「勉強」(d))

登場人物 張玉萍 武田芳子 武田妙子

場面(1) (時) 9月上旬の平日午後3時ごろ。 (場所) 武田家の居間。 (設定) 張玉萍は、20歳前後の中国人女性。日本語学校に通う就学生。保証人・武田氏宅を訪れている。母・武田妙子は、50歳前後の女性。武田氏の妻。武田芳子は、20代なかばの女性。武田氏の娘。

08'55" 壁際に、背の高い木製の食器棚、サイドテーブル、革張りのソファ。直角の位置にもう一つ同じソファ。その前に木製のローテーブル。テーブルの上に大きな紙包み。張と芳子、壁際のソファに並んで座り、話している。母、麦茶の3人分の麦茶のグラスを盆に乗せ、入ってくる。

母 (もう一つのソファに座りながら、張に) -001 [感想の叙述] 毎日暑いですねえ。(麦茶のグラスをコースターに乗せて張の前に置く) -002 [行為の合図] 麦茶、どうぞ。

張 (軽く会釈する) -003 いただきます。(母、芳子の前にも麦茶を置く)

芳子 (母に) -004 [情報の叙述] 張さん、夏休みに信楽へ行ったんですって。(母、手を止め、張を見る。張、軽くうなづく)

母 -005 [情報の叙述] あら、わたし行ったことがないわ。(自分の麦茶をテーブルに置く)

張 (母に) -006 そうですか。-007 [情報の叙述] よかったです。(母、張を見てうなづき、盆をサイドテーブルに置く。張、ソファの横に置いてあつた包みを両手で持ち上げ、母に差し出す) -008 [行為の合図] これ、おみやげです。

母 (うれしそうに両手で受け取る) -009 [感謝の表明] あらあ、どうもありがとう。(包みの重さに意外そうな表情) -010 [感想の叙述] 重いねえ。-011 たいへんだったでしょう?(張を見る)

張 -012 [行為のうながし] 開けてみてください。

母 (包みを見ながら) -013 何かしら。

09'27" 母、包みを開ける。芸術的な花生けが現れる。母、花生けを両手で胸の高さに持ち、感嘆の表情でながめる。芳子も花生けを見つめる。

母 -014 まあ。

芳子 (花生けをながめながら) -015 [感想の叙述] すてきねえ。

張 -016 [事情の説明] 友達がこういうのを作っていて、(芳子、張を振り返る) その人の作品なんです。

母 (張を見る) -017 そう。(再び花生けを見て感嘆の表情) -018 [感想の叙述] 立派な灰皿ねえ。(芳子、吹き出し、張を見る。張、困った表情で芳子を見る)

張 -019 [情報の提供] あのう、それ、……、(母、けげんな表情。張、ためらいながら) ええっと、お花を……(花を生ける手つき)

母 (はつとして肩をすくめる) -020 あ、ごめんなさい。(あらためて花生けを見て首を少し傾ける。芳子、張をちらっと見て母を見る) -021 [情報提供への注目表示] そうね。-022 灰皿には、ちょっと深すぎるわね。(張、うなづく。画面、ワイプ)

場面(2) (時)後刻。(場所)同じ居間。

10' 13'' ソファの脇のサイドテーブルに置かれた先刻の花生け。その奥にりんどうが生けられた小さな花びん。隣に、4時48分を指す置き時計。3人、先刻と同じ位置に座っている。母、テーブルにちいさなまな板を置き、果物ナイフで梨をむいている。テーブルの上のガラスボールにもう一つの梨。そばに皿。張、芳子、ミニアルバムに入った張の信楽旅行の写真を見ている。

張 (写真を見ながら) -023 [情報の叙述] わたしも、茶わんを作りました。(画面、自作の茶わんを持った張の写真) -024 友達に教わって。

芳子 (声のみ) -025 へえ。(画面、居間の3人)

母 (梨をむきながら張に) -026 [情報叙述への共感] そのお友達には、ずいぶんお世話になったのねえ。(張、うなづく) -027 [情報提供の要求] お礼状は、出したの?

張 -028 お礼状? (驚いたように目を少し見開く。母、うなづく) -029 お礼の……、(不審な表情。気づいて) あ、手紙ですか。

母 (深くうなづく) -030 そうぞ。-031 [事情の説明] 帰ってきたらすぐに書かなくっちゃ。

張 -032 そうですかあ。(芳子に) -033 [見解表明の要求] ええと、どんなふうに書けばいいですか。

10' 47'' 芳子 -034 そうねえ。-035 [見解の表明] ええっと……、その節はありがとうございました。

張 (芳子を見る) -036 その節?

芳子 -037 その時って意味ね。-038 [見解の表明] それから、(画面下間に手紙の文面) とても楽しかったです。-039 遅くなつて、失礼いたしました。-040 写真ができたので、お送りします。-041 またいつか、おじやましたいと思います。-042 お元気で、とかね。

張 (もう一度、うなづきながら頭の中で復習する) -043 [話題の収束] はい。(母に) -044 じゃあ、すぐにお礼状書きます。

母 (うなづき、振り向いてサイドテーブルの時計を見る) -045 あら、もう5時。(張に) -046 [行為の申し出] 張さん、晩ご飯用意してありますからね。-047 なんにもありませんけど。

張 (ほほえむ) -048 [冗談] なにもないんですか。(母、張をにらむまね)

芳子 (張に) -049 なにもないけど、いろいろあるんですよ。(母、張、笑う)

芳子のアドバイスによる手紙の文面

その節はありがとうございました
とても楽しかったです
遅くなつて失礼いたしました
写真ができたのでお送りします
またいつかおじやましたいと思います
お元気で

セグメント 15 実は……一報告する一（ストーリーⅢ「仕事」(d)）

登場人物 谷山治男 池田洋子 江口徹 エレン・ソウザ 販売促進部長

場面(1) (時) 9月中旬の金曜日午後。 (場所) 旅行社・ヤングトラベル企画課のオフィス。 (設定) 江口徹は、20代後半の男性。ヤングトラベル企画課の社員。池田洋子は、30代なかばの女性。ヤングトラベル企画課の社員で江口の先輩。エレン・ソウザは、20歳前後のブラジル人女性。ヤングトラベルで長期アルバイトをしている。ヤングトラベルは、11月に四国へのパッケージツアーを企画していて、宿泊先のホテルには、2ヶ月前までに予約金を払わなければならない。担当の江口がその支払いを忘れていたため、ヤングトラベルからの連絡に対して、ホテル側から、キャンセルとみなした旨のファックスが入る。

11'53'' デスクに座って仕事をする社員たち。奥のデスクに池田。池田の向かいに江口。池田の脇に立つエレン。3人、相談中。エレン、自分の席にもどり、受信音に気づいて、ファックスのところへ行き、受信した文面を読み、首をかしげる。

エレン (ファックスを読みながら池田に近づく) -001 [説明の要求] 池田さん、徳島のホテル、(池田、エレンを見る) 予約をキャンセルしましたか。(ファックスを池田に差し出す)

池田 -022 ええっ? (驚き、ファックスを受け取り、読む。向かいの席の江口の方に向く、上体を乗り出して) -003 [情報提供の要求] 池田さん、(江口、池田を見る。池田、問い合わせる口調) 徳島のホテルの予約金、払ってないの?

江口 -004 ええ? (信じられない表情) -005 ええっと、(池田を見たまま、デスクの左側からファイルを取り、開いて以前のファックスを読む) -006 料金の35%を9月5日までに……。(顔を上げ、呆然と正面を見る。力なく) -007 しまった。-008 [情報の提供] 忘れてました。(池田とエレン、あきれた表情)

池田 (江口の方へ上体を傾け、少し急き込んで) -009 [行為の指示] とにかく、ホテルに電話してみて。-010 急いで部屋を探さなくちゃ。

江口 -011 はい……。(一瞬池田を見つめ、我に返つて電話に手をかける。池田も電話に手をかける。エレン、自分の席に戻る。画面、ワイプ)

場面(2) (時) 後刻。 (場所) ヤングトラベル企画課のオフィス。 (設定) 谷山治男は、40代の男性。ヤングトラベル企画課の課長。江口の上司。江口と池田、ホテルの手配のため電話していたが、徳島には空きがない。谷山に報告し、善後策を相談する。

12'50'' 池田、江口、エレン、それぞれの席にいる。江口、電話を切る。池田、江口の方に乗り出して話しかける。江口、首を力なく横に振る。二人、立ち上がり、谷山の席に近づく。エレン、振り返り、立ち上がって後に続く。池田、手に書類を持ち、怒った表情。江口、上着のボタンを留め、手を体の前で重ね、神妙な表情。二人、並んで谷山の席の横に立つ。エレン、池田の斜め後ろに立つ。谷山、ボールペンを手に、書類に書き込みをしている。

13'03'' 江口 (緊張した調子) -012 [話題の開始] 課長、(谷山、目を上げ、江口を見る) あのう、11月の四国ツアーナんですが、

谷山 -013 うん。(言いながらデスクの上に視線をもどし、書類を重ねて脇に移す)

江口 -014 [情報の提供] あのう、徳島のホテルに予約金を払うのを忘れまして、

谷山 (驚いて江口を見上げ、上体を江口の方に向ける) -015 ええっ?

江口 -016 キャンセルになってしまったんです。

谷山 (デスクに視線を落とし、思い出す様子) -017 【情報提供の要求】ホテルの担当は……,

(江口を見上げ、大声で責める調子) 江口君か?

江口 -018 【陳謝の表明】すいません! (頭を下げる)

谷山 (厳しく問い合わせる口調) -019 【説明の要求】どういうことなんだ。

江口 (視線をあちこち動かしながら) -020 【事情の説明】ええ、それが、先週、出張があつたり、えつ、いろいろと……。

谷山 (苦々しげな表情、怒った口調) -021 【評価の表明】うーん、自分の仕事には責任を持つてもらわないとね。

江口 (かしこまって上目づかいで谷山を見る) -022 【陳謝の表明】はい、もうしわけありません。 (両手を脇に付け、頭を下げる。池田、続いて頭を軽く下げる)

谷山 (池田と江口を見上げ、きつい口調) -023 【情報提供の要求】それで、部屋は空いてないの?

池田 (谷山の方にややかがみ込んで) -024 【情報の提供】徳島はもういっぱいのようです。
-025 高松ならまだ空いているそうですが。(エレン、心配そうに横目でのぞき込む)

谷山 (前方に目を向ける) -026 しかたがない。(目を上げ、江口に) -027 【行為の指示】
じゃまず、高松のホテルを予約して。

池田 (谷山の方にややかがみ込んで) -028 【提案の提示】それからバス会社に連絡します。

谷山 (うなずく) -029 うん。(上体を伸ばしてエレンを見る) -030 【行為の指示】エレン
さんは、新しいスケジュール表の用意を頼む。(池田、江口、顔を見合させる)

エレン (うなずく) -031 わかりました。

谷山 (視線を落とし、やや声をひそめて) -032 一応、部長にも話しつこう。

江口 -033 【陳謝の表明】もうしわけありません。(両手を腹の前で重ね、頭を深く下げる。
池田、いっしょにやや浅く頭を下げる。谷山、二人を見上げる)

場面(3) (時)直後。 (場所)ヤングトラベル営業部長室の入り口。 (設定)谷山、部長に報告する。

14' 07" ドアが開いている。ドアのガラスに「販売促進部長」の文字。谷山、ドアの前に来る。

谷山 (こぶしの甲でドアをノックし、部屋の中に声をかける) -034 失礼します。

部長 (部屋の中から) -035 はい。

谷山 (部屋に入り、正面のデスクにこちら向きに座り書類に書き込みをしている部長の前に立つ。首を少し前に落として言いにくそうにゆっくりと) -036 【話題の開始】実は、11月の
徳島のことなんですが、

部長 (目を上げ、谷山を見る) -037 【話題開始の受け入れ】うん? (いぶかしそうに) -038
なんか、まずいこと?

セグメント 16 よくわかりませんーあきらめるー (ストーリーII「友達」(e))

登場人物 朴海煥 電器店員

場面(1) (時) 9月中旬の日曜日。**(場所)** 電器店内のワープロ売場。**(設定)** 朴海煥は、20代なかばの韓国人男性。南海大学大学院教育学専攻の大学院生。修士論文執筆のため、ハングルと日本語が使えるワープロを買おうとしている。電気店の店員は、20代後半の男性。

14' 35'' 棚に並んだたくさんのワープロ。朴、見て歩き、カタログを集める。店員、店の奥で、梱包した品物を別の客に渡す。

店員 -001 お待たせしました。(客、去る) -002 **【接触の終了】**どうもありがとうございました。

(店員、朴を見つけ、近づく)

店員 (朴に) -003 **【接触の開始】** ワープロですか。

朴 (店員をちらっと見る) -004 ええ。

店員 (両手のひらを体の前で重ねて) -005 **【意向表明の要求】** ええと、ご予算はどのくらい。

朴 -006 まあ、安い方がいいんですけど。

店員 -007 **【説明の要求】** メーカーは、決めてらっしゃいますか。

朴 -008 いや、別に考えていません。

店員 -009 **【説明の要求】** どういったことにお使いになるんですか。

朴 -010 **【事情の説明】** ええっと、レポートを書いたり、資料を作ったり。

店員 -011 そうですか。(手のひらを上に向け、朴が向いている側の棚に並んでいるワープロの1台を指し、その方に歩み寄る) -012 **【行為の勧め】** これどうでしょう。-013 **【事情の説明】** イラストが書けるし、カラー印刷とか、機能が多いんですよ。(画面、ワープロ。再び、朴)

朴 -014 イラストお。(手元のカタログからその機種のものを見つけ、読む) -015 **【要求への拒絶】** ううん、(首をかしげる) イラストは書かないと思います。

店員 (残念そうな口調) -016 そうですか。(朴の後ろの棚をちらっと見て、朴の腕のあたりに手をかけ、導く) -017 **【行為の勧め】** じゃあ、(別の1台を指す) これはいかがですか。-018 10万8千円で、けっこう安いですよねえ。(画面、「標準価格¥200,000」「¥108,000」の値札。画面、朴を見る店員) -019 先月出たばかりです。

15' 34" 朴 (ワープロから店員に目を移す) -020 【意向の表明】あのう、ハングルが使えるのはありませんか。

店員 (驚いて目を大きく開く) -021 【困惑の表明】えつ、ハングル。(棚からカタログを取り裏を見る。眉をしかめ、首をかしげる) -022 それはむずかしいですねえ。-023 ワープロでハングルはねえ。(朴を見る) -024 【見解の表明】パソコンにワープロソフトを乗っける形なら、使えるのがあるかもしれませんけど。

朴 (不審そうに首をかしげて店員を見る) -025 【説明の要求】え? -026 パソコンに……。

店員 (眉を上げ、朴を見ながら) -027 【事情の説明】ワープロのソフトウェアですね。(左手の指を伸ばし、手のひらを下に向け、胸の前で左右に動かして見せる) -028 パソコンの上でワープロソフトを走らせるわけですけど。

朴 -029 【説明の要求】ソフトっていうと、どんな。

店員 (早口に) -030 【事情の説明】ええ、日本語のワープロは日本語しか使えませんから、(朴、小さくうなづきながら聞く) ハングルと日本語が使えるワープロのソフトをパソコンに乗せて使うわけですね。

朴 (手元のパンフレットに視線を落とす) -031 【話題の収束】ううん、ちょっとわかりませんから、友達に教えてもらってからにします。(店員を見る) -032 また来ますから。

店員 (深く頭を下げる。朴も会釈する) -033 【接触の終了】すいません。-034 じゃ、よろしくお願いします。(朴、行きかける。店員、左手を伸ばし、呼びとめる) -035 【接触の再開】ああ、ちょっとすいません。(朴、振り返る。店員、棚の下の方からパンフレットを出して渡す。朴、受け取って見る) -036 【行為の合図】これ、ご参考に。-037 ワープロソフトは、たとえばこんなのですから。(両手を体の前で重ねる)

朴 -038 ああ、どうも。(パンフレットを見ながら去る)

店員 (両手を胸につけ、深く頭を下げる)-039 【接触の終了】ありがとうございました。(目を上げ、朴を見送る)

セグメント 17 それでOK！—説明する— (ストーリーIII「仕事」(e))

登場人物 エレン・ソウザ 江口徹 浅野交通営業課長 浅野交通社員

場面(1) (時) 平日の昼休み。(場所) 旅行社・ヤングトラベル企画課のオフィス。(設定) エレン・ソウザは、20歳前後のブラジル人女性。ヤングトラベルで長期アルバイトをしている。この日、昼休みに他の社員たちは全員外出し、エレンは一人で弁当を食べようとしている。江口徹は、20代後半の男性。ヤングトラベル企画課の社員。この日、バス会社・朝の交通へバス手配の打ち合せに出向いている。

{この場面の音声は、主音声にエレンの声、副音声に江口の声が録音されている}

画面・主音声	副音声
16' 48" エレンの右肩ごしに、画面、赤い布を敷いた上に、湯のみ、赤いプラスチックの小判形の弁当箱。白いふたを開けるエレン。中は、ひき肉、ピンクのでんぶ、卵で描かれたクマの顔。画面、デスクの前で箸箱から箸をとるエレン。デスクの上の電話が鳴る。エレン、手を止め、横目で電話機を見てから箸を置き、左手で受話器を取る。	
16' 59" エレン (電話に) -001 【接触開始の受け入れ】 れ】はい、ヤングトラベル企画課でございます。 エレン -003 ああ、江口さん。 (画面、浅野交通のオフィス。デスクを囲んで、課長と3人の社員、仕事中。江口、課長の脇に座り、電話している) (画面、ヤングトラベルのオフィスに一人のエレン) エレン (オフィスの中を見まわす) -005 【困惑の表現】今、わたししかいないんです。-006 ファックスの使い方、よくわからないんですが。	江口 -002 あ、江口だけど。 江口 -004 【行為の依頼】今ね、浅野交通さんにいるんだけど、ちょっと資料をファックスしてほしいんだ。
17' 23" エレン (振り向き、江口のデスクの上を見る) -010 ええと、ちょっと待ってください。(電話機のボタンを押して受話器を置き、立ちあがり、江口のデスクの上から紙を取り、見てうなづく。ファックスのそばの電話機の受話器を取り、ボタンを押す)-011 【要求内容確認の要求】はい。-012 これを、送るんですね。(うなづく) エレン (ひとりごと) -015 コピーみたいに？(原稿を裏返すと、メモが書いてある。資料の面を上に向けてファックスにセットする)-016 はい、乗せました。	江口 -007 うん、だいじょうぶ。 -008 簡単だよ。-009 【行為の指示】僕の机の上の山形県のホテルリスト。
	江口 -013 うん。-014 【行為の指示】まずそれをファックスに乗せて、コピーみたいに。
	江口 -017 【情報の提供】じゃあ、番号はね、ええと、よんきゅうゼロななの、ごおにいいいちいち。

エレン -018 はい。(画面、ファックスのダイヤルボタンを押すエレンの指) -019 4, 9, 0, 7, 5, 2, 1, 1。

エレン -021 [情報の提供] はい。(ファックスのディスプレイに表示された番号を読む) -022 4 9 0 7 5 2 1 1。(画面、エレン)

エレン -024 [要求内容確認の要求] ええと、(画面、ファックスの操作部分。右の端の四角い大きい緑色のボタンに「送信」の文字) この大きいボタンですね。(送信ボタンを押すエレンの指。原稿を読み込むファックス)(画面、ディスプレイを見るエレン)

エレン -027 [情報の提供] ソウシンチュウって出ました。

エレン -030 [接触の終了] はい。-031 それじゃ。(うなずき、電話を切る)

江口 -020 [情報の要求] 番号が
出た?

江口 -023 [行為の指示] よし、じ
やあ、送信ていうのを押して。

江口 -025 うん。

江口 -026 [情報の要求] どうな
った。

江口 -028 [話題の収束] あ、じ
やそれでOKだ。-029 どうもあ
りがとう。

場面(2) (時)直後。(場所)バス会社・浅野交通のオフィス。(設定)浅野交通課長は、40歳前後の女性。江口、訪ねてきて、バス手配の打ち合せをしている。

18' 44" ファックスに着信。取って読む浅野交通の男子社員。20代後半の男性。デスクの前の課長。江口、課長の横に置かれたいすに座っている。

課長 (書類にボールペンで書き込みながら江口に) -032 [意向確認の要求] 18日が3台、
19日が3台、20日が4台ですね。

江口 -033 [意向の確認] はい、それでけっこうです。

18' 56" 社員 (にやにやしながら、課長に近づく) -034 [行為の合図] 課長。(ファックスを
渡す)

課長 (ファックスを読み、江口を見てから声を出して読む) -035 9月26日、(江口、目を上
げ、課長の手元のファックスを横から見る) 美香誕生日。-036 6時、四谷ミステイ。(ファ
ックスを江口に渡す。江口、ファックスを見る。画面、ファックスに「9月26日 みかたん
じょう日 6時 よつやミステイ」のメモ。江口、驚いて口を開け、再びファックスを見る。
課長、江口のほうに上体を少し寄せ、デスクの上を見まわしながら) -037 [感想の叙述] いい
なあ、若い人は。(デスクの上に目を落とす)

19' 18" 口を開け、課長を見る江口。

セグメント 18 就職 一様子をきくー (ストーリーIV「恋人」(b))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 レストラン店員

{このセグメントの画面は、深沢の目で見た主観映像を基本にしている}

場面(1) (時) 9月中旬の金曜日夕刻。 (場所) 駅のコンコース。 (設定) 深沢良昭は、20代前半の男性。板橋経済大学4年生。現在、就職活動中。この日、東京の中野にある広告会社・道南情報に何度も会社訪問に行き、その後のこの時間、亜紀子と待ち合わせている。村井亜紀子は、20代はじめの女性。西北大学3年生。2週間ほど前に深沢と知り合い、この日、何度も会社のデートのため、授業を終えてかけつてくる。

19'30'' 広いフロアを行き交うおおぜいの人々。待ち合わせらしく、立っている人々。フロア中央の柱の上に取り付けられた案内表示。改札口、売店、レストラン。深沢の手元。会社訪問でもらってきた社内報をぱらぱらとめくる。左袖を少し上げ、腕時計を見る。駅ビル入り口の方へ行く。ショーウィンドウに近づき、自分のスーツ姿を映し、ネクタイとえりをなおす。走ってきて脇に立つ亜紀子が映る。振り向くと亜紀子がいる。

亜紀子 (こちらを見てやや急き込んだ調子) -001 【接触の開始】ごめんなさい。-002 授業が長くなっちゃって。

深沢 (声のみ) -003 行こうか。

(亜紀子、うなずく。画面、前方に見える下りの階段とエスカレーター。横を見ると、亜紀子、こちらを見てうれしそうにはほえむ。再び前方の階段。画面、ワイプ)

場面(2) (時) 後刻。 (場所) レストランの店内。 (設定) 深沢と亜紀子、食事をしようとしている。

20'20'' 店内に、白地に青い格子のテーブルクロスがかかるたテーブルがいくつか。木枠に緑の布張りのいす。それぞれに向かい合う客たち。壁のレンガづくり風の暖炉に近いテーブルに向かい合う深沢と亜紀子。画面、テーブルの向こう側の亜紀子。

亜紀子 (テーブルの端に置かれたポップアップメニューをつまみ、傾けて見る) -004 あ、キウイのワインがある。

深沢 (声のみ) -005 【提案の提示】飲んでみようか。

亜紀子 -006 うん。(メニューを置き、こちらを見る) -007 【情報叙述の要求】今日もあるの広告会社ですか。

深沢 -008 【情報の叙述】うん。-009 道南情報。(画面、深沢の手元のメニューから亜紀子)

亜紀子 -010 【説明の要求】どこにあるんですか。

深沢 -011 【事情の説明】中野の方。-012 本社は北海道の、ええと、札幌で、(画面、メニュー) 中野は支店だって。(画面、亜紀子)

店員(声のみ) -013 【意向表明の要求】お決まりですか。(斜め上を見上げる亜紀子)

20' 47" 画面、二人のテーブルの脇に立つ店員。注文する深沢に話しかける亜紀子。店員、メニューを持って去る。画面、隣のテーブルのカップルから向かい側の亜紀子。

亜紀子 (隣のいすからハンドバッグを取り、立ち上がりながらこちらを見る) -014 【接触の中斷】すいません、ちょっと。

深沢(声のみ) -015 ああ。

(亜紀子、席を立ち去る。画面、ワイプ)

場面(3) (時)後刻。(場所)同じレストランの店内。(設定)深沢と亜紀子、食事中。

21' 02" 画面、テーブルの向かい側に座っている亜紀子。やや硬い表情。

亜紀子 (目を上げこちらを見るが、すぐ目を伏せ、脇を見て) -016 【情報叙述の要求】就職、決まりそうですか。

深沢(声のみ) -017 【情報の叙述】うん。-018 たぶん、今日のどこに入ると思うな。

亜紀子 (こちらを見て少しほほえみ、うなずいて、再び目を伏せる。やや問い合わせる口調) -019 【説明の要求】じゃあ、歌手はあきらめるんですか？

深沢 (画面、手元のグラスに移り、再び亜紀子) -020 【事情の説明】それは夢さ。(亜紀子、こちらをちらっとにらむ。深沢 ややむきになつた口調) -021 歌手なんても、生活できないよ。(画面、グラスから亜紀子。亜紀子、鋭い目でこちらをちらちらと見る) -022 ……歌は、続けるよ。(再びグラスから亜紀子)

亜紀子 (グラスをとってキウイワインを一口飲み、グラスを置く。目を伏せたまま、ややかすれた声で) -023 【説明の要求】……北海道行っちゃうんですか？

深沢 (画面、隣のカップル。再び目を伏せたままの亜紀子) -024 【事情の説明】まだわからぬよ。-025 あの会社に就職したら、たぶん、研修は札幌だろうけど。-026 そのあと、どこへ行くことになるかわからない。

亜紀子 (上目づかいで深沢をにらみ、小声で) -027 【意向の表明】東京について。

深沢 (亜紀子の方に少し顔を近づける) -028 だいじょうぶだよ。

22' 01" こちらをじっと見つめる亜紀子。

セグメント 19 校外学習 一話し合う一 (ストーリー I 「勉強」(e))

登場人物 張玉萍 後藤紀子 パチャリー・ラタナーワン ロイド
ミーチャ アレミン アルバー ダナヤー

場面(1) (時) 9月中旬の水曜日午後の1時間目。(場所) 日本語学校の教室。(設定) 授業中。担当教師の後藤紀子は、40歳前後の女性。学生たちのうち、張玉萍は、中国人女性。パチャリー・ラタナーワンは、タイ人女性。ロイドは、オーストラリア人男性。ミーチャは、ロシア人男性。アルバーは、デンマーク人男性。アレミンは、イラン人女性。ダナヤーは、タイ人女性。

22' 16'' テーブルのついた学生用のいすが並んでいる。壁に日本地図。隅にテレビ。窓際の壁の掲示板に数枚の掲示物。学生たち、席に座っている。後藤、教卓の向こうに立っている。黒板に「校外学習について」の板書。

後藤 (学生たちを見回しながら) -001 【意向表明の要求】来月の校外学習について、みなさんの意見を聞きます。(振り向き、左手の指をそろえて手のひらをこちらに向け、黒板の文字を一字ずつ指しながら) -002 【事情の説明】校、外、学、習というのは、学校の外で勉強するということです。(学生たちの方に向き直る) -003 予算は一人2500円です。
-004 みなさん、どこへ行きたいですか。

ロイド -005 【意向の表明】カラオケがいいです。-006 日本語の勉強になります。

ミーチャ -007 【意向の表明】わたしは、歌が下手ですから、ボーリングの方がいいです。

アルバー (ミーチャの方を振り向き) -008 【意向の表明】あ、ディスコもいいですよ。(学生たち、アルバーを見る)

後藤 (学生たちを見回しながら) -009 【意向への不同意】ボーリングやディスコは勉強になりますか。(ミーチャ、大きくうなづく)

アレミン -010 【意向の表明】じゃ、動物園はどうですか。

22' 57'' 張 (手をあげる。学生たち、張を見る) -011 【提案の提示】みんなで話すより、グループに分かれて意見をまとめたらどうでしょうか。

後藤 (ほほえみ、うなづいて見回す) -012 【要求への了解】え、それがいいですね。(画面ワイプ)

場面(2) (時)直後。(場所)同じ教室。(設定)学生たち、グループに分かれて話し合っている。向こうに、ミーチャ、アレミン、ダナヤー、アルバーのグループ、いすを輪にして座っている。こちらに、張、パチャリー、ロイドのグループ。同じく輪になって座っている。後藤、教卓の向こうに座っている。

23' 08'' 張 (他の二人を見ながら) -013 【事実の指摘】10月は台風が来るかもしれないから、雨が降っても行けるところがいいと思うんです。

パチャリー -014 【事情の説明】あのう、(ロイドを見てから張に) この間、友達が水族館に行ったんです。-015 魚がたくさんいて、とてもきれいだったそうです。

ロイド (うなづく) -016 【説明の要求】どこの水族館ですか。

パチャリー (ロイドに) -017 【事情の説明】葛西です。(張に) -018 東京駅から電車で10分ぐらいです。

張 (他の二人に) -019 [評価の表明] 近いし、雨が降っても行けるし……、勉強になりますよね。

ロイド -020 [見解の表明] んー、(パチャリーに) 水族館にしましょう。(張、うなずく)
(画面、ワイプ)

場面(3) (時)後刻。(場所)同じ教室。(設定)グループごとに話し合いの結果を発表する。

23' 48'' 学生たち、黒板の方に向いて座っている。

ミーチャ (立って発表する。両手でレポート用紙を持ち、読む。学生たち、前を向いたまま聞いている) -021 [提案の提示] わたしたちは、日光へ行くのがいいと思います。-022 日光には有名な神社があります。-023 10月はもみじがきれいです。-024 山にのぼったり、湖でボートに乗ったりすると、楽しいと思います。(横の席のロイドを見る)

24' 03'' ロイド (ミーチャを見上げる) -025 [説明の要求] 雨が降ったらどうするんですか。

ミーチャ (ロイドを見おろす) -026 [見解の表明] 雨は降らないと思います。(学生たち、ざわつく。ミーチャ、学生たちを見回し、上から押さえるように手のひらを動かしながら) -027 雨が降ったら、日光でボーリングをしましょう。(一同失笑。アレミン、手のひらでたたくようなしぐさ)

張 (上半身を後ろにひねり、ミーチャを見上げる) -028 [事実の指摘] 日光は、かなり遠いんじゃないかなと思いますけど。

ロイド (ミーチャを見上げる) -029 [事実の指摘] それに、お金が足りないでしょう。

ミーチャ (ロイドを見る) -030 [事情の説明] それが問題です。-031 たぶん、一人2000円ぐらい集めなければなりません。

一同 (不満そうな声) -032 えー?

場面(4) (時)直後。(場所)同じ教室。(設定)パチャリーが発表する。

24' 31'' パチャリー (教室の前に学生たちに向かって立っている) -033 [提案の提示] わたしたちは、水族館がいいと思います。-034 東京駅から電車で10分ぐらいの葛西というところにあります。(学生たち、パチャリーを見て時おりうなずいている) -035 近いし、雨が降ってもだいじょうぶです。-036 近くの海岸で遊ぶこともできます。

ミーチャ (パチャリーを見ながら首を少し横に振る) -037 [意向の表明] わたしはその水族館へ行ったことがありますから、もういいです。

パチャリー (ミーチャに) -038 [見解の表明] でも他の人は行ったことがありません。

24' 55'' 直後、後藤、教卓の向こうに立ち、学生たちの方を向いている。

後藤 -039 [行為の指示] では、手をあげて決めましょう。(右手のひらを肩の高さに上げて見せる) -040 まず、日光へ行きたい人は、手を上げてください。(手を上げて見せる) …… (ミーチャ、一人だけ右手を高く上げる。まわりを見回し、他にだれも手を上げていないのを見て、左手も上げる。他の学生たち、ミーチャを見て笑う)

セグメント 20 花 火

(映像素材(b))

登場人物 青年 女の子
お寺の住職 住職の奥さん おばあさん 子供たち

{このセグメントの音声は、主音声に映像に伴う実況音と登場人物のせりふ、副音声にナレーションが録音されている}

映像・主音声	副音声
場面(1) (時) 9月中旬のある日、夜8時ごろ。 (場所) すっかり暗くなった田舎道。	
25' 18" 走ってくるオートバイ。道の片側は木の茂った丘の斜面。反対側は水田。	
25' 22" 青年、オートバイを止めてヘルメットの風防を上げる。燃料タンクの上の地図を調べ、困ったように辺りを見回す。	ナレーション -001 ぼくはバイクで旅をしていました。-002 その日は友達のいえに泊めてもらうつもりでしたが、道がわからなくなってしまいました。
25' 34" 走るオートバイ。	
25' 37" 水田の向こうの丘の中腹にこんもりとした森に囲まれた寺が見える。丘の下の道に止まるオートバイ。寺を見上げる青年。	
25' 40" 寺への道を登るオートバイ。	-003 一軒のお寺をみつけたので、中に入っていきました。
25' 44" 境内に止められたオートバイ。その向こう、庫裏の入り口で奥さんと話す青年。かっぽう着の奥さん、うなずく。頭を下げ中へ入っていく青年。	-004 お寺の人に頼んで、一晩泊めてもらうことにしました。
25' 54" 境内の観音像。	
場面(2) (時) 後刻。 (場所) 本堂の中。青年は、寺の本堂に泊めることになり、荷物の整理を終えてひと休みしようと縁に出る。	
25' 58" 広い畳敷きの堂内。ふとんが敷いてある。青年、荷物を整理してから、勾欄のある回廊に出て、きざはしの最上段に座る。	ナレーション -005 お寺の人は、広いたたみのへやにふとんを敷いてくれました。
青年 -006 ああ、疲れた。	
庭を見まわす。軒先に見える月。墓場の墓石、塔婆、石仏。	-007 秋の虫が鳴いていました。 -008 月がきれいでした。-009 涼しい風が吹きました。-010 少しこわくなりました。
場面(3) (時) 直後。 (場所) 本堂の回廊。	
26' 30" 本堂の縁に座る青年の背中。突然だれかが肩に手を置く。驚いて振り向くと、青い地の花模様の浴衣に黄色い帯をしめ、花火の束を持った10歳ぐらいの女の子が立っている。	ナレーション -011 だれかが肩にさわりました。
青年 -012 ああ、驚いた。-013 君だれ？ -014 このうちの子？	

女の子、手に持った花火を青年の目の前に差し出し、やろうとせがむ様子。

青年 -016 花火やりたいの？

26' 46" 女の子、きざはしの下にあった下駄をはき、庭に降り、やや離れたところまで行き、手招きする。青年、同じく下駄をはき、庭に降り、近づく。女の子、胸元の帯の間からマッチの箱を出して青年に渡し、その場にしゃがむ。青年、同じくしゃがみ込み、マッチをすり、女の子が1本出す花火に火をつけてやる。女の子、花火の火を少しあがめてから、残りの花火の束を青年に差し出す。

青年 (女の子を見る) -020 ぼくにもくれるの？

-021 じゃあ、いつしょにやろうか。

青年、花火を1本とり、女の子が持つ花火から火を移す。

27' 32" 女の子、うれしそうに花火を見つめる。画面、燃える花火。

場面(4) (時) 翌朝。(場所) 本堂内部の畳敷き。(設定) 青年、知らぬ間にふとんの中で眠っている。

27' 44" 青年、ふとんの中で目を開け、起き上がる。

青年 -024 あれ、いつ寝ちゃったんだろう。

両手を大きく突き上げてあくびをし、あたりを見回す。

27' 59" 画面、朝の寺。稻の実ったたんぽで稻刈りをする人。コスモスの花。

-015 それは、一人の女の子でした。

-017 女の子は、浴衣を着て、手に花火を持っていました。-018 女の子は、花火をやりたがっていました。

-019 火をつけてやると、女の子はとてもうれしそうでした。

-022 それから、ぼくたちは、何本も何本も花火をしました。

ナレーション -023 目が覚めると、ぼくはふとんの中にいました。

場面(5) (時) 後刻。(場所) 寺の庫裏。(設定) 住職の家族といっしょに庫裏で朝食をとる。

28' 10" 土間に置かれたテーブルに住職夫婦。上がりがまちの座卓に二人の子供と青年。一同、朝食中。おばあさん、茶わんと汁椀を盆に乗せ、土間からかまちを上がり、部屋の隅の仏壇に運ぶ。青年、振り向いて仏壇の方を見る。仏壇に供えられた花や果物。位牌、写真、香炉、ろうそくなど。おばあさん、供え物を仏壇に上げ、りんを鳴らし、手を合わせて拝む。

28' 30" 驚く青年。仏壇に、浴衣を着て花火を持った昨夜の女の子の写真。

ナレーション -025 お寺の人といっしょに朝ご飯を食べました。
-026 部屋の隅には、仏壇がありました。

-027 仏壇には、小さな写真が置いてありました。

ユニット 3 とてもいいですね

セグメント 21 海の底 —ことばで表す— (ストーリーII「友達」(g))

登場人物 王崇梁 山田康浩 朴海煥 小川明美

場面(1) (時) 2月初めの休日、昼前。 (場所) 水族館前。

00' 06" チケット売り場の窓口。入口のゲート。奥は薄暗い。入っていく客たち。

場面(2) (時) 同じ時。 (場所) 水族館内、海底フロア入り口。 (設定) 王崇梁は、20代後半の中国人男性。南海大学大学院教育学専攻の大学院生。朴海煥は、20代なかばの韓国人男性。南海大学大学院教育学専攻の大学院生。王の先輩。山田康浩は、20代なかばの男性。南海大学国語学科の助手。王の友人。小川明美は、20代前半の女性。大野中央病院の看護婦。山田のガールフレンド。この日、4人で水族館見物に来ている。

00' 11" 真っ暗な通路から出てくる王、山田、朴、小川。それぞれ、コートを手に持っている。通路を抜けると、ガラスのトンネル。上と両側は大水槽。泳ぐ魚やカメ。

小川 (頭上の水槽を見上げ、見回して感激した様子) -001 わあ。

山田 (頭上を見上げて) -002 へええ。

朴 (頭上を見上げて) -003 【感想の叙述】おもしろい。(他の3人に) -004 海の底にいるようですねえ。

(一同、上やまわりを見回す)

小川 (山田を見て声をひそめ、心配そうに) -005 【困惑の表明】ねえ、これ、ガラスでしょ。-006 壊れないかな。

山田 (笑いながら) -007 まさか。

王 (見回しながら) -008 【見解への同意】でも、やっぱりこわいですよね。

朴 (右手を上に伸ばしガラスの継目を指す) -009 【見解への同意】こういうところ、どうやって付けてあるんでしょうねえ。

小川 (朴を軽くにらむ) -010 いやあだ。-011 やめてくださいよお。(ほおをふくらます)
(一同、互いに笑いあい、やや真顔になって再び頭上や周囲を見回す)

場面(3) (時)直後。 (場所) 水族館、海底フロアのガラストンネルの中。

00' 40'' 水槽いっぱいに泳ぐ魚たち。ガラスの向こうから見ている人間たち。小川、王、ガラスのトンネルの中に立ち、水槽の中を見回している。

小川 (右手を顔の前に上げ、人差し指で水中の魚を指す) -012 [感想の叙述] あ、あれ、きれいねえ。-013 とってもスマート。(王、小川が指す方を目で追う) -014 [情報提供の要求] なんていう魚かしら。

王 -015 [情報提供の要求] ええと、どれですか。

小川 (指で追いながら) -016 [事情の説明] ほらほら、あそこ。(画面、泳ぐシマアジ)

-017 わりに大きくて、銀色で、しっぽの方に黄色い線がある。(画面、小川と王)

王 -018 ええと、黄色い線。(ガラスの内側下部に置いてある説明のプレートを見る) -019 [情報の提供] あ、これでしょう。(プレートを指さす。画面、「シマアジ」の文字と写真の入ったプレート) -020 シマアジだそうですよ。(画面、小川と王)

小川 (プレートをのぞく) -021 [情報提供への注目表示] ええ？ あれがシマアジ。-022 お刺身にすると、おいしいのよね。

(山田と朴、後ろから来て王と小川の横に立つ。画面、泳ぐマダイ)

王 (声のみ) -023 [情報の提供] あれは、マダイでしょう。(画面、小川)

小川 (王が指す方を目で追う) -024 [情報提供への注目表示] どれどれ、タイもおいしいんですよ。

朴 (斜め後ろから小川の顔をのぞき込む) -025 [情報確認の要求] 小川さん、魚の料理はしないんでしょう。

小川 (朴の方を振り向き、にらむふり) -026 [情報の訂正] 朴さん！ もう。-027 最近は、やってるんですよ。-028 カレイとか、タコとか。(画面、下半分を3分割して、左に海底のカレイ、中央に岩の上のタコの映像)

山田 (小川を見ながら) -029 [情報確認の要求] ウナギとかね。(画面下右にウナギの映像)

小川 (山田に) -030 [情報の確認] そうそう、目がない魚ね。

王 (朴と顔を見合わせる) -031 [説明の要求] 目がない魚？

山田 (朴と王に) -032 [事情の説明] ほら、カレイもタコも、切って売ってるでしょう。(画面下の映像、左からそれぞれカレイの切り身のパック、タコブツ、ウナギの蒲焼きに変わる)

小川 (王と朴を振り向いてにらみ、口をとがらせ、抗議するような口調) -033 [事情の説明] だって、魚の目って、気持ち悪いんですよ。

(王、朴、うなずきあい、納得する。山田、横目で小川を見る)

01' 46'' 画面、泳いでくるサメ。

朴 (声のみ) -034 [情報提供の要求] あ、あれ、日本語で何と言いますか。

(画面、指さす朴と山田、小川、王。山田、右手を胸の前に上げて朴の指した方を指す)

山田 -035 え、あれですか。-036 【情報の提供】ええと、サメですね。-037 そうそう、カマボコはサメから作るそうですよ。(朴を見る)
朴 -038 へえ。

02' 02" 画面、泳ぐマルコバン。画面、朴。朴、ガラス下部のプレートを見る。画面、「マルコバン」の名と写真の入ったプレート。

朴 (声のみ) -039 【感想の叙述】マルコバン? (画面、朴) -040 変な名前ですねえ。(山田を見る)
山田 -041 【見解の表明】ええっと、(少し考え、笑顔になって) マル・コ'バンでしょう。
-042 小判って、ほら、(腹の前で両手の親指と人差し指で小判の形を作る。小判の映像が重なる) 昔のお金。
朴 (山田の手元をのぞき込み、視線を上げて山田を見る) -043 【見解への同意】あ、そうか。
-044 丸い小判みたいだからですね。

場面(4) (時)後刻。(場所)水族館内、「イルカの窓」の前。

02' 23" 壁に作られた「イルカの窓」のガラスの向こうはイルカの水槽。水中に射し込む光の中を数匹のイルカが泳ぎ回っている。王、朴、山田、小川、泳ぐイルカを窓から見ている。

小川 (窓の中を見ながら) -045 【感想の叙述】いいなあ。-046 わたしも、早くイルカといっしょに泳げるようになりたあい。
山田 (小川の方に振り返り、不審そうに見て) -047 【説明の要求】え、イルカといっしょに?
小川 (窓の中を見たまま) -048 【事情の説明】あ、わたし、最近ダイビングを習ってるの。
山田 (口をとがらし、不満そうに小川を見たまま) -049 【情報提示への注目表示】へえ、知らなかつた。
小川 (窓の中を見ながらうれしそうに) -050 【情報の叙述】コーチが、ハンサムな人でねえ。
山田 (小川を見て口をとがらし、むつとした調子) -051 なんなの、それ。(小川、山田を見る)
王 (ほほえんで、山田に) -052 【行為の勧め】山田さんも、ダイビング習わなくちや。
朴 (小川に顔を少し寄せて) -053 【意志の表明】僕もやってみようかな。
小川 (朴を見る) -054 ええ。-055 【行為の申し出】わたしが行ってるスクール、紹介しましようか。(朴、うなずく)

02' 53" 窓の前の4人の間に子供が割り込んでくる。窓の向こうを通り過ぎるイルカ。

セグメント 22 少々お待ちください 一応接一 (ストーリーⅢ「仕事」(f))

登場人物 クラウディア・ロッシ 江口徹
社員A 山内孝雄 橋本しづ子 (声のみ)

場面(1) (時) 2月中旬の平日、午前11時ごろ。(場所) 旅行社・ヤングトラベル企画課のオフィス。(設定) 江口徹は、20代後半の男性。ヤングトラベル企画課の社員。この日、同じ課の先輩・池田洋子は、仕事で外出中。社員Aは、20代なかばの男性。ヤングトラベル総務課の社員。

03'10'' 江口、デスクで仕事中。社員A、ファイルを持って入ってきて、デスクの間の通路に立ち、室内を見回す。

社員A (見回しながら) -001 【情報提供の要求】ええっとお、(江口に) 池田さん、いらっしゃいます? (江口、見上げる。クラウディア、向こうの席で振り返る)

江口 -002 【情報の提供】あ、ごめん。-003 今日は、朝から出かけてる。-004 帰ってこないと思うな。

社員A (困った様子) -005 【情報提供の要求】あ、そうですか。(江口、視線を落とし、書類を見る) -006 あしたは。

江口 (社員Aを見る) -007 【情報の提供】午前中は、いるはず。

社員A -008 はい。-009 どうも。(軽く会釈する)

江口 (うなずく) -010 うん。

(社員A、出て行く)

場面(2) (時) 同じ日の午後。(場所) ヤングトラベル企画課のオフィス。(設定) クラウディア・ロッシは、20歳前後のイタリア人女性。ヤングトラベルで長期アルバイトをしている。山内孝雄は、30代の男性。旅行代理店・サクラツアーズの社員。この日、ヤングトラベル企画課の池田と打ち合せをする約束で訪ねてきたが、池田は外出中。

03'35'' 1時58分を指す時計。

山内 (少し頭を下げながら入ってくる。左手にコート、右手に書類カバンと封筒を持っている) -011 【接触の開始】ごめんください。(室内の一回、顔を上げる。山内、カウンターの向こうから池田の席を見るが、不在なので、室内を見回し、声をかける) -012 サクラツアーズの山内でございますが、……(クラウディア、立ち上がり、カウンターに近づく。山内、クラウディアに) -013 【行為の依頼】池田さんは、いらっしゃいますでしょうか。

クラウディア (軽く頭を下げる) -014 【事情の説明】申し訳ありません。-015 池田は、今日外へ出ておりますが。

山内 -016 【説明の要求】あ、(戸惑った様子で室内を見回す) 今日ですね、あのう、(一度目を伏せ、再びクラウディアに) 2時のお約束だったんですが……。

クラウディア -017 はあ。(室内を振り返り、部屋に入ってくる江口を見つけ、山内に軽く頭を下げながら) -018 【接触の中斷】少々お待ちください。(江口に近づく) -019 【要求内

容提示の要求 江口さん、(上体を山内の方に向け、手のひらで示して) サクラツアーズさんなんんですけど、(江口、山内を見る。二人、互いに目礼しあう) 池田さんから聞いてますか。

江口 (うなずく) -020 **【行為の指示】** あ、聞いてる、聞いてる。-021 応接室へご案内して。(再び山内に目礼して去る)

クラウディア (うなずく) -022 はい。(カウンターにもどり、山内に頭を下げる) -023 **【接触の再開】** 失礼いたしました。(部屋の奥を左手で指す) -024 **【行為の指示】** こちらでちょっとお待ちください。

(クラウディア、先に立って応接室に向かう。山内、軽く頭を下げ、続く)

場面(3) (時) 後刻、午後2時28分。(場所) ヤングトラベル企画課のオフィス。(設定) 橋本しづ子は、50代の女性。企画課長・谷山治男の行きつけの料理屋の女将。

{この場面の音声は、主音声に江口の声などオフィスの実況音、副音声に電話の橋本の声}

画面・主音声	副音声
04'23" 画面、2時28分を指す時計。画面、鳴り出す電話機。江口、受話器をとる。 江口 -025 【接触開始の受け入れ】 はい、ヤングトラベル企画課でございますが。	橋本 (電話の声) -026 【行為の依頼】 あのう、谷山さん、いらっしゃる?
江口 -027 【接触の中止】 ええ、(谷山の席を見るが、不在。室内を見回す) 少々お待ちください。(受話器を押さえ、向かって側に座っているクラウディアに小声で) -028 【情報提供の要求】 クラウディアさん、(クラウディア、顔を上げ江口を見る) 課長は?	
クラウディア -029 【情報の提供】 あ、ええと、(後方を顔で指す) トイレだと思います。(下を向き、仕事を続ける)	
江口 (受話器を押された手を離し、軽く頭を下げる) -030 【接触の再開】 お待たせいたしました。-031 【事情の説明】 ただ今、ちょっと席を外しておりまして、すぐもどると思いますが。	橋本 -032 【接触の終了】 あらあ、じゃあ、またかけます。
江口 -033 【接触終了の受け入れ】 申し訳ございません。-034 【行為の申し出】 何かお伝えいたしましょうか。	橋本 -035 【申し出の拒絶】 いえつ、結構です。
04'59" 江口 -036 【接触終了の受け入れ】 はい、よろしくお願ひいたします。(頭を下げ、橋本が切るのを待って受話器を置く。クラウディア、江口を見る)	

セグメント 23 これはどうですか ー相談するー (ストーリー I 「勉強」(f))

登場人物 張玉萍 図書館職員

場面(1) (時) 2月15日午後4時ごろ。 (場所) 日本語学校近くの公共図書館の読書相談カウンター付近。 (設定) 張玉萍は、20歳前後の中国人女性。東京都内の日本語学校に通う就学生。勉強のため、本を探しに図書館に来ている。図書館職員は、30代後半の女性。

05'21" カウンターに「読書案内」の文字。向こうに低い書架。その向こうに閲覧席。数人の利用客。張、財布を持ち、カウンターに近づいて奥に声をかける。

張 -001 [接触の開始] すいません、……。

職員 (奥からカウンターに近づき、張と向き合う) -002 はい。

張 -003 [事情の説明] あのう、日本がアジアから輸入している物のことを調べているんですが。

職員 -004 あ、貿易ですか。

張 (うなずく) -005 [情報提供の要求] はい、何かわかりやすい本はないでしょうか。

職員 (左手で奥の方を指し、先にたって歩き出す。張、続く) -006 アジアからの輸入についてわかりやすく書いた本。……

05'46" 画面、書庫の中。両側に天井近くまでの書架が並んだ間の通路。書架を埋めた図書。職員と張、入ってくる。

職員 -007 [説明の要求] うーん、輸入というと、(頭をうなずくように動かしながら) どんな物を輸入しているかとか、どうやって運ぶかとか、いろいろな問題がありますよねえ。(張を振り返る)

張 (うなずく) -008 [事情の説明] ええ、特に、東南アジアからの輸入品の種類のことを。

職員 -009 ……そうですね。(考えながら書架の本を見回し、張を見る) -010 [説明の要求] 日本語でいいんですね。

張 -011 [事情の説明] はい。-012 できるだけ新しいのを……。

職員 -013 [情報の提供] こんなのはどうですか。(書架から1冊の本を出し、両手で張に渡す)

張 -014 [情報提供への注目表示] ええと、(画面、表紙の「アジアの経済と日本」「現代経済研究所編」の文字)「アジアの経済と日本」、現代経済研究所編。(画面、張、本を開いて見る)

職員 -015 [情報の提供] それから、(別の本を出して見せ、ページをめくる) これもいいかもかもしれません。-016 工業製品については、これがいちばん詳しいと思いますよ。-017

ええ、(奥付を見る) 3年前だから、ちょっと古くなっているかもしれませんけど。

張 (本を受け取り、2冊重ね、職員を見る) -018 【意志の表明】あ、でも、一応見てみます。

06' 29" 職員 -019 【意向表明の要求】ええと、(左手で閲覧室の方を指す) ここで見ますか。

-020 それとも、借りてゆきますか。

張 (本を持った右手でカーディガンの左袖を少し持ち上げ、腕時計を見る) -021 【意向の表明】ええと、ちょっと時間がないので、

職員 -022 【行為の指示】じゃ、(右手でカウンターの方を指す) こちらへどうぞ。(張の脇をすり抜け、先に立ってカウンターの方へ歩きだす)

張 -023 はい、(軽く頭を下げる) ありがとうございます。(後に続く)

職員 (立ち止まって振り返る) -024 【行為の勧め】あと、(張が持っている本を左手で指す) その本の参考文献のリストを見ると、もっといろんな本が出ているでしょう。

(張、うなずく。職員、うなずき、歩きだす。張、続く)

場面(2) (時)直後。(場所)図書館の貸出しカウンター。(設定)紹介してもらった本の貸し出し手続きをする。

06' 51" 低いカウンターの前面に「貸出・返却」の文字。カウンターの内側にパソコン。奥にいくつかのデスク。仕事をする他の女性職員。職員、カウンターの内側に入ってきてパソコンの前に座る。張、カウンターの外に立つ。

職員 (張に) -025 【行為の指示】それじゃ、ちょっと貸してください。

張 -026 はい。(本をカウンターに置く)

職員 (両手で受け取りながら) -027 【行為の指示】貸し出しカードはありますね。

張 -028 はい。(財布から貸し出しカードを出し、渡す)

(職員、カードを受け取って裏返し、2冊の本と並べてカウンターに置き、貸し出しカードのバーコードと本のバーコードをリーダーでなぞり、本を上に向け、それぞれに返却日票をはさみ、きちんとそろえて重ねた上にカードをのせ、張の方に向かって、両手で差し出す)

職員 -029 【行為の合図】はい、どうぞ。

張 (両手で受け取る) -030 どうも。

職員 (張を見ながら) -031 【行為の指示】貸し出しあは2週間ですから、(カウンターの上のカレンダーを見て) 3月ついたままでに返してください。(頭を少し下げる)

張 -032 はい。(頭を下げる) -033 【接触の終了】どうもありがとうございました。

07' 23" 職員、頭を下げる。張、去る。職員、パソコンに向かい、キーボードを打つ。

セグメント 24 静かに！－うわさ話－

(ストーリー I 「勉強」(g))

登場人物 張玉萍 パチャリー・ラタナーウン ミーチャ
図書館の利用客たち

場面(1) (時) 2月中旬の平日、午後4時ごろ。**(場所)** 日本語学校近くの公共図書館閲覧室。**(設定)** 張玉萍は、20歳前後の中国人女性。東京都内の日本語学校に通う就学生。パチャリー・ラタナーウンは、20歳前後のタイ人女性。張の同級生。ミーチャは、20代のロシア人男性。張、パチャリーの同級生。この日、張とパチャリーは、図書館で勉強している。

07'36" 閲覧室。テーブルが並んでいる。向こうに並んだ書架。テーブルで静かに本を読んだり勉強している利用客たち。張とパチャリー、テーブルの上に辞書、教科書、ノートなどを並べ、調べ物をしている。ミーチャ、室内を見回しながら書架の間を抜け、入ってくる。

ミーチャ (張たちをみつけ、近寄りながら大声で話しかける) -001 【接触の開始】ああ、張さん。

(室内の人々、一齊にミーチャと張たちを見る)

張 (振り向き、そばに来たミーチャにささやく) -002 【接触開始の受け入れ】どうかしたんですか。

ミーチャ (張とパチャリーの方にかがみ込み、両手をテーブルの上にある本の上に置き、小声で) -003 【情報の提供】知っていますか。-004 後藤先生は、外国へ行ってしまうそうです。

張 -005 【情報提供への注目表示】へえ、(驚いたように目を見開き、首を横に振りながらパチャリーと顔を見合わせる。パチャリーも首を振る) 知りませんでした。

パチャリー (ミーチャに) -006 【説明の要求】どこですか。

ミーチャ -007 【事情の説明】アデレードだそうです。

張 (ミーチャからパチャリーに視線を移す) -008 【説明の要求】アデレードって、どこですか。

パチャリー (張に) -009 【事情の説明】オーストラリアです。(張 うなずき、ミーチャを見る)

ミーチャ (声が大きくなる) -010 【事情の説明】2月の終わりに行ってしまうんです。

(張、パチャリーと顔を見合わせ、ミーチャを見る)

ミーチャ (大声で) -011 【評価の表明】私は最後まで後藤先生に習いたい。(両手のこぶしでテーブルの本を激しくたたく)

(画面、一齊にこちらを見るまわりの人々の険しい表情。画面、ミーチャと張、パチャリー)

張 (手のひらを肩の高さで下に向けて押さえるように動かし、責めるような調子でささやく) -012 【行為の制止】ミーチャさん。

08'17" ミーチャ、振り向いて室内を見回し、あわてて首をすくめ、両手で口を押さえる。

場面(2) (時)直後。 (場所)図書館の玄関前。 (設定)ミーチャが大声を出すので、張とパチャリーもいっしょに逃げ出してくれる。

08' 23'' 図書館の前。手前に「私立第二図書館」の案内表示。スロープになった通路のまわりは公園の木立。張、パチャリー、ミーチャ、玄関から出てスロープを駆け上がってくる。

張 (ミーチャを見て少し責めるような口調) -013 [評価の表明] もう、ミーチャさんたら、声が大きいんだから。(パチャリーを見る) -014 ねえ。(パチャリー、笑いながらうなずく)
ミーチャ (頭を少し下げる) -015 すみません。 -016 [評価の表明] でも、とても残念ですね。

張 (ミーチャを見る) -017 [見解の表明] 先生が行きたいなら、しかたがないでしょう。

08' 39'' パチャリー (張とミーチャの方に向き直り、笑顔になって両手を顔の前で打つ) -018 [提案の提示] 先生が出発する前に、パーティーをしましょう。(3人、立ち止まる)

張 (パチャリーに) -019 [要求への了解] あ、そうですね。 -020 送別会。

パチャリー (うなずいて張に) -021 そうべつかい。

ミーチャ (うなずき、真顔になって二人に) -022 [要求への了解] うん、やりましょう。
-023 [提案の提示] いつにしますか。 -024 来週の金曜日はどう?

張 (ミーチャに) -025 [事実の指摘] 先生の都合をきかなくちゃ。 -026 外国へ行く前だから、とても忙しいはずですよ。

ミーチャ (うなずく) -027 [見解の表明] あした、学校できいてみましょう。(張とパチャリー、うなずく。ミーチャ、張とパチャリーに) -028 [見解表明の要求] 場所は? -029 どこがいい? -030 プレゼントは、何がいい?

張 (横目で宙を見る) -031 そうねえ。

09' 06'' ミーチャ -032 [提案の提示] そうだ、(右手を斜め上に伸ばし、公園の外に見えるビルの上の方を人差し指で指す) あのビルの中に(画面、ビルの外景) おいしいロシア料理の店があるんです。

(画面、指さすミーチャと見上げる張、パチャリー。音声、フェイドアウト。ミーチャ、指さしたまま熱弁を振るう。張、パチャリー、見上げ、指さしたりしながら聞いている。だいぶ通行人が立ち止まり、3人の後ろに集まってその方を見上げる。5、6人の人ばかりになったのに気づいた張、ミーチャとパチャリーを引っ張ってこつそり抜け出す。通行人たち、少しの間見上げていたが、何もないで、散っていく)

10' 48'' ミーチャが指していたビルの横をUFOが飛ぶ。

セグメント 25 卒業コンサート

(ストーリーIV「恋人」(c))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 杉山直樹

場面(1) (時) 3月初め、金曜日の夕刻6時すぎ。**(場所)**板橋経済大学講堂入り口。**(設定)**深沢良昭は、20代前半の男性。板橋経済大学経済学部4年生。大学の民謡研究会に所属している。この日、卒業を控えた4年生のために民謡研究会の演奏会が開かれており、深沢も出演する。杉山直樹は、板橋経済大学3年生。民謡研究会で深沢の後輩。この日、深沢の伴奏をする。

10' 07" 板橋経済大学講堂の前。外は夕闇。講堂の中のロビーは明るい。外の柱に「板橋経済大学民謡研究会卒業演奏会」の立て看板。入口に受付のテーブルが置かれ、女性が二人座っている。三々五々集まってきて受付でプログラムを受け取り、入っていく学生、OB、父兄たち。

10' 28" 画面、講堂内部。暗くなった客席は、ほぼ満席。照明が当たっている舞台正面上に「板橋経済大学民謡研究会卒業演奏会」の吊り看板。舞台中央とやや上手寄りにマイク。

アナウンス -001 次は、経済学部4年、深沢良昭君。-002 曲は、南部牛追い唄。-003 尺八伴奏は、商学部3年、杉山直樹君です。

場面(2) (時)後刻。**(場所)**板橋経済大学講堂内。**(設定)**村井亜紀子は、20歳前後の女性。西北大学3年生。深沢の恋人。この日、深沢の演奏を聞きにくる。

10' 35" 深沢と尺八を手にした杉山、舞台上手から登場。会場から拍手。会場後方のドアを開けてそっとすべり込みドアの脇に立つ亜紀子。画面、舞台の深沢と杉山。舞台中央やや奥で礼、前に進み出て、深沢は中央のマイク、杉山は上手のマイクの前に立つ。深沢、杉山を振り返り、うなずいて見せる。杉山、尺八を口に当て、前奏を吹きはじめる。壁にもたれて演奏に聞き入る亜紀子。深沢、目を閉じ、歌いはじめる。

{以下、音声は、主音声に深沢の歌、副音声には、画面に現れる早春の山野の風景に伴う実況音}

11' 16" 画面、亜紀子の横顔にオーバーラップして上空から見た雪山。

11' 27" 木から落ちる雪。雪解けのしづく。せせらぎとミズバショウの花。フキノトウ。

11' 50" ネコヤナギの芽。セキレイ。空に伸びる木の芽。木の枝でさえずる小鳥。

12' 17" 道沿いの水路と水車。ツクシ。

12' 35" 山村の風景。大きなわらぶき屋根の家々。犬の鳴き声。

12' 44" 農家の縁側の女の子とおばあさん。ニワトリの鳴き声。

12' 48" 馬を使ってしろかきをする農夫。

12' 56" 雪の残る山の裾に咲きはじめた桜。

{以下、主音声・副音声とも、画面に伴う会場内の実況音}

13' 02" 歌が終わり、拍手が起こる。我に帰る亜紀子。深沢、亜紀子の方を見上げてから、杉山と顔を見合わせ、ほほえむ。二人、客席に向かって礼。拍手する亜紀子。

南部牛追い唄

田舎なれどもさアはアエ 南部の国はさ
西も東もさアはアエ 金がねの山 こらサンサエ
今度来るときさアはアエ 持て来てたもれや
奥の深山のさあはアエ ナギの葉を こらサンサエ

セグメント 26 振り袖 一教わるー

(ストーリー I 「勉強」(h))

登場人物 張玉萍 パチャリー・ラタナーワン 武田芳子 貸衣装屋店員

場面(1) (時) 3月上旬の平日午後。 (場所) 貸衣装店。 (設定) 張玉萍は、20歳前後の中国人女性。この3月で東京都内の日本語学校を卒業し、大学に進学することが決まっている。パチャリー・ラタナーワンは、日本語学校で張と同級生のタイ人女性。同じく、進学が決まっている。武田芳子は、20代なかばの女性。張の保証人の娘。この日、張とパチャリーは、日本語学校の卒業パーティーで着る振り袖を借りるために、芳子に付き添われて貸衣装店に来ている。まず、店内入口付近のカウンターで店員の説明を聞いてから試着をする。店員は、50歳前後の女性。

13' 26" 画面、貸衣装店のショーウィンドウに飾られた打ち掛けなど。画面、店内入り口付近のカウンターに置かれた着付け見本の写真。カウンターの外のいすに座っているパチャリー、張、芳子。それぞれ、ひざにコートやカバンを置いている。カウンター内側の敷物の上に正座している店員。

店員 (写真の中で一つ一つ指しながら) -001 [情報の提供] お着物と、帯と、襦袢と、あとひもなんかはお貸しますので、(上体を少し前に傾けて写真中の足袋を指しながらパチャリーを見る) 足袋はお客様の方で用意していただけますか。

芳子 (右手を伸ばし、襦袢の写真を指で指し、張とパチャリーを見る) -002 [事情の説明] 裾袢って、下着ね。(張、パチャリー、芳子を見てうなずく)

場面(2) (時) 後刻。 (場所) 貸衣装店店内。 (設定) 張とパチャリー、それぞれ振り袖を試着する。

13' 45" 画面、人台上に着せられた卒業式用の着物と袴に「卒業式袴」の札。そばの壁に「卒業式のご予約を承ります」の張り紙。画面、張とパチャリー、それぞれ振り袖をはおり、店内に置かれた大きな鏡を見ている。張の振り袖は、金色の地に花柄。パチャリーは、緑の地に花柄。二人の後ろに店員。カウンターで見ている芳子。

パチャリー (裾を見下ろし、両身ごろを持って持ち上げながら) -003 [説明の要求] これ、長すぎますね。(店員を振り返る)

店員 -004 [事情の説明] あ、あとですそを持ち上げるんですよ。(パチャリーと張の前に回って床にひざをつき、張が着ている振り袖のすそを持ち上げ、右手のひらを上に向けて指す) -005 ここをひもでしめて。-006 その上に(近くに床に置いてある伊達締めを指す)これをしめて、帯をしめて、帯締めをしめると。

パチャリー (目を丸くして店員を見る) -007 わあ、しめて、しめて。

張 (店員を見る) -008 [説明の要求] ひもとか、帯とか、全部で何本ぐらいしめるんですか。

店員 -009 [事情の説明] ま、そんなにたくさんじゃありません。-010 5、6本ぐらいですね。(二人を順に見る)

パチャリー -011 【情報提供への注目表示】5本！

(張、パチャリー、驚いて顔を見合わせる。画面、ワイプ)

場面(3) (時)直後。(場所)同じ店内。

14' 22" 張、はおった振り袖の前を合わせて鏡を見る。

張 (鏡の中の自分を見たまま横にいる店員に) -012 【情報提供の要求】えりは、どんなふうにすればいいですか。

店員 (張のそばに立ち、右手のひらでえりの後ろを指す) -013 【情報の提供】後ろを少し抜いて、

張 (不審そうな表情で店員に) -014 【説明の要求】抜いて、っていうのは……。

店員 (張の後ろに回り、指先でえりの中央を引きおろす) -015 【事情の説明】こういうふうにちょっと開けるんですね。

張 (鏡の中で見ながら) -016 はあ。

店員 (張の前に回り、床にひざを突く) -017 【事情の説明】そして、前はこのくらい。(打ち合せを合わせてみせる。張、鏡の中で見ながらうなづく)

場面(4) (時)直後。(場所)同じ店内。

14' 42" パチャリー、着ている振り袖を肩から落とし、そのままにして、たたんで床に置いてあるピンクの地の振り袖のえりをつまんで持ち上げる。まず右袖を通して着ようとする。店員、後ろに回る。

店員 (パチャリーの腕を下げさせ、振り袖を下へ抜き取る) -018 【行為の指示】まず、こうして、(振り袖をパチャリーの肩にかけ、右袖を持ち上げて腕を入れさせる) 肩にかけてから、手を入れてくださいね。(左袖も同じように入れさせ、前に回って打ち合せを合わせる)

15' 10" 画面、金の地に花柄の振り袖をはおり、鏡を見る張。芳子、カウンターの向こうに座って見上げている。張、芳子を振り向く。

張 (左手を横に伸ばして袖を広げ、芳子に見せる) -019 【見解表明の要求】どうですか。

芳子 (うなづく) -020 【評価の表明】うん、きれい。-021 でも、ちょっとおとなしいんじゃないかな。(張、少し首をかしげる)

店員 (後ろから来て張の横に立ち、上から下まで見てから、芳子に) -022 【見解の表明】そうですね。-023 やはり、あちらの赤の方がおきれいですかしら。(そばの床に置いてある他の振り袖を手で指す)

芳子 (張と店員を見上げながらうなずく) -024 【見解の表明】張さん、せが高いから、大きい模様の方が似合うんですよね。

店員 (芳子にうなずき、張に) -025 【行為の合図】ちょっと、帯を合わせてみましょうね。
(去る)

15' 32" パチャリー、ピンクの振り袖をはおったまま寄ってきて、張の横に立つ。

張 (芳子に) -026 【情報叙述の要求】芳子さんは着物を着ることがありますか。

芳子 (首を細かく横に振る) -027 【情報の叙述】いいえ、ほとんどありませんね。-028 お正月にも着ないし。-029 成人式の時に着ましたけど。

15' 42" 張とパチャリー、お互いを見合い、鏡の方に向き直り、それぞれ姿を映してみる。

場面(5) (時)後刻。(場所)同じ店内。(設定)それぞれ帯を合わせる。

15' 53" 張とパチャリー、それぞれ選んだ振り袖を着て帯をあて、鏡にみとれている。張は、赤の地に大きな花柄の振り袖に金地の帯。パチャリーは、先刻のピンクに花柄の振り袖に金地の帯。店員、そばに立っている。

芳子 (カウンターの外から二人と鏡の中を見上げて) -030 【感想の叙述】うーん、二人とも、いいですね。

パチャリー (右手の指で袖をつまんで持ち上げ、袖を広げて店員を振り返る) -031 【情報提供の要求】これは、振り袖っていうんですか。

店員 (パチャリーの脇にひざをつき、両手に袖を乗せて広げながらパチャリーを見上げる)
-032 【情報の提供】はい。-033 こういう袖の長いのが振り袖で、お嬢さんがお召しになるんですね。(両手をひざの上で重ねる。うなずきながら、パチャリー、張を順に見てから、芳子に) -034 あと、留め袖とか、訪問着とか、付け下げとか、いろいろございますけど。

芳子 (首を傾け、斜め下を見る) -035 【感想の叙述】うーん、どう違うのか全然知らないなあ。

パチャリー (首を少し傾けながら) -036 【行為の勧め】日本文化、勉強してください。

16' 33" 芳子、横目でパチャリーを見ながら首をすくめ、舌を出す。

セグメント 27 ソトかウチか 一敬語一

(ストーリーIII「仕事」(g))

登場人物 エレン・ソウザ クラウディア・ロッシ 池田洋子 販売促進部長

場面(1) (時) 3月中旬の平日、昼休み。(場所) 旅行社・ヤングトラベル企画課オフィス。(設定) エレン・ソウザは、20歳前後のブラジル人女性。ヤングトラベルで長期アルバイトをしている。クラウディア・ロッシは、20歳前後のイタリア人女性。同じくヤングトラベルの長期アルバイト。

16' 47" 壁やキャビネットに貼り並べられたポスター。それぞれの席で食事をしたり新聞を読んだりしている2~3人の社員。エレンとクラウディア、デスクの前に並んで座り、弁当を食べおわったところ。エレン、右手に湯のみを持っている。クラウディア、右手でデスクの上の湯のみに触れている。

クラウディア (エレンを見ながら) -001 【情報の叙述】それで、スキーサイドに着いたんですけど、次の朝、熱が出てしまって。

エレン -002 【説明の要求】ええ？ -003 ひどい熱？

クラウディア -004 【事情の説明】計ってみたら、8度3分あったんです。

エレン -005 【情報叙述への共感】ほんとお。-006 じゃあ、スキーナンカとんでもないよねえ。(クラウディア、うなずく)

17' 09" エレン、左手首を顔の前に上げ、ちょっと腕時計を見る。

クラウディア (弁当箱をかたづけはじめながら) -007 【情報叙述の要求】エレンさん、お弁当は自分で作るんですか。

エレン (箸を箸箱に入れ、弁当箱のふたを閉じながら) -008 【情報の叙述】ええ、そう。
-009 毎日じゃないけどね。(クラウディアをちらっと見てややためらいがちに) -010 【話題の開始】……ねえ、クラウディアさん、

クラウディア (エレンを見る) -011 【話題開始の受け入れ】はい？

エレン (弁当箱を包みながら) -012 【評価の表明】あのう、ですか、はいとかって、言わなくともいいんじゃない。

クラウディア -013 ああ、そうですか。(弁当箱に視線を落とし、再びエレンを見る) -014
【見解への同意】……丁寧すぎますね。

エレン (うなずく) -015 うん。

クラウディア -016 【事情の説明】だけど、日本語はこれしか知らないんですよ。

17' 41" エレン、クラウディアを見たまま何度も小さくうなずく。

場面(2) (時)後刻、午後1時5分。**(場所)**旅行社・ヤングトラベル企画課オフィス。**(設定)**エレンとクラウディア、デスクに向かい、仕事を始めている。二人の後ろで、池田洋子、ファックスを送っている。池田は、30代なかばの女性。ヤングトラベル企画課の社員。課長・谷山は、客と昼食のために外出中。販売促進部長は、50代の男性。企画課を統括する部長。谷山の上司。

17' 43'' 画面、1時5分を指す時計。デスクに並んで仕事中のエレンとクラウディア。向かいの席に女性社員。二人の後ろのファックスのそばに立つ池田。部長、入ってくる。エレンのデスクの脇に立って谷山のデスクを見ると、谷山は不在。

部長 (脇のエレンを見下ろして少しがみ込む) -017 **【情報提供の要求】**谷山くん、どこにいます？

エレン (顔を上げ、部長を見る) -018 **【情報要求への注目表示】**あ、部長。(谷山のデスクの方を見てから部長を見る) -019 **【情報の提供】**ええと、お客さまとお食事にいらっしゃいました。

部長 (首をかしげる) -020 あ、そう。(視線を前に向け、少し考えてからエレンを見る) -021 **【行為の指示】**もどったら、電話するように言ってください。

エレン (うなずく) -022 **【要求への了解】**はい、わかりました。

18' 09'' 部長、去る。エレン、見送って、隣の席のクラウディアを見る。

エレン -023 **【見解表明の要求】**ねえ、今の、いらっしゃいましたでよかったです？

クラウディア (首をかしげる) -024 **【見解の表明】**さあ……。-025 行っております、かなあ。

(ファックスのそばの池田、二人の方を見てにやにやしている)

エレン (クラウディアに) -026 **【見解表明の要求】**部長って、ソトの人？

(二人、顔を見合わせ、首をかしげる。)

池田 (ファックスから紙を取り、自分の席の方へ行きかけ、二人の後ろに立ち止まって、笑いを浮かべながら) -027 **【見解の表明】**日本人だってわかんないわよ、そんなの。

(池田、そのまま行き過ぎる。エレン、クラウディア、立ちあがり、池田の両側に立って口々に質問する)

18' 53'' 二人を交互に見て答えに窮し、クラウディアを見つめる池田。

{この場面で、エレンとクラウディアが質問している内容は、以下のとおり}

エレン 部長は、目上だし、課長も目上ですよね。それから、お客さまも。お客さまは、部長より上ですか。課長より部長の方が上だから、まいっておりますとか言うんですか。だけど、なんか変ですよね。

クラウディア 私たちはこの課にいるから、課長はウチの人でしょう。お客さまはソトの人だから、いらっしゃいましたんですけど、部長はどっちなんですか。部長はソトで課長はウチなのか、私たちはアルバイトだから、私たちがソトなんでしょうか。

セグメント 28 お祝いです 一贈り物一

(ストーリーIV「恋人」(d))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 宮田愛

場面(1) (時) 3月中旬の平日午後4時ごろ。**(場所)** 板橋経済大学構内の民謡研究会部室前。**(設定)** 村井亜紀子は、20代はじめの女性。西北大学3年生。深沢良昭の恋人。深沢は、この板橋経済大学の4年生で、民謡研究会に所属している。この日、亜紀子は、卒業を控えた深沢に卒業祝いを渡そうと、民謡研究会部室前で待ち受けている。宮田愛は、20歳前後の女性。板橋経済大学1年生。民謡研究会で深沢の後輩。亜紀子と深沢が恋人同士であることを知っているが、自分も密かに深沢に思いを寄せている。

19' 06'' 部室のドアの脇に、「民謡研究会」など、いろいろなサークルの看板。建物のまわりは林。道の脇に掲示板があり、掲示物やポスターが貼ってある。亜紀子、掲示板に向かって立ち、深沢を待っている。プレゼントの入った紙包みを両手に持ち、左肩にショルダーバッグ。

亜紀子 (道の左右を見回し、プレゼントを両手で掲示板の方に差し出す身振りをしながら)
-001 これ、(包みを見る)あげます。(包みを一度引っ込め、再び差し出す)-002 どうぞ。(首をかしげ、両手を伸ばしたまま下げ、再び前に上げる)-003 差し上げます。(また手を下げ、かかとを何度も上げ下げする)-004 うーん、変ね。(包みを差し出す)-005 これ、卒業です、じゃない、(大きくうなづきながら)卒業祝いです。(もう一度差し出しながら)-006 プレゼント！(視線を落とし、包みを胸に当てて考える)-007 うーんと、(ゆっくり差し出しながら)気に入ってくれるといいんですけど。(包みを胸に抱き、上を見る)-008 ああ、若さがない！(大きくうなづきながら差し出す)-009 気に入って、くれるかな。

19' 49'' 宮田、突然掲示板の後ろから現れる。亜紀子、驚き、包みを胸に抱きしめる。

宮田 (掲示板の柱に左手をかけ、笑いながらからかうような調子)-010 [接触の開始] 深沢先輩ですか。(亜紀子の持つ包みを見て、1歩近づく。亜紀子、振り向き、宮田に背を向ける)-011 [情報確認の要求] プレゼントですか。(亜紀子の脇に回り、のぞき込む)-012 ネクタイかなあ。(亜紀子、包みを腹の前に抱える)-013 違うな。-014 ベルト！-015 いやっ、お財布！(両手の指を組んで胸に当てる)-016 そうでしょう。(亜紀子の顔を見る)

亜紀子 (脇を見たまま渋々)-017 [情報の確認] え、ええ。まあ。

宮田 (からかうような口調で横から)-018 [意向表明の要求] 深沢先輩、北海道の会社ですってえ？-019 どうするんですか。

亜紀子 (横を見たまま首をかしげる)-020 [情報提供の拒絶] さあ。-021 ……別に。(左手でショルダーバッグのベルトを持ち上げる)

宮田 (両手の親指をジーンズのポケットにかけ、からかう調子) -022 【意向確認の要求】いっしょに北海道行きたいでしよう。

亜紀子 (むっとして首をかしげ、上目づかいで視線を上げる) -023 【情報提供の拒絶】さあ。

宮田 (顔を近づけ、早口に) -024 【意向表明の要求】結婚するんですか。

亜紀子 -025 【情報提供の拒絶】そんな。(向きなおってにらみ、怒った様子) -026 関係ないでしょ。

宮田 (首をすくめ、いたずらっぽく笑う) -027 【接触の終了】もうそろそろ来ますよ。

20' 20'' 宮田、部室に入っていく。後に残った亜紀子、口をとがらせて見送り、あたりを見回し、もう一度掲示板の方を向く。

亜紀子 (道の左右を見て、怒った口調) -028 来ないのぉ? -029 早く来ないと、帰っちゃうから。(包みを見て、顔を上げ、決心したような口調) -030 あと、10秒。-031 10, 9, 8, 7, 6, 5, ……(だんだん顔を伏せ、ゆっくりになる)

20' 50'' 深沢(声のみ) -032 【接触の開始】あれ、あっこ。

(亜紀子、振り向く。道に深沢が立っている)

亜紀子 -033 あ。(包みを両手で抱え、目を伏せたまま深沢の方にゆっくりと2, 3歩近づく)

深沢 -034 【説明の要求】どうしたの。

亜紀子 -035 ええ。(目を落とし、包みを見ながら、深沢に差し出す) -036 【行為の合図】あの、これ……

深沢 (けげんな顔で包みを見て亜紀子を見る) -037 【説明の要求】え?

亜紀子 (笑顔になり深沢を見る) -038 【行為の合図】卒業、おめでとう。(包みをさらに近く差し出す)

深沢 -039 【感謝の表明】ああ。(包みを見て受け取り、亜紀子と包みを見比べ、照れたように笑う) -040 ありがとう。(包みを見る)

21' 15'' うなずきほほえむ亜紀子。

セグメント 29 私の原稿は 一行き違い一 (ストーリーⅡ「友達」(h))

登場人物 王崇梁 山田康浩

場面(1) (時) 3月中旬の金曜日午後5時前。 (場所) 南海大学構内、国語学科研究室のある建物前。
(設定) 山田康浩は、20代なかばの男性。南海大学国語学科の助手。発表する予定の論文の原稿提出締切を控えており、この日、急いで帰宅して書こうとしている。王崇梁は、20代後半の中国人男性。南海大学大学院教育学専攻の大学院生。山田の友人。教育学部の論文集に論文を掲載できることになり、原稿の日本語を山田に見てもらおうとしている。

21'32'' 南海大学の研究室棟の前。コンクリートの壁のビル。1階の大きなガラス窓。入口のガラスドア。山田、ドアを開けて急ぎ足で出てくる。顔をしかめて左腕の時計を見る。王、肩にバックパックをかけ、横手の道から来て声をかける。

王 -001 【接触の開始】山田さん。

山田 (横を見て王を見つけ、立ち止まる) -002 【接触開始の受け入れ】ああ、王さん。

王 (肩からバックパックを下ろし、右手で開けながら山田の前に立つ) -003 よかった。-004 帰ってしまったかと思いました。

山田 -005 え、何か用ですか。

王 -006 【事情の説明】ええ、これ、(封筒に入った原稿を出し、差し出す) 教育学部の論文集に出そうと思うんです。(バックパックの口は大きく開いたまま)

山田 (受け取り、中の原稿を半分ほど出してみる) -007 【情報提供への注目表示】へえ、それはいいですねえ。

王 -008 【行為の依頼】それで、山田さん、日本語の間違っているところをなおしていましただけませんか。

山田 (戸惑った表情で目を上げ、王を見る) -009 【要求への拒絶】ええ……、いいですか……、(首を少しがげる) 僕は教育のこと、わからないからなあ。(原稿を見る)

王 -010 【受諾の要求】いえ、日本語としておかしいところだけでいいですから。

山田 (王の顔を見る) -011 【説明の要求】いつまでですか。

王 -012 【事情の説明】締め切りは来週なんです。

山田 (脇を見て考える) -013 今日は、金曜だから、急ぎますね。(王を見る) -014 【事情の説明】僕も、ちょっと書かなきやならない原稿があるんですよ。(原稿を見る) -015 読めるかなあ。

王 -016 無理ですか。

山田 (脇を見ながら自信なさそうに) -017 【要求への拒絶】たぶん、火曜日になるなあ。(原稿を封筒にもどし、王を見る) -018 だれか他の人に頼んだ方がいいですよ。(封筒を王に差し出す)

王 (手を出さず、うれしそうに) -019 【話題の収束】いえ、火曜日なら大丈夫です。(左腕の時計を右手で回して見る) -020 【接触の終了】じゃあ、ちょっと急ぎますから、これで。(山田を見て、足早に立ち去りながら頭を下げる) -021 よろしくお願ひします。

山田 (王の後ろ姿に向かって) -022 【行為の勧め】ああ、一応読んでみますけど、(だん

だん声を張り上げる) だれか他の人にも頼んでくださいね。

22' 48" 王, バックパックを左肩にかけ, ちょっと振り向いて右手を顔の横前で振り, 前方を見て歩き去る。山田, 王を見送り, 手にした原稿の封筒を見て困った顔をしながら門の方へ歩き出す。

場面(2) (時)翌週の火曜日午後3時ごろ。**(場所)**南海大学国語学科研究室の前の廊下。**(設定)**王は, 山田がこの日までに原稿を見てくれたはずと思い, 山田を探している。何度も研究室へ来てみているが, 山田は不在。

23' 02" 廊下。片側の壁に研究室のドアが並ぶ。ドアの脇の壁に掲示板。もう一方の壁にブランドの下りたガラス窓。王, 廊下の向こうの暗やみの中からやってきて, 山田の研究室のドアの前に立つ。ドアに張り出された所在を示す表示板の「います どうぞお入りください」「授業中」「会議中」「すぐもどります」「しばらくもどりません」「帰宅」のうち, 「帰宅」に赤いマグネット。王, 見て, 廊下を戻っていく。

場面(3) (時)同日午後5時前。**(場所)**場面(1)と同じ建物前。**(設定)**山田, 自宅で論文を書き上げ, この時間, 事務室に提出して帰ろうとしている。王, まだ山田を探している。

23' 23" 山田, 建物から出てきて息をつき, まぶしそうに空を見上げ, 肩のこりをほぐすように首を回す。王, 横手の道からやってきて, 建物から出て行く山田を見つけ, 右手を高く上げ, 小走りに近づきながら声をかける。

王 -023 **【接觸の開始】**山田さん。

山田 (立ち止まり, 王の方を見て, ややすまなそうな調子) -024 **【接觸開始の受け入れ】**ああ, 王さん。

王 (山田のそばに立つ) -025 **【情報提供の要求】**原稿, 読んでいただけましたか。

山田 (目を伏せ, すまなそうに) -026 **【情報の提供】**いやあ, 僕の原稿, ゆうべ徹夜して書いて, 今, やっと出したところなんです。(肩にかけたカバンから王の原稿が入った封筒を出し, 両手で持って腹の前に突出す) -027 今から読ませてもらいます。

王 (驚く) -028 えっ, これから?

山田 (不審そうに) -029 ええ。

王 (原稿を見て当惑した調子) -030 **【事情の説明】**だけど, 私もあしたの朝までに出さなければならないんですよ。

山田 (驚く) -031 **【困惑の表明】**えっ, あしたの朝……。-032 今週中じゃなかったんですか。(二人, 原稿に目を落とし, しばし無言)

山田 (ややゆっくりと) -033 **【説明の要求】**だれか, 他の人には頼まなかつたんですか。

王 (ややうらめしそうに) -034 **【事情の説明】**ええ, 山田さんが火曜日って言ったから……。

山田 -035 **【話題の収束】**すいません。-036 はつきり断ればよかったです。(封筒を王の方に向け, 渡す)

王 (受け取り, がっかりした調子) -037 **【話題収束の受け入れ】**ええ。(やや間) -038 ……わかりました。

24' 20" 王, 振り向き, 右手に封筒を持ったまま肩を落として去る。山田, 気にかかる様子で王を見送り, 門の方へ去る。

セグメント 30 さよならですか 一伝えるー (ストーリーIV「恋人」(e))

登場人物	村井亜紀子	深沢良昭	道南情報人事課社員A
	深沢の母	深沢の妹	見送りの道南情報社員たち・新入社員の家族たち

場面(1) (時) 4月上旬の平日、薄暮時。 (場所) オフィス街の一角にある小さな公園。 (設定) 村井亜紀子は、20歳前後の女性。西北大学4年生。深沢良昭は、20代前半の男性。亜紀子の恋人。この春、大学を卒業し、広告会社・道南情報に就職した。このオフィス街に道南情報東京支店があり、新入社員たちが研修を受けている。道南情報の本社は札幌。深沢は、この日の勤務時間後、この公園で亜紀子と待ち合わせている。

24' 44'' 灯のともりはじめたオフィス街。大きなビルの脇にある小さな公園。亜紀子、ブランコに腰かけ、ひざにバッグを置き、ファイルを胸に抱えて待っている。

24' 50'' 深沢、急ぎ足で公園に入ってくる。スーツにネクタイ。書類カバンを左脇に抱えている。公園の入口で立ち止まり、亜紀子を見つけて近づきながら右手を少し上げる。

亜紀子 (深沢に気づいて立ち上がり、そばへ来た深沢に) -001 **【接觸の開始】**お疲れさま。

深沢 (亜紀子の前に立つ) -002 **【接觸開始の受け入れ】**待った?

亜紀子 -003 うん。ちょっとね。-004 おなかすいちゃった。

深沢 -005 うん。(亜紀子から目をそむけて、2、3歩離れ、言いにくそうに) -006 **【話題の開始】**……その前にね、ちょっと話があるんだ。(ブランコを囲む柵に腰かける)

亜紀子 (首をかしげ、けげんそうに) -007 え?

深沢 (手をひざの上に置き、足元を見ながら) -008 **【情報の提供】**実はね、札幌の本社へ行くことになっちやったんだ。

亜紀子 (しばし沈黙。視線を落とし、深沢の横に少し離れて腰かける) -009 **【情報提供への注目表示】**……そう。

深沢 (亜紀子の横顔を横目で見てしばし沈黙) -010 **【配慮の表明】**……ごめん。

亜紀子 (下を向いたままささやくように) -011 **【説明の要求】**いつまで?

深沢 (亜紀子の前の地面の方を見て、言いにくそうに) -012 **【事情の説明】**少なくとも、2、3年、だろうな。

亜紀子 (下を向いたまま) -013 **【感想の叙述】**じゃ、もう会えませんね。

深沢 (亜紀子を見て、ややあわてた調子) -014 **【見解への不同意】**いや、そんな……。(カバンを右脇に持ち替え、上体を乗り出して) -015 **【意向の表明】**休みが取れたら、東京に帰ってくるよ。-016 ……夏休みには、遊びにきて。

亜紀子 (こっくりうなづく) -017 うん。(立ちあがり、深沢に背を向けたままブランコに近づいて立つ。沈んだ調子で自分に言い聞かせるようにゆっくりと) -018 **【意向への了解】**……そうね。-019 飛行機なら、すぐよね。

深沢 (亜紀子の後ろ姿を見ながらうなずき、力なく) -020 うん。-021 【意向の表明】……電話するよ。

亜紀子 (ゆっくり振り向き、つとめて明るく) -022 【話題の収束】お仕事、がんばってね。
(深沢、ややためらいながらうなずく)

場面(2) (時)数日後の日曜午前11時ごろ。(場所)羽田空港国内線出発ロビー。(設定)深沢など札幌本社に赴任する新入社員たち、人事担当社員に付き添われて出発しようとしている。深沢の母と妹をはじめ、新入社員たちの家族が見送りに来ている。母は、50代なかば、妹は、10代後半。深沢は、亜紀子が来てくれると思い、待っている。

26' 25'' 画面、離陸する旅客機。地上の旅客機とターミナルビル。画面、国内線出発ロビー。向こうに航空会社のカウンターと搭乗待合室への入口。かなり混雑しているロビーの中央で、道南情報人事課の社員A、新入社員たちを集めている。見ている在京社員たち。遠巻きにしている見送りの家族たち。

社員A (左手首の時計を見て新入社員たちを見回す) -023 【行為のうながし】ええと、そろそろ入りましょうか。(手にした搭乗券を新入社員たちに配る)

(新入社員たち、一人ずつ搭乗券を受け取ると、それぞれの見送り人たちのそばに寄り、ことばを交わす。カバンを下げた深沢、搭乗券を手に、あたりを見回しながら、母と妹のそばに近づく。妹、兄が亜紀子を探していることを知っていて、いたずらっぽく兄の顔をしたからのぞき込んでいる)

母 (深沢を見上げながら) -024 【配慮の表明】忘れ物はないの?

深沢 (あたりを見ながらそっけなく) -025 ああ。

母 -026 【配慮の表明】体に気をつけてね。

深沢 (あたりを見ながら) -027 うん。(気を取りなおし、母を見て、はっきりと)-028 【接触の終了】いってきます。(妹に) -029 【接触の終了】じゃな。(妹、うなずく)

(深沢、新入社員たちが集まっているところにもどる。社員A、一同をうながしてゲートに向かう。見送りの家族たち、口々に励ましのことばをかけ、手を振ったりする)

27' 21'' 深沢、ゲートに向かいながらあたりを見回す。目の端に2階の手すりに立って見下ろす亜紀子を見つける。深沢、立ち止まり、亜紀子を見つめる。二人、しばし見つめあう。亜紀子、胸の前で小さく手を振り、さびしげにほほえんでみせる。深沢、向き直り、ゲートに向かう。途中で振り返り、亜紀子を見上げてからゲートに消える。

27' 59'' 亜紀子、しばらく見送ってから、視線を落として振り返り、口を固く結び、視線を上げ、まっすぐ前を見て歩きだす。

ユニット 4 また会いましょう

セグメント 31 うまく書けました一筆で書くー (ストーリー I 「勉強」(i))

登場人物 張玉萍 パチャリー・ラタナーウン ミーチャ 沢村美津子

場面(1) (時) 9月初めの休日午後。 (場所) 沢村家の座敷。 (設定) 張玉萍は、20代前半の中国人女性。パチャリー・ラタナーウンは、同年代のタイ人女性。ミーチャは、20代なかばのロシア人男性。3人は、もと日本語学校の同級生で、現在、それぞれ別の大学の1年生。沢村美津子は、50歳前後の女性。自宅で書道教室を開いている。この日、張、パチャリー、ミーチャは、沢村に書道を習っている。まず、沢村が手本を書いてみせる。

00'06" 画面、床の間に生けられた花、かかっている掛け軸。画面、「永」の字の手本を書く沢村の筆先。

沢村 (声のみ) (書きながら) -001 点は、小さな三角を書くように。-002 横の線は、下ろして、筆の先を残して引きます。-003 ここは、折れですね。-004 縦の線は、筆の先が真ん中を通るようにして、一気に引きます。-005 はねですね。-006 これは、左下からやや右上に。-007 それから、左へゆるく払います。-008 まっすぐじゃなくて、少し丸くなりますね。-009 こちらは、筆を下ろしてから、真っすぐに払って、今度は、だんだんに力を入れていって、ここで一度止めて、少しずつ少しずつ抜いていきます。

00'55" 画面、沢村の後ろに座り、ホッと息をついて顔を見合させる張、パチャリー、ミーチャ。

場面(2) (時) 後刻。 (場所) 同じ座敷。 (設定) 張、パチャリー、ミーチャ、それぞれ書いてみている。

01'01" 画面、「永」の朱筆の手本。画面、沢村、張が書き終わるのを見ている。書道用の布の下敷きの上に半紙、紙を押さえる文鎮、隣にすずり。

張 (筆を置き、両手をひざの上に置き、沢村を見る) -010 「見解表明の要求」どうですか。

沢村 (張を見てからほほえみ、張の書いた字を見る) -011 「見解の表明」ええ、さすがにお上手ですねえ。(上体を少し前に乗り出す) -012 立派な字だわ。

パチャリー (声のみ) -013 【評価の表明】ああ、だめ。(沢村、張、隣に座っているパチャリーを見る。書きおわり、筆を置いたパチャリー) -014 うまくいきませんね。(沢村を見る)
沢村 (張に) -015 【行為の指示】張さん、なにか好きなものを書いてみてくださいな。

(張、うなずき、文鎮を持ち上げて半紙を取りかかる。沢村、パチャリーが書いた字を見る)
-016 ああ、そうですねえ。(新しい紙をとり、文鎮を持ち上げて紙を置き、文鎮で押さえる)
-017 【行為の指示】ちょっと筆を持ってみてください。

(パチャリー、筆を寝かせて持つ)

沢村 -018 【評価の表明】あ、筆はね、もっと真っすぐに。-019 寝かさないでくださいね。

パチャリー (筆を垂直に構えなおす) -020 【見解表明の要求】こうですか。

沢村 -021 【評価の表明】そうそう。-022 【行為の指示】それで、一度に下ろさないようにして、動かしてみてください。

パチャリー (首をかしげながら) -023 【見解表明の要求】こんなふうですか。(「永」の最初の2画を書いてみせる)

沢村 (うなずきながら見ている) -024 【評価の表明】そうぞ。-025 それで、力を入れるところは、しっかりと力を入れて。(パチャリー、沢村を見る。沢村、書かれた文字の折れのところを指でさしながら) -026 こことか、こことかね。(パチャリー、うなずき、筆に墨をつける)

02' 02" ミーチャ (「永」を書きおわった紙を前に筆を持ったまま沢村を見る) -027 【見解表明の要求】先生、縦の線が、どうしても曲がってしまうんです。

(沢村、卓の端を回り、ミーチャの隣に座る)

沢村 (書かれた字をのぞき込む) -028 【見解の表明】ああ、勢いよく書いてしまえばだいじょうぶですよ。

ミーチャ (うなずき、まだ不安そうに) -029 そうですか。

02' 18" 張 (沢村に) -030 【見解表明の要求】先生、ちょっと見ていただけますか。

(画面、張が書いた「ゆめ」。沢村、張の隣に来て座り、のぞき込む)

沢村 -031 【説明の要求】あら、仮名ですか。

張 -032 【事情の説明】はい。(沢村を見てから書いた字を見る) -033 私には、やはり仮名がむずかしいんです。(沢村を見る)

沢村 (張を見て) -034 なるほどね。(書かれた字の方にややかがみ込みながら) -035 【評価の表明】でも、うまく書けていますよ。(張を見る)

場面(3) (時)後刻。(場所)同じ座敷。(設定)沢村、書を書いてみせる。

02' 39" 画面、二つの文鎮で押された紙に草書を書いていく沢村の筆先。

03' 04" 画面、書き終えて息を吐く沢村。顔を見合させる張、パチャリー、ミーチャ。

パチャリー (ためらいがちな調子で沢村に) -036 [説明の要求]あのう……これ、なんて
書いてあるんですか。

沢村 (声のみ) (画面、沢村が書いた書の右にテロップで「草花」) -037 [事情の説明]くさ,
ばな。

(うなずいて書を見つめる張、パチャリー、ミーチャ)

セグメント 32 お通夜 一気持ちを表す一 (ストーリーII「友達」(i))

登場人物 王崇梁 山田康浩 朴海煥 参列者たち

場面(1) (時) 9月初めの火曜日午前5時43分。 (場所) 王の寝室。 (設定) 王崇梁は、20代後半の中国人男性。南海大学大学院教育学専攻の大学院生。朴海煥は、20代なかばの韓国人男性。王と同じ大学院で王の先輩。内田助教授は、朴と王の所属する教育行政学科の教員で、朴の指導教官。

03'31" 室内は薄明かり。午前5時43分を指す時計。王、ベッドで眠っている。半そでのパジャマ。ベッドの脇の台に置かれた電話が鳴る。王、目を開けず、手を伸ばして受話器を取る。

王 (眠そうな声) -001 【接触開始の受け入れ】もしもし。

朴 (電話の声のみ) -002 朴です。-003 朝早くごめんなさい。

王 -004 ああ。

朴 -005 【情報の提供】内田先生がね、

王 -006 内田先生？

朴 -007 さっき、亡くなつたんです。

王 (驚き、目を開ける) -008 えっ？

朴 -009 3時20分に……。

王 (上目づかれて枕元の時計を見る。少し間) -010 【説明の要求】……どうして。

朴 -011 【事情の説明】心臓です。-012 それで、……

(画面、ブラックアウト)

場面(2) (時) 翌水曜日夕刻。 (場所) 通夜の式場になっている内田助教授の自宅。 (設定) 亡くなつた内田助教授の通夜。朴は、手伝いの学生たちに指示を与えている。王は、受付を担当している。山田康浩は、南海大学国語学科の助手。焼香に訪れる。王とは、セグメント2で知り合つてから、友人として付き合つていたが、セグメント29での行き違い以来、会つていなかつた。

04'05" あたりは闇。虫の声。電柱に貼られた「内田家」と指の絵の黒枠の案内。故内田助教授の自宅門前。通夜のため黒と白の幕が張られ、灯のともつた提灯が置かれている。庭内のテントの中に作られた受付のテーブル。白い布がかけられ、「受付」の張り紙。王など4~5人、テーブルに向かって座つてゐる。テーブルの上に記名帳、筆ペン、漆塗りの盆など。次々に香典を渡し、記帳する会葬者たち。

04'29" 略礼服に黒いネクタイの山田、記帳を済ませ、頭を下げる。座つてゐる受付の女性も頭を下げる。山田、テーブルを離れ、奥へ行こうとする。テーブルの端に座つてゐた王、立ち上がって山田に話しかける。

王 -013 【接触の開始】どうもありがとうございます。(頭を下げる)

山田 (王に気づいてもどり、頭を下げる) -014 【配慮の表明】この度はどうも……。-015 びっくりしました。

王 -016 私もです。

山田 -017 【行為の申し出】何かお手伝いすることがあつたら、言ってください。

王 -018 ありがとうございます。(軽く頭を下げ、手のひらで奥の方を示す) -019 【行

為の指示] 朴さんに聞いていただけますか。-020 中にいますから。

山田 (うなずく) -021 はい。(二人、互いに頭を下げる)

04' 53" 山田、テーブルを離れ、奥の方へ焼香に入る。

場面(3) (時)後刻。(場所)内田助教授の遺体の安置された室内。(設定)通夜の読経中。

04' 56" 正面に仏教式の祭壇。笑顔の内田助教授のモノクロ写真に白と黒のリボンがかかっている。祭壇の前に座って経を読む僧侶。法衣に袈裟。右手で木魚をたたく。その後ろ両側に並んで座る親族。それぞれ喪服。手前に置かれた香炉のところで次々に焼香する会葬者たち。

場面(4) (時)後刻。(場所)内田助教授宅の庭。(設定)通夜の後、かたづけと翌日の告別式の準備が終わったところ。

05' 23" 画面、煙の立つ香炉。画面、内田家の庭に面した玄関。ドアに「忌中」の張り紙。王と山田、かたづけを終え、玄関から出てくる。

王 (山田の後ろから) -022 **【感謝の表明】**山田さん、手伝わせてしまって、すいませんでした。

山田 -023 ああ、いえ。(庭にいた朴に) -024 **【配慮の表明】**朴さん、お疲れさま。(朴の左腕のあたりに手のひらで触れ、手を腹の前で重ねる)

朴 (沈んだ調子) -025 なんだか、本当に疲れました。(山田、視線を落とす)

王 (山田に) -026 **【事情の説明】**朴さんは、ゆうべから寝ていないんですよ。

朴 (王を見る) -027 **【事情の説明】**いや、それより、……なんだか、頭の中がからっぽになつたみたいで。

山田 (朴に) -028 **【情報叙述の要求】**内田先生は、朴さんの指導教官だったんですね。

朴 -029 はい。(うなずき、視線を落とす) -030 **【困惑の表明】**いい先生だったのに……。
-031 これからどうすればいいか……。

山田 -032 **【情報叙述の要求】**おいくつでしたっけ。(王から朴を見る)

王 -033 **【情報の叙述】**まだ、49歳。-034 早すぎますよ。

山田 (悲しそうに視線を落とす) -035 **【感想の叙述】**残念ですねえ。-036 本当に惜しいことです。

朴 (祭壇を見てからうつむき、山田に) -037 **【感想の叙述】**まるで悪い夢みたいですよ。

王 (強い調子で朴に) -038 **【配慮の表明】**朴さん、元気出して。

朴 (王を見てうつむき、うなずく) -039 うん。

王 -040 内田先生のためにもね、がんばらなくちゃ。(朴、山田、うなずく)

06' 32" 山田、王に向き直り、1歩近づく。朴、祭壇の写真を見る。

山田 -041 **【情報提供の要求】**王さん、ずっと気になってたんですけど、……いつかの原稿。

王 -042 **【情報の提供】**あ、印刷のときに見ていただきました(祭壇を見る)……内田先生に。(朴、うつむく)

山田 (王の視線を追って祭壇を見る) -043 内田先生に……。

06' 46" 朴、夜空を仰ぐ。暗い空に浮かぶ家々の屋根の輪郭。空に見える星の中で、大きく輝く一つの星。

セグメント 33 いやだよねえ 一あいづち一 (ストーリーIII「仕事」(h))

登場人物 エレン・ソウザ クラウディア・ロッシ

場面(1) (設定) エレン・ソウザは、20代前半のブラジル人女性。クラウディア・ロッシは、同年代のイタリア人女性。二人とも、東京都内の大学に通う留学生で、旅行社・ヤングトラベル企画課の長期アルバイトとして働いている。

07' 02" 並んだスツールに腰かけて、エレンとクラウディア、話し合っている。

07' 08" 画面、話すエレン。

エレン (やや首を傾げ、クラウディアを見つめて) -001 [情報の叙述] 夜、電車に乗るとね、

クラウディア (声のみ) -002 ええ。

エレン -003 酔っ払ってる人がいるじゃない。(眉をしかめる) -004 大きな声を出したたりい、人にぶつかったりねえ。(うなずく) -005 [感想の叙述] あれって、なんか、はずかしいよねえ。(眉をしかめ、うなずく) -006 自分のうちで飲むならね、いんだけど。

クラウディア -007 [見解への同意] パーティーとかね。

エレン -008 そうそう。(数回うなずく) -009 プライベートな場所なら、問題ないけど。

-010 [感想の叙述] こわいと思うこと、(目を上げ、クラウディアを見る) ない? (斜め下を見る) -011 若い人は、あんまりいないかなあ。-012 学生は、ときどきいるよね。

-013 でも、やっぱり、おじさん。(クラウディアを見てうなずく) -014 中年の入ね。

-015 今の若い人が中年になったら、どうなるのかな。(首をかしげ、考える)

場面(2) (設定)(1)と同じ。

08' 04" 画面、話すクラウディア。

エレン (声のみ) -016 [見解表明の要求] 仕事はどう?

クラウディア (うなずく) -017 [感想の叙述] うん、まあ、楽しいですね。(うなずく)

エレン -018 そう。

クラウディア -019 ええ。-020 みんな、親切だし。

エレン -021 [情報叙述の要求] 困ったことは?

クラウディア (首をかしげ、考える) -022 [情報の叙述] ええと、仕事の時間がね、

エレン -023 時間?

クラウディア (うなずく) -024 仕事が始まる時間が決まってますけどお、

エレン -025 ああ。

クラウディア -026 社員の人は、なかなか始めませんよねえ。

エレン -027 まあねえ。

クラウディア -028 そのかわり、すごく遅くまで働くでしょう。

エレン -029 残業ねえ。

クラウディア (うなずく) -030 それから、付き合いとか。

エレン -031 そうねえ。…… -032 【事実の指摘】でも、わたしたちは、アルバイトだから。

クラウディア -033 ええ。-034 先に帰りますけどお、

エレン -035 うん。

クラウディア -036 【感想の叙述】ちょっとお、悪いような気がして。

エレン -037 ああ、そうか。

クラウディア -038 帰りにくいんですよね。

場面(3) (設定)(1)と同じ。

08'52" 画面、話し合う二人。

エレン (顔をしかめる) -039 【感想の叙述】お刺身ってね、だめなの。

クラウディア -040 【感情への注目表示】食べられないんですか。

エレン -041 ええ。-042 なんか、気持ち悪くて。

クラウディア (不審そう) -043 そうですか。

エレン (のどのあたりを手で押さえる) -044 口に入れると、冷たくて。

クラウディア -045 うーん、まあねえ。

エレン -046 それから、変なにおいがするでしょう。

クラウディア (口をとがらせてうなずく) -047 【見解への不同意】たしかに、ちょっとにおいはあるけどお。

エレン (強い調子) -048 【見解の表明】生の魚はネコのえさ！

クラウディア (不満そうな調子) -049 【困惑の表明】おいしいのになあ。

エレン (軽い調子) -050 【感想の叙述】他のものは、たいてい好き。

クラウディア -051 【話題の収束】まあ、どこの国にも、変わった食べ物ってあるから。

エレン -052 【話題収束の受け入れ】ああ、人によっても違うかもしれないね。(クラウディア、うなずく)

09'32" 話し合う二人。

セグメント 34 すれ違い ー事情を話すー (ストーリーIV「恋人」(f))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭

{このセグメント前半の音声は、主音声に映像に伴う実況音、副音声にこの翌日に深沢が亜紀子にかけた電話}

映像・主音声	副音声
場面(1) (時) 9月中旬、平日の夕刻4時3分。(場所) 都内のあるショッピングモール。(設定) 村井亜紀子は、西北大学4年生。深沢良昭の恋人。深沢は、この年の4月に札幌にある広告会社・道南情報に就職し、それ以来、亜紀子とはたまにしか会えない。この日、出張で上京した深沢と4時に待ち合わせをしている。	電話の呼び出し音。 亜紀子 -001 はい、村井でございます。 深沢 -002 あ、あのう深沢ですが、亜紀子さん……。 亜紀子 -003 あ、……。 深沢 -004 【接触の開始】あっこ? 亜紀子 (ためらいがちに) -005 【接触開始の受け入れ】……はい。 深沢 -006 よかった。-007 【陳謝の表明】すぐ に電話できなくて、ごめん。 亜紀子 (冷たい調子) -008 【説明の要求】きの う、4時だったよね。 深沢 -009 【事情の説明】うん。-010 ちょっと、 遅れちゃったんだ。-011 5分ぐらい。 亜紀子 -012 【事情の説明】私も2、3分遅れた けど、1階の入り口で待ってたのよ。 深沢 -013 うん。-014 【事情の説明】それがさ、 僕が、場所を間違えたらしい。 亜紀子 -015 え? 深沢 -016 いちばん下がさ、 亜紀子 -017 ええ。 深沢 -018 1階だと思ったんだ。 亜紀子 -019 【情報の提供】ああ、いちばん下 は、地下1階なのよ。 深沢 -020 【事情の説明】うん、全然気がつか なかつたんだ。 亜紀子 -021 そう。 深沢 -022 時々は、上の方も見たりしただけ どね。 亜紀子 -023 【事情の説明】わたしもね、
場面(2) (時) 後刻4時6分。(場所) 場面(1)と同じ。	
場面(3) (時) 後刻4時19分。(場所) 場面(1)と同じ。	

10' 17" 4時19分を指す時計。1階廊下にいる亜紀子、手摺りに近付き上の階を見上げ、下の階を見下ろし、廊下の左右を見て、下手へ去る。深沢、地下1階の広場中央へ出て時計を見る。周囲と上階を見回す。カバンから手帳を出し、めくりながら広場を横切り、画面手前に去る。向き合って話し、のけぞって大声に笑う中年のサラリーマン風の男3人。亜紀子、地下1階の広場中央に来る。亜紀子、周囲と上階を見渡し、時計を見る。先刻の二人の男の子、歓声を上げながら脇を走り抜けて行く。

場面(4) (時) 後刻4時42分。**(場所)** 場面(1)と同じ。

11' 23" 4時42分を指す時計。深沢、地下1階のデパート入り口に戻っている。1階のデパート入り口付近にもどっている亜紀子、まわりを見回し、時計を見てから、バッグからイヤホンを出して両方の耳にはめ、バッグの中のヘッドホンステレオのスイッチを入れる。

深沢 -024 うん。
亜紀子 -025 気になって、下へ見にいったの。
深沢 -026 ああ。
亜紀子 -027 けっこう動いてたから。
深沢 -028 ああ。
亜紀子 -029 たぶん、その時ね。
深沢 -030 うん、そうだね。
亜紀子 (投げやりな調子に変わる) -031 【感想の叙述】あーあ、がっかり。
深沢 -032 うん。
亜紀子 -033 せっかく楽しみにしてたのに。
深沢 -034 【事情の説明】それでね、
亜紀子 (深沢のことばをささえぎって) -035 【情報提供の要求】今、札幌?
深沢 -036 いや、それがね、
亜紀子 (たたみかける調子) -037 東京なの?
深沢 -038 【情報の提供】東京だよ。
亜紀子 (たたみかける調子) -039 【意向表明の要求】じゃ、会える?
深沢 -040 【情報の提供】今、病院なんだ。
亜紀子 -041 えっ?

{以下、音声は両チャンネルとも、亜紀子のヘッドホンステレオから流れるロックの音楽}

11' 52" 激しいロックが鳴りだす。亜紀子、1階廊下を上手へ歩きだす。

深沢、広場中央へ来て見回す。亜紀子、1階の廊下の柱の間を見え隠れしながら去る。深沢、亜紀子を見つけ、急いで左右を見回し、下手へ走り去る。

亜紀子、廊下を足早に歩いていく。深沢、1階に昇り、廊下の外れから亜紀子の後を追って走りながら、手を高く上げ、大声で呼ぶが、亜紀子は気づかず、廊下を右に曲がる。

中庭に面した店の前。ショーウィンドウをのぞいて歩く女性の二人連れ。亜紀子、店の前を歩き、通路を右に曲がる。深沢、後を追って走る。

亜紀子、道に出て左に曲がる。深沢、後を追って道に飛び出す。上手からトラック。

深沢、はねられて倒れ、道路に座って左足首をおさえている。まわりに集まる通行人やトラックの運転手たち。亜紀子、気づかずに歩き続け、画面手前に去る。

登場人物 男の子 池田洋子 女の子

場面(1) (時)夜8時すぎ。 (場所)子供部屋。 (設定)母親は、ストーリーIII「仕事」に登場する池田洋子。30代なかばの女性。男の子は、小学校低学年。池田の息子。寝るように言われて部屋に入ったが、マンガを読んでぐずぐずしている。そこへ、セグメント20に登場した女の子の幽霊が現れる。女の子は、男の子と遊びたくて、いろいろいたずらをして気を引く。

12' 47" 正面に窓。カーテンが開いている。窓の左壁ぎわに、窓側を頭にしてベッド。枕もとに野球のグローブ、ダルマなど。ベッドの隣の窓際に勉強机。机の上に造花のガーベラがさしてある花びん、カエルの形の緑色の筆立て、豚の形のピンクの瀬戸物の貯金箱、ペンケースなど。机の端のスタンドがついている。スタンドのそばにミルクの入ったカップ。男の子、パジャマを着てベッドの上にあぐらをかき、スタンドの明りでひざに置いたマンガを読んでいる。

12' 51" ついていたスタンドが消える。

男の子 (目をマンガから上げ、スタンドを見てから、ドアの方に向かい) 不満そうな調子の大聲で) -001 お母さん、スタンドが消えた。

母親 (部屋の外から声のみ) -002 なあに? -003 早く寝なさいよ。

(スタンドがつく)

男の子 -004 ついたあ。(マンガに目を落とし、また読み始める)

母親 -005 もうスタンドを消しなさい。

男の子 (目を上げず、気のない調子) -006 うーん。

13' 10" 窓が開く。外は闇。窓が閉まる。男の子、窓の方にちょっと目をやり、またマンガを読む。

13' 26" 机の上のカエルの筆立てがすべるように移動する。

13' 33" 花瓶の花の1本が折れて垂れ下る。

13' 37" 机の右の壁にかかっていた野球帽が落ちる。

男の子 (落ちた帽子を見て、戸惑ったような顔。部屋の外に向かって) -007 帽子が落ちた。

母親 (少しいら立った調子) -008 早く寝なさい。

13' 45" 男の子、舌打ちをしてため息をつき、ベッドから足だけ下ろして腰かけたまま、またマンガを読み始める。

13' 51" 机の右の方に女の子の姿がうっすらと現れる。セグメント20と同じ青い浴衣に黄色い帯。肩まである髪。女の子、右手人差し指で机の上のミルクのカップを指す。カップが滑り、机の端で傾き、残っていたミルクが男の子のパジャマのひざにこぼれる。男の子、手でぬれたひざのあたりに触り、不審そうな様子であたりを見回す。

14' 10" 女の子、まわりを見回し、部屋のすみに立ててあるスキーを指差す。スキーが倒れる。
大きな音がする。男の子、驚いてスキーを見る。ドアが開き、母親、部屋に入ってくる。

母親 (スキーを見て男の子をにらみ、詰問する調子) -009 何してるの。(スキーを起こし、
との位置に立てる) -010 あんたが倒したの?

男の子 (口をとがらせ、抗議する調子) -011 違うよ。-012 倒れたんだよ。

母親 (落ちている帽子を拾う) -013 これも落として。

男の子 (抗議する調子) -014 僕じゃないよ。

14' 32" 女の子、笑いを含んだ表情でまわりを見回し、机の上の豚の貯金箱を指差す。貯金箱が割れてくれずれる。

母親 (貯金箱を見て、男の子に、やや不審そうな怒った調子) -015 どうして壊すのお。

男の子 (強く抗議する調子) -016 僕、壊さない。-017 自然に壊れたんだよ。

14' 41" 女の子、にこにこしながら、机の右の壁に掛かっているナップザックを指差す。吊りひもが切れ、ザックが落ちる。

男の子 (落ちたザックを見てから母親に) -018 ほら、切れた。

母親 (ザックを見ておびえた調子) -019 どうして。(男の子に) -020 だれが切ったの。

14' 51" 女の子、見回し、壁ぎわの棚に置かれた箱形のオルゴールを指差す。オルゴールのふたが開き、鳴りだす。母親、びくっとして見つめ、おそるおそる手を伸ばしてオルゴールのふたを閉め、落ちているナップザックを拾い、顔を上げる。机の上の鏡に映った自分の後ろに女の子が映っている。母親、見て、ぎょっとして振り向く。女の子がうっすらと見える。母親、鏡と女の子を何度か見比べる。女の子、ほほえみかける。母親、気を失い、ナップザックを抱えたまま仰向けにたおれる。

男の子 (叫ぶ) -021 お母さん!

男の子、母親に駆け寄り、床にひざを突き、母親の体をゆする。反応がないので、見まわしながら立ち上がり、机の上を見ると、鏡に映った女の子が目に入る。振り向くと、笑いかける女の子がうっすらと見える。

男の子 (つぶやく) -022 出た……。

15' 40" 女の子、ほほえみかける。男の子、つられておずおずとほほ笑みを返す。

セグメント 36 インタビュー 一聞き手と話し手一 (ストーリーI「勉強」(j))

登場人物 張玉萍 パチャリー・ラタナーワン ミーチャ 武田芳子

場面(1) (時) 9月中旬の日曜午前9時すぎ。 (場所) 東京近郊の山あいのハイキングコース。 (設定) 張玉萍は、20代前半の中国人女性。パチャリー・ラタナーワンは、同年代のタイ人女性。ミーチャは、同年代のロシア人男性。3人は、日本語学校の同級生だったが、この春卒業し、それぞれ別の大学に進学している。武田芳子は、20代後半の女性。張の保証人の娘。この日、4人は、ハイキングにきている。

16' 00" ハイキングコースの細い道。両側はまばらな林。張、パチャリー、ミーチャ、芳子、歩いてくる。張とパチャリー、それぞれ小さなバックパック。パチャリーは左手に籐のバスケット。芳子は、大きめのショルダーバッグ。ミーチャ、チロル帽をかぶり、ウールの登山シャツ、茶色のニッカーボッカ、茶色の川の頑丈な登山靴。肩に大きなリュックサック。張、パチャリー、芳子、並んで先に立って歩く。ミーチャ、やや遅れて歩く。芳子、ミーチャを振り返り、左手を上げて手招きする。

場面(2) (時) 後刻。 (場所) 川原。 (設定) 4人、昼食のバーベキューをしている。

16' 13" 川のほとりに広い石原が広がり、ところどころに大きな岩。その向こうにかなり幅のある川の流れ。一同、川原の中央あたりで石を並べて鉄板をわたし、薪で火を起こしてバーベキューの最中。鉄板の上で焼ける肉、タマネギ、カボチャ、ピーマン、しいたけ、ニンジン、とうもろこし。鉄板を囲んで、下手にパチャリー、芳子、向かう合って張、ミーチャ。張、材料を鉄板にのせる。ミーチャ、薪で火をいじっている。

16' 22" 芳子、ポリ容器の中のニンジンを取り、マイクのように両手で口の前に持ち、しゃべり出す。

芳子 (背筋を伸ばし、改まった調子) -001 **【話題の開始】**ええ、それでは、(一同、顔を上げ、芳子に注目) ここでみなさんにインタビューをしてみましょう。

張 -002 やあだ、芳子さん、それ、なに?

芳子 (相手にせず、すまして) -003 **【情報叙述の要求】**ええ、みなさんは、それぞれ大学に入学して、(ミーチャ、うなずいている) 6ヶ月たったわけですが、大学の生活はいかがでしょうか。-004 それでは、まず張さん。(張にニンジンを向ける)

張 -005 **【感想の叙述】**あ、わたくしですか。-006 はい、楽しくやっております。

芳子 (ニンジンを自分に向ける) -007 **【情報叙述の要求】**授業はむずかしいですか。

(笑いながら見ているミーチャ、パチャリー、芳子、張にニンジンを向ける)

張 -008 **【情報の叙述】**そんなにむずかしくはありませんけど、日本人の名前とか、歴史の関係のことばとか、(ミーチャ、何度かうなづく)

ミーチャ (下を見ながら独り言のように) -009 **【見解への同意】**固有名詞ねえ。

張 (ミーチャを見てうなづく) -010 そう。-011 わからないよねえ。(ミーチャ、張を見て深くうなづく)

- 16' 59" 芳子 (ニンジンを自分に向け、張に) -012 [話題の収束] ありがとうございました。
(パチャリーに)-013 [情報叙述の要求] それでは、パチャリーさんはいかがですか。 (ニンジンをパチャリーに向ける。ミーチャ、張、パチャリーを見る)
- パチャリー (笑いながら) -014 ええ、なんですか。
- 芳子 (ニンジンを自分に向ける) -015 [情報叙述の要求] 大学の方は。 (ニンジンをパチャリーに向ける)
- パチャリー -016 [情報の叙述] 毎日行っています。
- 芳子 (ニンジンを自分に向ける) -017 [情報叙述の要求] いや、その、(一瞬つまって) 勉強はむずかしいですか。 (ニンジンをパチャリーに向ける)
- パチャリー (笑いながらうなづく) -018 [情報の叙述] はい、むずかしいです。(芳子、ニンジンを自分に向けかけるが、パチャリーが話し続けるのでまたニンジンを向ける)-019 それから、寮が遠くて、大学へ行くだけで疲れてしまいます。
- ミーチャ (上体を芳子の方へ乗り出す) -020 [情報の叙述] わたしの下宿はね、
- 芳子 (右手のひらをミーチャの方に向けて突出して制し、ニンジンを自分に向ける) -021 [情報叙述の要求] 友達ができないって、言ってましたね。(パチャリーにニンジンを近づける)
- パチャリー (うなづく) -022 [情報の叙述] んー、日本人の大学生は、授業が終わると、すぐに帰ってしまって、
- 芳子 -023 ああ。
- パチャリー -024 話せないんです。
- 芳子 -025 そうですか。 (張、芳子とパチャリーを交互に見て右手を肩のあたりまで上げ、話した
そう。芳子、ニンジンを張に向ける)-026 [情報叙述の要求] その辺、張さんはいかがですかあ。
- 張 -027 [感想の叙述] それにね、あまり授業に出ない学生がいるんですね。 -028 ちょっと驚きました。
- ミーチャ -029 [見解への同意] ああ、そうそう。(芳子、ニンジンをミーチャに向ける)
-030 うちの大学も同じです。
- 芳子 (ニンジンを自分に向ける)-031 [説明の要求] あんまり勉強してない。(ニンジンをミーチャに向ける)
- ミーチャ (両手のひらを上に向けて肩の高さに上げ、上体を後ろにそらし、首を軽く振ってとぼける) -032 [情報要求への拒絶] さあ、それはよくわかりません。
- 17' 44" パチャリー -033 [感想の叙述] でもね、(張とミーチャ、パチャリーを見る) 芳子、ニンジンをパチャリーに向ける) 悪いけど、日本の大学生は、外国のこと、あまり知らないんじゃないのかと思いますね。
- 芳子 (ニンジンを自分に向ける) -034 外国のこと? (ニンジンをパチャリーに向ける)
- ミーチャ (上体を前に乗り出し、片手を前に伸ばす) -035 [情報の叙述] そうそう。 -036 こないだもね、
- 芳子 (ニンジンをパチャリーに向けたまま、手のひらをミーチャの方に向けて突き出す) -037 [行為の制止] ちょっと待って。(ニンジンを自分に向ける) -038 [行為の指示] パチャリーさん、どうぞ。(ニンジンをパチャリーに向ける。パチャリーと張、顔を見合わせ、肩を軽くすくめて笑う)

パチャリー (芳子に) -039 【情報叙述の要求】たとえば、タイはどこにあるか、知っています？

芳子 (視線をそらし、ニンジンをゆっくり自分に向けながら小さくうなずき) -040 【困惑の

表明】ええと、だいたい。

ミーチャ (芳子を見て、数回うなずきながら) -041 【評価の表明】うん、もっともっと勉強しなければ。(一同、笑う)

18' 07" ミーチャ -042 はい、歌います。(芳子の手からニンジンを取り、立ち上がり、ニンジンを胸の前に構え、歌う。芳子、張、パチャリー、拍手しながら歌うミーチャを見上げている)

セグメント 37 まだ痛いですか ーお見舞いー (ストーリーIV「恋人」(g))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 宮田愛 看護学生 広川猛 金沢省二

場面(1) (時) 9月中旬の平日。セグメント34のデートのすれ違いの翌々日、午後1時すぎ。(場所) 深沢が入院中の病室。(設定) 深沢良昭は、20代前半の男性。札幌にある広告会社・道南情報の社員。東京へ出張中の一昨日、恋人の亜紀子と待ち合わせたがすれ違いになり、帰ろうとする亜紀子の後を追って道に飛び出し、車にはねられた。この病院に入院している。村井亜紀子は、20代前半の女性。西北大学4年生。宮田愛は、深沢の出身大学・板橋経済大学の2年生。深沢と同じ民謡研究会の後輩。深沢と亜紀子の仲は知っているが、自分も深沢に思いを寄せている。同室の患者・広川猛は、50代の男性。同じく金沢省二是10代後半の男性。看護学生は、20代なかばのロシア人女性。

18'30" 病室。4人部屋。深沢、窓側のベッドに寝ている。入院患者用の病衣。左足にギプス。左の肩から上腕に包帯。頭にも包帯。隣のベッドは空いている。ベッドと窓の間に物入れの台。台と窓の間に松葉杖が立てかけてある。窓の外に畠や林が見える。通路をはさんで向かい側のベッドにパジャマを着た広川と金沢。広川は、右腕を三角巾で吊り、ベッドに上半身を起こして大福を食べている。金沢は、首にギプスをはめ、ベッドの上にあぐらをかいて雑誌を読んでいる。

18'41" 宮田、大きな花束を持って病室の入口に立つ。

宮田 (入口から深沢を見て) -001 **【接触の開始】**せーんぱい。

深沢 (入口の方を見て宮田を認め、右ひじを突いて上半身を起こす) -002 **【接触開始の受け入れ】**ん? -003 ああ、君か。

宮田 (深沢のベッドのすそを回り、窓側の横に近づきながら) -004 ええ、授業、さぼって来ちゃった。(花束を枕元の台に置きながら) -005 **【配慮の表明】**どうですかあ。

深沢 -006 うん、まあまあ。

宮田 (ベッドの横のいすにかけながら) -007 **【情報叙述の要求】**まだ、起きられないんですか。

深沢 -008 **【情報の叙述】**あと2,3日は歩いちやいけないって。

宮田 -009 **【情報叙述の要求】**退院は、いつごろになるんですか。

深沢 -010 **【情報の叙述】**あと十日ぐらいじゃないかなあ。

宮田 (たたみかけるように) -011 **【情報叙述の要求】**ねえ、どうして事故にあつたんですか。

深沢 (目をそらし、ことばを濁す) -012 **【情報の叙述】**え、いや、……ちょっと、待ち合わせに遅れそうになつて。

宮田 (意味ありげにうなずきながら) -013 ふーん。

19'14" 看護学生、入ってくる。白衣に白い帽子、胸に名札。紙ばさみをもつてゐる。金沢に絵はがきを渡し、向きをかえて深沢のベッドの脇、宮田と反対側に来て立つ。

看護学生 (深沢を見下ろして) -014 【情報の提供】深沢さん、あした、もう一度検査をしますから、午前中に。

深沢 -015 【情報提供への注目表示】はい。

看護学生 -016 【意志の表明】9時半ごろに、呼びに来ます。

深沢 -017 【意向への了解】わかりました。

19' 29'' 看護学生、入口から出でていく。入れ違いに、亜紀子、病室の入り口に立つ。小さい花束を持っている。宮田、亜紀子に気づき、肩をくめ、深沢に目で知らせる。深沢、入り口の方を見る。亜紀子、とまどいながら病室に入り、通りすがりに広川・金沢に軽く頭を下げてあいさつする。広川、会釈を返す。亜紀子、深沢のベッドのすそに近づく。

宮田 (立ち上がりながら、遠慮がちに) -018 【接触の終了】それじゃ、あたしは。

深沢 -019 【接触終了の受け入れ】ああ。-020 ……どうもありがとう。(宮田、頭を下げる)

(宮田、通りすがりに亜紀子に軽く頭を下げ、後ろをすり抜け、出でいく。亜紀子、軽く頭を下げ、見送って入口の方を見る)

深沢 (右手でいすを指す) -021 【行為のうながし】すわって。

亜紀子 (深沢を見て軽くうなずき、花束を差し出す) -022 【行為の合図】お花。(深沢の腕の包帯を見て) -023 あ、こっち、おいとくわね。(枕元の台においてある宮田の花束を奥に移し、手前に自分の花束を置き、いすにすわりながら) -024 【説明の要求】どこ、けがしたんですか。

深沢 -025 【事情の説明】ああ、(病衣の左そでを少し持ち上げながら) 腕は、たいしたことない。(左足を見る) -026 足は、骨が折れてて。

亜紀子 (深沢の左足を見てから、顔を見る) -027 痛いの?

深沢 (うなずく) -028 うん。-029 まだ、ちょっとね。

亜紀子 (深沢の頭の包帯を見る) -030 頭は?

深沢 -031 あ、(頭の包帯を右手の指で指す) これはちょっと切れただけ。

亜紀子 (一瞬間。うつむく) -032 【陳謝の表明】ごめんなさい。-033 わたし、全然気がつかなかつた。

深沢 -034 【感情への注目表示】いやあ、僕が間違えたせいだから。

20' 44'' 見つめ合う二人。向かい側のベッドから興味津々で見守る広川と金沢。金沢、読んでいた本をひざの上でぱたんと閉じる。大畠を口に入れようとしていた広川、口をぽかんと開けたまま金沢を見る。金沢も首を回し、広川を見る。

セグメント 38 夢なんです ー希望を述べるー (ストーリーⅡ「友達」(j))

登場人物 王崇梁 山田康浩

場面(1) (時) 9月下旬の木曜日、午前10時すぎ。**(場所)** 南海大学正門から構内への並木道。**(設定)** 山田康浩は、20代なかばの男性。南海大学国語学科の助手。王崇梁は、20代後半の中国人男性。南海大学大学院教育学専攻の大学院生。二人は、セグメント2で知り合って以来、友人として付き合っていたが、セグメント29で王が山田に原稿の日本語を直すことを頼んで行き違いになつてからしばらく接触がなかった。セグメント32で、王たちの学科の内田助教授が亡くなり、その通夜で久しぶりにことばを交わしてから、2週間ほどたっている。この日、山田は研究室へ出勤する途中。話題になる朴海煥は、韓国人男性。教育学専攻の大学院生で、王の先輩。内田助教授の指導を受けていた。

21'05'' 補装された歩道の片側に緑の葉をつけた大きな桜の木が並ぶ。反対側は、植え込みと林。山田、ショルダーバッグを左肩にかけ、構内に向かって歩いている。後ろから同じ方向に歩いてくる学生たち。山田、左腕の時計を見る。横断歩道を渡ったところで、王、横手の道から出てくる。

王 (山田の斜め後ろから) -001 【接触の開始】山田さん。

山田 (振り向いて立ち止まり、頭を軽く下げる) -002 【接触開始の受け入れ】ああ、おはようございます。

(王、山田と並んでいつしょに歩きだす)

王 (頭を軽く下げる) -003 【感謝の表明】お葬式の時は、どうも。

山田 -004 【感情への注目表示】いやあ。いろいろ大変だったでしょう。(王、うなずく)

山田、王を見る) -005 【情報叙述の要求】……研究室の整理なんかどうするんですか。

王 (山田を見る) -006 【情報の叙述】ええ、林教授がなさるそうです。

山田 -007 【情報叙述の要求】内田先生が指導なさっていた学生は? (王を見る)

王 (斜め前方を見たまま) -008 【情報の叙述】他の先生方が見てくださるそうですけど、朴さんなんか、すっかり元気をなくしてしまって。

山田 (前方下を見たまま) -009 【情報提供への注目表示】そうですか。-010 内田先生、いい先生だったようですね。

王 -011 【情報の叙述】ええ、……私の例の論文もね、(山田を見る) 読んでくださって、(山田、王を見る) これは非常におもしろい、いい観点だって、(山田、うなずく) 励ましてくださったんですよ。

(やや間)

21' 56" 王 (前を見たまま) -012 【事情の説明】国にとって、人がいちばん大切だと思うんです。-013 だから、教育学をやろうと思ったんです。-014 ……勉強しているうちに、学生を実際に教える先生を育てることがとても重要だと気がついたんです。

山田 (王を見る) -015 【説明の要求】それが、教育行政っていうわけですね。

王 (うなずく) -016 そうなんです。(顔を上げ、前方遠くを見る) -017 【意志の表明】わたくしはね、国へ帰ったら、学校の先生たちのために研修のシステムを作りたいんです。-018 新しい教え方を勉強できるようにね。

山田 (王を見る) -019 【意向表明への注目表示】……大変な仕事なんなるでしょう。

王 (ほほえみ、前方斜め上の方を見る) -020 【意志の表明】まあ、夢なんですよ。

山田 (うなずき、王を見る) -021 【意向表明への注目表示】ふーん。大きな夢ですよねえ。

22' 40" 二人、立ち止まる。

山田 (王の方に向き直る) -022 【説明の要求】王さん、今日は授業ですか。

王 (山田を見る) -023 【事情の説明】いえ、朴さんが話があるっていうんで。(時計を見る) -024 11時に会う約束です。

山田 -025 【提案の提示】じゃ、話が済んだら、僕の部屋に来ませんか。

王 -026 【要求への了解】え、後でお電話します。

22' 54" 王、左手を肩の高さに上げる。王、山田の前を横切り、上手に去る。山田、下手に去る。

セグメント 39 決めました 一決意を述べる一 (ストーリーII「友達」(k))

登場人物 王崇梁 朴海煥 山田康浩

場面(1) (時)前セグメントと同じ9月下旬の木曜日午後4時ごろ。(場所)前セグメントと同じ南海大学正門に向かう並木道。(設定)王崇梁は、20代後半の中国人男性。南海大学大学院教育学専攻の大学院生。山田康浩は、20代なかばの男性。南海大学国語学科の助手。朴海煥は、王と同じ大学院の先輩。この日の午後になって、朴と話をしていた王から山田の研究室に電話が入る。

23' 10'' 画面、先の学内並木道を門の方へ帰っていく学生たち。緑の茂る桜並木の枝。音声、王から山田への電話の声。

王 (電話の声のみ) (やや困った調子) -001 [行為の依頼] 山田さん、……ええと、朴さんの話……できたらいいしょに聞いてもらいたいと思うんですが。-002 ……今、エスポワールにいるんです。-003 来ていただけますか……

場面(2) (時)後刻。(場所)大学近くのスナック・エスポワールの店内。(設定)電話を受けた山田、王と朴のいるエスポワールに来ている。朴は、20代なかばの韓国人男性。セグメント32で亡くなった内田助教授の指導を受けていた。

23' 28'' エスポワールのマスター、ペーパーフィルターでコーヒーをいれている。すみの席の壁ぎわに朴、向かいに王、王の隣に山田、座っている。テーブルの上に紙ナプキン、砂糖入れ、灰皿、メニューなど。3人の前に、それぞれ水のグラス。朴と王の前には、それぞれコースターにのつた飲み物のグラス。3人、テーブルの上で両手の指を組んでいる。朴、テーブルに視線を落としたまま。

王 (山田を見る) -004 [事情の説明] 朴さんはね、この大学をやめるって言うんです。

山田 (意外そうな表情で朴を見る) -005 へえ。

朴 (目を上げ、山田を見てきっぱりと) -006 [意志の表明] 来月からアメリカへ行きます。

(山田、目を大きく開き、朴を見つめる) -007 [事情の説明] シカゴの近くの私立大学なんですけど、いい先生がいるんです。

マスター、盆に載せた飲み物を運んでくる。山田の前に紙コースターを置き、その上にアイスティー、そばにガムシロップとミルクの容器、紙袋に入ったストローを置き、去る。

24' 04" 山田 (あらためて朴を見る) -008 [説明の要求] 朴さんのテーマは、どんなことでしたっけ。

朴 (一瞬間。山田を見る) -009 [事情の説明] ええ、……教育には、必ずことばが使われるでしょう。(王と山田、軽くうなずく) -010 そのことばのことを研究したいんです。

山田 (やや不審そうにゆっくりと) -011 [説明の要求] ええと、言語教育っていうことですか。

王 (山田の方に向く) -012 [事情の説明] いえ、数学とか理科とか社会とか、ね。(朴を見てうなずき、同意を求める)

朴 (王にうなずき、山田に) -013 [事情の説明] 数学を教えるときに、どんなことばで説明すればいいか、どんなふうに表現すればわかりやすいか、といったことです。

山田 -014 [情報提供への注目表示] なるほど、(テーブルの上で右手首をたたくように動かす) 教育の手段としての言語。

(3人、うなずき合う)

朴 (山田に) -015 [事情の説明] それを研究していらっしゃったのが、内田先生でした。

山田 (目を伏せ、再び朴を見てゆっくりと) -016 [説明の要求] ……他に指導してくれる人はいないんですか。

朴 (目を伏せ、再び山田を見る) -017 [事情の説明] この大学ではむずかしいと思います。

(山田、王、目を伏せる) -018 国へ帰ろうかとも思ったんですけどね。-019 アメリカは、そういう研究が進んでるんですよ。

(山田、朴を見て軽くうなずき、納得した表情。山田、王を見る。王、視線を落とし、寂しそうな表情。山田、それを見て目を伏せる)

場面(3) (時)直後。(場所)同じエスポワールの店内。(設定)話し続ける朴、王、山田。

25' 08" 画面、テーブルを囲んで話す3人を真上から。音声、画面とは別の3人の会話。

山田 -020 [感想の叙述] 朴さんに会えなくなると、寂しいなあ。

王 -021 [感想の叙述] ええ、もっといろんなことを話したかったなあ。

朴 -022 [感情への注目表示] わたしも残念ですけど、……でもね。-023 ……[意志の表明] また日本にも来ますよ。

山田 -024 [意向の表明] せっかく友達になったんだから。これからもね。

王 -025 [意向の表明] ええ、ずっと友達ですよね。

セグメント 40 これからも…… 一退院一 (ストーリーIV 「恋人」 (h))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 広川猛 金沢省二 看護学生

場面(1) (時) 9月下旬の金曜日、午前11時すぎ。(場所) 深沢が入院していた病室。(設定) 深沢良昭は、20代前半の男性。札幌の広告会社・道南情報の社員。村井亜紀子は、20代前半の女性。西北大学4年生。深沢の恋人。二人は、深沢の東京出張の際に待ち合わせをしたがすれ違いになり、深沢は、帰りかけた亜紀子を追って道に飛び出し、車にはねられて入院していた。この日、退院することになっている。広川猛は、50代の男性。金沢省二は、10代後半の男性。二人とも、深沢と同室の入院患者。看護学生は、20代のロシア人女性。

25' 44'' 病室。深沢のベッドのそとに大きなスポーツバッグと紙の手提げ袋。広川と金沢、パジャマを着てそれぞれのベッドにすわり、互いのベッドの間に置いた将棋盤で将棋を指している。広川、右手を三角巾で吊っている。金沢、首にギプスをはめている。広川、盤面を指して「待った」をしようとするが、金沢は首を横に振って拒み、広川はむつとして金沢をにらむ。深沢、服を着て両脇に松葉杖をつき、広川と金沢に近づく。

深沢 (広川に) -001 【接触の終了】いろいろお世話になりました。(広川、金沢、深沢を見る)

広川 -002 【接触終了の受け入れ】おめでとう。(深沢、うなずく) -003 おれ、まだしばらくかかりそうだよ。

深沢 -004 お大事に。(広川、視線を盤にもどし、考えている。深沢、金沢の方に向きを少し変える) -005 【接触の終了】金沢さんも、お大事に。

金沢 (目を上げ、深沢を見る) -006 【感想の叙述】深沢さん、うらやましいよ。-007 僕もうもう退院したいなあ。(広川、盤面を見て考えていたが、駒をこっそり2手動かし、にやにやする)

深沢 (金沢に) -008 【感情への注目表示】焦らないほうがいいよ。-009 ゆっくり治してね。(金沢、軽くうなずき、盤面を見る。広川、金沢を見て動かした駒の位置を指し、にやにやし、どうだというような表情)

26' 10'' 深沢、向きを変え、通路の反対側の自分のベッドに近づく。看護学生、病室に入ってきた。深沢のそばに立つ。白衣に白い帽子。

看護学生 -010 【配慮の表明】あ、深沢さん、おうちの方はいらっしゃらないんですか。
(両手を前で重ねる)

深沢 -011 【感情への注目表示】ええ。-012 だいじょうぶですよ。

看護学生 -013 そうですか。-014 【行為の申し出】じゃあ、荷物、持ちましょう、玄関まで。(バッグと袋を取り、入口に向かう)かける)

深沢 -015 【行為の制止】あ、いや、いいんですよ。(右手を体の前に上げ、看護学生の後を追って1, 2歩進む)

(亜紀子、入り口に現れる)

看護学生 (亜紀子を見て立ち止まり、亜紀子と深沢を見比べる) -016 【意向への了解】あ、なんだ。-017 じゃ、いいですね。(荷物をもとのところに置き、振り向かずにしていく)

深沢 (後ろから看護学生に) -018 【接触の終了】お世話になりました。

26' 34'' 亜紀子、看護学生にやや深く頭を下げる。看護学生、軽く会釈してすれ違う。亜紀子、広川と金沢に軽く会釈しながら、深沢に近づく。

亜紀子 (深沢に) -019 【説明の要求】具合はどう?

深沢 (うなずく) -020 【事情の説明】うん、だいじよぶ。

亜紀子 -021 よかった。-022 【行為の合図】じゃ、荷物。

(亜紀子、深沢の体の横からベッドの荷物に手を伸ばす。深沢、よけようとして後ろへよろける。亜紀子、脇から支えようとして、深沢が亜紀子の肩に手を回す形になる)

広川 (亜紀子と深沢を見て) -023 ほおー。

金沢 (同時に) -024 わあー。

(深沢と亜紀子、広川と金沢の方を見て照れ、すぐ離れる。亜紀子、両手を胸に当て、うつむいて恥ずかしそう。深沢にこにこしている)

深沢 (亜紀子に) -025 【行為のうながし】行こう。

(亜紀子、深沢を見てうなずき、荷物を取り、広川と金沢に会釈して廊下に出る)

深沢 (広川と金沢に) -026 それじゃ、お大事に。

26' 58'' 広川、うなずく。金沢、右手をちょっと上げる。深沢、廊下に出る。待っていた亜紀子とうなずきあい、いっしょに去る。

場面(2) (時)直後。(場所)病院の玄関前。(設定)亜紀子が運転してきた車で退院する。

27' 09'' ガラスの自動ドア。車寄せに止めた亜紀子の車。深沢と亜紀子、ドアから出てくる。亜紀子、深沢の荷物を持ち、深沢、両脇に松葉杖を突いている。

亜紀子 (車の助手席のドアを開けながら) -027 【感想の叙述】ほんとに、心配したんだから。

深沢 (亜紀子の後ろに立ち、待つ) -028 【感情への注目表示】いやあ、失敗したよ。

亜紀子 (助手席の背を前に倒し、荷物を後部座席にのせながら) -029 [感想の叙述]でも、

よかったです、早くよくなつて。

(**亜紀子**、深沢から松葉杖を受け取り、後部座席に入れ、助手席の背をもどす。深沢、ドアとルーフフレールにつかりながら乗り込み、シートベルトをしめる。**亜紀子**、ドアを閉め、車の後ろを回つて運転席に座る)

亜紀子 (上半身を右にひねり、シートベルトを引き出してしめながら) -030 [冗談]わたしと付き合うのは骨が折れるでしょ。

深沢 (**亜紀子を見る**) -031 [感想の叙述]冗談じゃなくてさ。(前方を見る) -032 ……これからもねえ。-033 どうなるかなあ。

亜紀子 (ハンドルに手をかけ、右手でキーを回してエンジンをかけ、前方を見たまま) -034 [見解の表明]だいじょうぶよ、信じてるから。

深沢 (前方を見たまま) -035 うん。(**亜紀子の横顔を見る**) -036 ……そうだね。

亜紀子 (前方を見つめる) -037 だいじょぶよ。

28' 01" 車、走りだす。

場面(3) (時)後刻。(場所)都心への道。(設定)亜紀子と深沢を乗せた車、都心に向かう。

28' 04" 両側に街路樹の並ぶ4車線の道路。向こうに高いビル群。行き交うたくさんの車。画面手前から奥に向かって走る亜紀子の車。

『日本語教育映像教材 初級編「日本語でだいじょうぶ」』 作成関係者

(所属職名等は映像完成時平成8年3月1日現在)

【日本語教育映画等企画協議会委員】

- (所外委員) カッケンブッシュ寛子 (国際基督教大学教授)
高木裕子 (山形大学助教授)
土井真美 (国立国語研究所客員研究員)
山下早代子 (国際基督教大学講師)
山元啓史 (筑波大学助手)
- (所内委員) 相沢正夫 (日本語教育センター第1研究室長)
石井恵理子 (日本語教育研修室研究員)
熊谷康雄 (情報資料研究部第2研究室主任研究官)
杉戸清樹 (言語行動研究部第1研究室長)

【国立国語研究所内関係者】

- 水谷修 (所長) 甲斐睦朗 (日本語教育センター長)
西原鈴子 (日本語教育指導普及部長)
中道真木男 (日本語教育教材開発室長)
熊谷智子 (日本語教育指導普及部主任研究官)

【企画・シナリオ執筆協力者】

- 有賀千佳子 稲葉みどり 小川早百合 北野美穂 黒野敦子
田中真理 玉置亜衣子 寺田裕子 土井真美 四方田千恵

『日本語教育映像教材 初級編 「日本語でだいじょうぶ』
全4ユニット (40セグメント)

○ビデオテープ

(各ユニット約30分 全体で約2時間 各規格・方式に対応)

○関連教材 ·「シナリオ集」

·「語彙表」

·「解説書」

いずれも発売元は日本シネセル株式会社

日本語教育映像教材 初級編 「日本語でだいじょうぶ」
解説書

平成12年(2000年) 3月25日 発行

定価 1,890円 (本体価格1,800円、消費税90円)

企画・監修 国立国語研究所 日本語教育教材開発室

作成・発行 日本シネセル株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15

T E L. 03-3582-2691

F A X. 03-3589-3209